

M-17

東淺井郡私立教育會編纂

滋賀縣東淺井郡誌

全

滋賀縣東淺井郡私立教育會

新宣
風布

291.61
H494A



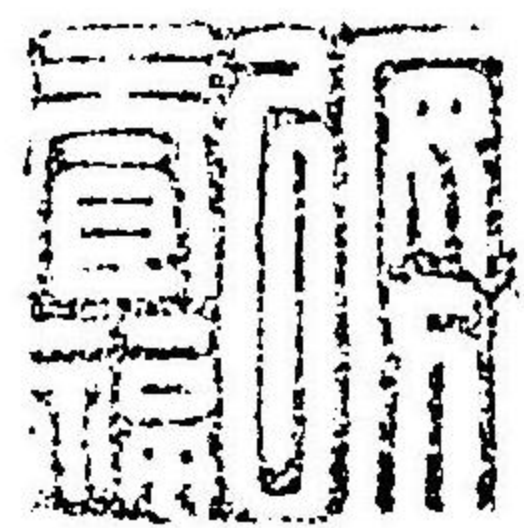
23772a

華 舊
谷

稔古語以代題之

時以治康子紀元節

湖山六十七翁不聖原



東淺井郡誌序

嘗聞蒙徒教授之法始於邇及於遠方今鄉
序觀地理歷史教授之法粗於邇而密於遠
詳於彼而略於此余甚惑焉頃日東淺井郡
教育會編纂郡誌欲以供小學教授之資料
及稿成請序於余受繙閱焉始詳述各村疆
域沿革山川古蹟人物生業物產交通等終
以全郡總說博搜收拾細大不遺能得其體

者而又余之素望足矣其勞可想其功可賞也爾今從事于育英者咀嚼玩味至採教材於此書乎其裨益于教育豈尠少哉乃陳所感以爲序

明治三十四年一月

滋賀縣東淺井郡教育會總裁

正七位 小川靜次郎

東淺井郡誌序

本會曩ニ郡誌編纂ノ議アリシモ其資ニ苦ミ躊躇未タ果ス能ハス偶東淺井郡會其舉ヲ美トシ郡費ヲ以テ資ヲ助ク是ニ於テ奮然議ヲ決シ上草野尋常高等小學校長中野卯一郎湯田尋常高等小學校長志水幸之助田根尋常高等小學校長水谷捨太郎虎姬尋常高等小學校長佐治祐藏

速水尋常高等小學校長天方治三郎ノ五
氏ヲ委員ニ舉ケ專ラ編纂ノ任ニ當ラシ
ム然ルニ其困難豫想ノ外ニ出テ文書ノ
拾收意ノ如クナラス徒ラニ時日ヲ費シ
遅カトシテ進マズ幸ヒニ委員諸氏ノ熱
誠ナル勞苦ヲ辭セス百難ヲ排シ奔走周
旋當初ノ目的ヲ遂達シ以テ裒然一帙ヲ
成スニ至レリ其經過ノ多難拙筆ノ盡ス

處ニアラス嗟呼徒ラニ其勞多ク其効寡
ク未タ慊焉タラサルヲ得サルモノアル
ヲ免レスト雖モ本郡ノ地勢及ヒ沿革等
ヲ類聚編纂セシモノ實ニ本書ヲ以テ嚆
矢トス而シテ其内容蓋太甚キ差繆ナキ
ヲ信ス彼ノ引證宏博考索明覈錙銖ヲ辨
析シ事歴ノ眞贋ヲ徵斷シ完璧大成ヲ期
スルカ如キ區々本會ノ能ク堪フル處ニ

アラサルヲ以テ識者ノ垂教叱正ヲ俟チ
漸徐改訂完備セシメントス然レトモ異
日本郡地誌若クハ歴史ヲ編纂セントス
ルノ士ハ資料ヲ此書ニ採ラサルヲ得サ
レハ亦疑ハサル處ナリ果シテ然ラハ斯
道ノ爲メ豈少補ナシト謂ハンヤ聊カ鄙
見ヲ陳シ以テ序トス

明治三十四年一月

滋賀縣東淺井郡教育會長

市川平太郎

緒言

曩ニ本郡教育會ニ於テ郷土誌編纂ノ議成リ予輩之ガ委員ノ任ニ膺ル是ニ於テ明治三十二年九月十八日相會シテ誌料ノ蒐集編纂ノ方法等ヲ定メ爾來各處ニ來往シテ調査ニ從事セリ同十一月一日初テ編纂ニ着手セシガ隨テ編スレハ隨テ誌料ノ不足ヲ感セシヲ以テ更ニ日ヲ期シテ蒐集調査ニ奔馳シ集ムルニ從ヒ復編纂ニ從事ス斯ノ如クスルコト十數回尙編纂ノ全ヲ得ズ然リト雖限アルノ時日ハ荏苒時ヲ移スヲ許サズ是ニ於テカ既集ノ誌料ヲ以テ一タビ編纂ノ終結ヲ告ゲンコトニ決シ遂ニ本日ヲ以テ本誌ヲ脱稿スルニ至レリ

本誌ヲ編纂スルニ方リ得ル所ノ誌料極メテ少ク漸ク近江輿地志畧近江輿地名略淡海錄淡海木間擢近江風土記殘冊近江名所和歌類集近江名跡案内淺井三代記平埜郷記淺井家譜小堀家滅亡始末

秀忠日記延喜式神名帳群書類從倭名鈔姓氏錄人名辭典其他各大
 字ノ記録社寺ノ縁起等ニヨリ取捨編綴セシト雖口碑傳說ニ採リ
 シモノ亦尠カラス而シテ其口碑ニ傳フル者ノ如キハ固ヨリ信偽
 ノ判定シガタキアリ殊ニ人物傳ノ如キハ到底其全豹ヲ悉ス能ハ
 サルノミナラズ或ハ全ク遺漏セル者ナキニシモアラザルヘシ故
 ニ今茲ニ編テ竟フト雖他日識者ノ斧正ヲ俟テ更ニ校訂増補スル
 ニアラズンバ其完璧ヲ得ル能ハザルナリ冀クハ愛郷ノ士之ヲ諒
 シ以テ予輩編者ノ素志ヲ果サシメラレンコトヲ筆ヲ擱クニ臨ミ
 一言ヲ附記スト云爾

郷土誌編纂委員

水谷捨太郎
 天方治三郎
 中野卯一郎
 志水幸之助
 佐治祐藏

明治三十三年一月二十日

凡例

- 一本誌ハ兒童用教科書ノ參考ニ供センガタメ編纂セシモノナリ
- 一本誌中統計ニ關スルコトハ舊石高ヲ除クノ外スベテ明治三十二年
 十二月末調査ニ由ル
- 一各村ノ面積ハ道路鐵道河川ヲ其中ニ積算セズ
- 一本誌中ノ人物ハ孝子節婦等ノ旌表スベキ者ノ外ハ皆故人ニツキ其
 性行ノ顯著ナル者ノミヲ記載セリ
- 一本誌結論ハ各村誌中ノ全郡ニ關スル事項ヲ連結統合セリ

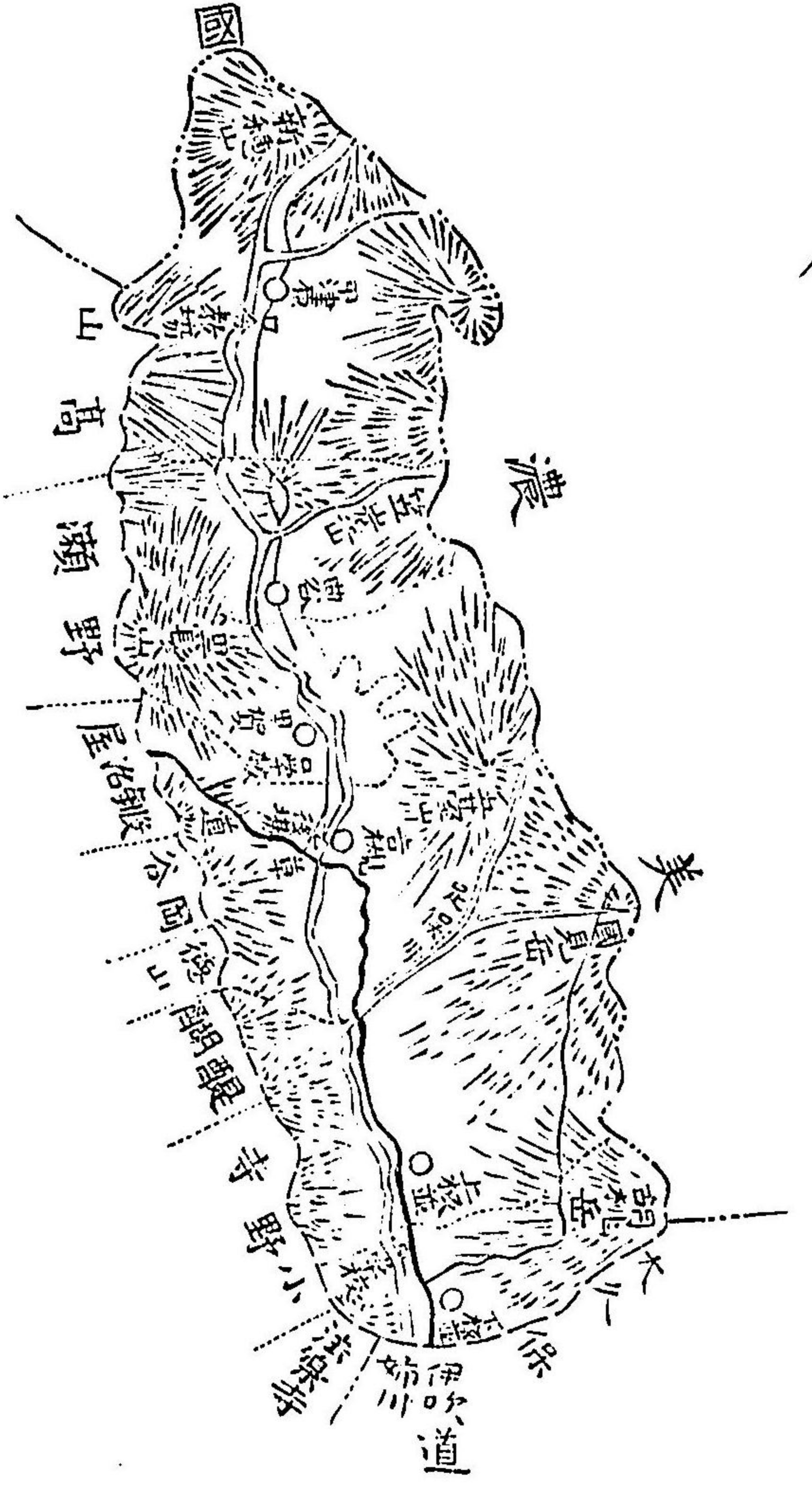
索引

項目	村名	位置	面積	戶數及人口	區劃	地勢	官衙及公署	學校	神社	佛閣	古跡	人物	生業
	東草野	一	一	一	二	二	六	六	八	九	一〇	一三	一三
	上草野	一九	一九	一九	二〇	二〇	二二	二四	二五	二七	二九	三〇	三〇
	下草野	三七	三七	三七	三六	三六	四〇	四一	四二	四三	四四	四六	四七
	七尾	五五	五七	五五	五六	五六	六〇	六〇	六二	六三	六三	六五	六六
	湯田	七七	七七	七七	七六	七九	八三	八三	八四	八七	九〇	九三	九六
	田根	一〇七	一〇九	一〇七	一〇八	一〇八	一一一	一一一	一一二	一一六	一二八	一二三	一二五
	小谷	一三五	一三五	一三五	一三六	一三七	一三九	一四〇	一四二	一四四	一四七	一五二	一六一
	虎姬	一六九	一六九	一六九	一七〇	一七〇	一七三	一七四	一七六	一七八	一八三	一八六	一九二
	速水	二〇一	二〇一	二〇一	二〇一	二〇三	二〇四	二〇五	二〇六	二〇七	二〇九	二二三	二二八
	竹生	二二七	二二七	二二七	二二六	二二六	二二九	二三〇	二三二	二三三	二三七	二四〇	二四三
	朝日	二五三	二五三	二五三	二五四	二五五	二五七	二五七	二五八	二六〇	二六三	二六五	二六七
	大郷	二七五	二七五	二七五	二七六	二七七	二八〇	二八一	二八三	二八六	二八九	二九二	二九九

地質	産物	交通	沿革	住家取調表	産物取調表	徳川時代	高取調表
一三	一三	一三	一三	一四	一五	一六	一六
三三	三三	三三	三三	三三	三三	三五	三五
四四	四四	四四	四四	五三	五三	五四	五四
六六	六六	六六	六六	七三	七三	七四	七四
九九	九九	九九	九九	一〇三	一〇三	一〇四	一〇四
一一五	一一五	一一五	一一五	一三〇	一三〇	一三一	一三一
一六二	一六二	一六二	一六二	一六五	一六五	一六七	一六七
一九二	一九二	一九二	一九二	一九六	一九六	一九八	一九八
二二八	二二八	二二八	二二八	二三三	二三三	二三四	二三四
二四三	二四三	二四三	二四三	二四九	二四九	二五二	二五二
二六七	二六七	二六七	二六七	二七一	二七一	二七三	二七三
三九九	三九九	三九九	三九九	三〇一	三〇一	三〇二	三〇二

備考 数字ヲ記セルハ「ペーシ」ヲ表ハスモノナリ

東草野村圖



東草野村誌

位置

東草野村ハ本郡ノ東北極ニ位シ東西北ノ三方ハ山脈圍繞シ東北ハ美濃國ニ西ハ上草野村大字岡谷、殿治、野田、高山下草野村大字磯山、磯、小野寺及七尾村大字法樂寺ニ南ハ坂田郡伊吹村大字大久保ニ界ス

面積

八千百三十町六反五畝十八步

内

田 百四十一町七反五畝二步

畑 四十三町二反九畝十九步

郡村宅地 十八町九反三畝二十五步

山林原野 七千八百八十五町一反二畝二十七步

其他 四十町九反二畝十步

戸數及人口

戸數 三百九十九戸

人口 一千九百四十七人 内男九百八十八人 女九百五十九人

區劃

本村ヲ吉槻、甲賀、曲谷、甲津原、上板並、下板並ノ六大字ニ分ツ

各大字名稱沿革

曲谷ハ往古ノ沿革詳ナラズト雖正平三年ノ頃ヨリ上津原今ノ甲津原甲賀及本村ノ三部ニ分レタリトモ云ヘリ

上板並下板並ハ元伊丹波ト書シ一村ノ如クナリシガ正平三年ノ頃ヨリ上板並下板並ノ二村ニ分レタリトモ云ヘリ

地勢

東西一里餘南北殆四里三方皆山岳ニシテ溪谷ノ地ナルヲ以テ高低甚シ姉川ハ本村ノ中央ヲ貫流シ灌溉ノ利多シ

山

胡桃岳ハ伊吹山ノ北ニ延ビタル山脈ニシテ下板並ノ東極美濃國境ニアリ
國見峠ハ胡桃岳ノ北ニ續ケル山脈ニシテ美濃國ニ至ル賀須川越ノ坂路アリ

泣尾山ハ上板並ニアリ國見峠ニ連ル (古蹟参照)

五臺山ハ吉槻ノ東ニアリテ伊吹山ノ支脈ナリ

黒髮山ハ一ニ黒岩山ト云フ甲賀ノ北ニアリ西面ハ上草野村大字ニ屬シ北面ハ甲賀ニ屬スル入會山ナリ

笠岩岳ハ曲谷ノ東北ニアリテ二派ニ分レ一ハ美濃國ニ至リ一ハ曲谷ニ屬ス

新穂山ハ甲津原ノ東北ニアリテ高伊吹山ニ次グ美濃國ニ通ズル坂路アリ

以上諸山ノ他ニ尾戸山七尾山等數十百ノ高峯アリト雖記事繁雜ニ涉ルヲ以テ今茲ニ記セズ何レモ峻峻ニシテ雜木繁茂セリ

川

姉川ハ甲津原ノ中津山及瀬戸山ノ溪間ヨリ發源シ本村ノ中央ヲ南流シテ坂田郡大字ニ入ル其長殆四里願急流ナリ

足俣川ハ美濃國境ノ山脈中ヨリ發シ吉槻上板並ノ境ヲ流レテ姉川ニ入ル
上板並ニ鑛泉アリ明治三十一年八月二十五日發見スコノ鑛泉ハ綠礬泉ニシテ醫治効用アリト云フ大坂衛生試驗所定量分析成績表左ノ如シ

滋賀縣東淺井郡東草野村大字上板並

依頼人 草野惣太郎

外 二 名

第三七六號

●一礦泉 滋賀縣東淺井郡東草野村大字上板並地内南尾附湧出

壹種 八塚

定量分拆醫治効用

當所へ差出サンタルモノハ微シ赤褐色ヲ帶ビタル無臭ノ泉水ニシテ壘底ニ多量ノ赤褐色ヲ拆出ス
比重ハ攝氏十六度ニ於テ一〇〇六ナリ之ガ定量分拆ヲ遂クニ本水每一千「グラム」(一「グラム」ハ
我二分〇六毛余ニ當ル)中六二八三七「グラム」ノ固形物ヲ檢出シ而其主要成分ノ「グラム」量ハ左
ノ如シ

硫酸加倍謨	〇、〇一二
硫酸那篤留謨	〇、一七三
硫酸加爾更謨	〇、八八八
硫酸鐵	三、三七九

硫酸亞爾蜜紐謨

〇、五一〇

珪酸

〇、〇七六

格魯兒

痕 跡

硝酸

同 上

硼酸

同 上

滿淹

同 上

里玄謨

同 上

遊離硫酸

〇、三一〇三

右試驗成績ニ據レバ此礦泉ハ綠礬泉ニ屬スルモノトス

醫治効用

浴用 健麻質斯皮膚病子宮粘膜炎加答兒又約三倍量ノ水ニテ稀釋セル後左ノ疾病ニ内服スルヲ
得

内用 貧血慢性神經病神經衰弱症慢性下痢

但腦充血及心肝腎肺臟等ノ重症ナルモノニハ飲用ス可ラズ

明治三十二年一月十八日

内務省大坂衛生試験所所長

衛生試験所技師 辻 岡 精 輔

主任

衛生試験所技師 廣 坂 卯 之 助

官衙及公署

東草野村役場ハ大字吉槻ニアリ明治十八年七月一日吉槻甲賀曲谷上板並下板並ノ六ヶ村聯合シテ役場ヲ設置シ吉槻村外五ヶ村戸長役場ト稱セシガ町村制實施ト共ニ同二十二年四月一日ヨリ東草野村役場ヲ置ク

巡查駐在所ハ大字吉槻ニアリ明治二十年以前ハ鍛冶屋交番所ノ所轄ナリシガ同二十年三月十日速水警察署巡查駐在所ヲ設ケテ全村其所轄トナレリ

學 校

東草野第一尋常小學校ハ大字甲津原ニアリ明治八年四月一日ノ創立ニシテ其頃ハ甲津原學校ト稱シ一村ノ通學區域ナリシガ同十年三月吉槻村設立東谷學校ノ支校トナリ同十七年十月二十日同校ヲ分

離シ更ニ博審學校ト改稱セシガ同十九年十一月一日簡易科博審小學校ト改メ其後同二十六年一月十日東草野第一尋常小學校ト稱スルニ至リシガ同二十六年十一月十七日之ヲ廢シ同時ニ東草野第二尋常小學校甲津原分教場トナセリ

東草野第二尋常小學校ハ大字甲賀ニアリ明治十九年十一月一日ノ創立ニシテ其頃ハ簡易科東谷小學校ト稱シ通學區域ハ甲賀吉槻曲谷ノ三ヶ村ナリシガ其以前ハ吉槻村設立東谷學校ノ支校ニシテ曲谷ニハ博智學校アリテ各一村ノ通學區域ナリシト云フ其後同二十六年一月十日東草野第二尋常小學校ト改稱シ同二十六年十一月十七日東草野第一尋常小學校ノ廢校ト同時ニ同校ヲ本校ノ分教場トシ通學區域ハ吉槻甲賀曲谷甲津原ノ四大字トナリタリ而シテ分教場ハ甲津原一大字ノ兒童ヲ通學セシムルコト、セリ現今ハ二學級ニシテ在籍兒童數尋常科百三十人講習科二十二二人合計百五十二人ナリ

東草野第三尋常小學校ハ大字下板並ニアリ明治八年四月ノ創立ニシテ板並學校ト稱シ通學區域ハ上板並下板並ナリシガ同十年五月吉槻設立東谷學校ハ合併シ其支校トナリ又同十七年九月同校ヲ分離シ更ニ板並學校ヲ設置シ同十九年九月簡易科板並小學校ト改稱セリ同二十年二月坂田郡大久保村立簡易科誠意小學校ハ聯合セシガ同二十一年七月之ヲ分離シ簡易科板並小學校ヲ設置ス同二十六年一月十日東草野第三尋常小學校ト稱セリ現今ハ單級ニシテ在籍兒童數六十二人ナリ

神社名	祭神	社格	勸請年月	所在地
天満社	菅原道真	村社	不詳	甲津原
白山神社	伊弉冉尊	同	同	曲谷
白山神社	伊弉冉尊	同	同	甲賀
吉野神社	瀬織津姫命	同	同	吉槻
春日神社	大己貴命	同	同	上板並
春日神社	素盞烏命	同	同	下板並
八坂神社	健速須佐之男命	同	同	甲津原
春日神社	天兒屋根命	無格社	同	曲谷
住吉神社	底筒男中筒男表筒男	同	同	同
天満社	菅原道真	同	同	同
東照宮社	徳川家康	同	同	吉槻
白山神社	伊弉咩命	同	同	上板並
長谷神社	伊弉諾命	同	同	下板並
諏訪神社	觀世音像ノ守	同	同	上板並

備考

諏訪神社ハ一ニ乳ノ宮ト稱ス大字上板並ニアリ往昔武田勝頼滅亡ノ時從卒甲斐沼某主人ノ秘藏セ
 ラレシ守リ(觀世音像ニ似タルモノ)及ビ武器乘鞍鎗劍一振(長サ三尺七八寸)ヲ拜領シタリシガ其
 後乘鞍馬具ハ燒失セリ其守リハ即チ諏訪神社ノ祭神ニシテ七尾山ノ麓ニ安置ス境内ニ一株ノ老公
 孫樹アリ乳房様ノ瘤ヲ生ズコノ瘤ヲケツリテ煎用スレバヨク乳汁ヲ出スノ効アリト云フヲ以テ遠
 近ヨリ參拜スルモノ多シ之レ乳ノ宮ト稱スル所以ナリ

佛閣

寺名	宗派	開基年月日	開祖	所在地
行徳寺	真宗大谷派	永正二年十月十五日	僧明觀	甲津原
圓樂寺	同	明應三年三月	同宗海	曲谷
觀行寺	同	永正二年三月十二日	同恩長	甲賀
光泉寺	同	明應三年七月廿一日	同西定	吉槻
万傳寺	同	天正十五年五月	同頓正	上板並
善力寺	同	慶長八年十月	同淨海	下板並

備考

万傳寺

縁起ノ畧ニ曰ク祖先小松倉之丞高嶋城主ニ仕ヘ故アリテ伊吹山麓伊丹波ノ里ニ來リ室谷天台ノ精舎ニ住シ室谷内膳ト改名シテ隱遁セリ天正元年石山本願寺ノ家臣松井外記ト云フ者アリ倉之丞ガ高嶋ニアリシ時ノ縁故アルヲ以テ尋ネ來リ信長我が本願寺ヲ攻ムルト急ナレバ協力教如上人ヲ保護センコトヲ請フ茲ニ於テ誓詞ヲ立テ上人ノ爲ニ大ニカムル所アリ上人嘉賞セラレ依テ親シク化導ヲウケ剃髮ス名ヲ即心坊頓正ト賜フ幾何モナク効績ヲ万代ニ傳ヘヨトテ寺號ヲ万傳寺ト賜ヘリ爾後今ニ至リ宗跡絶エズト云フ

此寺開基ノ頃下板並大久保小泉ノ各地ニ道場ノ如キモノアリ教如上人當地ニ巡錫ノ時優待ノ報トシテ慶長六年上下兩板並大久保小泉ノ四ヶ所ニ組合佛ヲ賜ハル組合佛ハ万傳寺善力寺及坂田郡現今大字大久保小泉ノ或三ヶ寺ト遞番ニ奉安シ月々右五ヶ寺ノ僧侶相集リ讀經スト云フ

古跡

秀吉ノ居址

姉川戰後秀吉曲谷村ノ民家ニ住セラレシ時莊内三郷ノ住民忠節ニ仕ヘタルヲ以テ後豐臣氏ノ世ニ

至リ判物ヲ下附セラレ且當時給仕セン侍女ヲ此里ヨリ召シ秀頼ノ台所給仕トシ梅千代ト號セシガ後此里ニ歸リ死亡スト云フ其判物寫左ノ如シ

口上

草野三郷事先年忠節仕付テハ今度之御檢地被相除如有來被仰付候條各成其意忝可存候也

木下 半介

天正十九卯月廿五日

長盛 花押

板並吉槻曲谷百姓中

泣尾山

古昔高野ノ聖僧美濃國ヨリ此所ヲ通過セントシ頗飢渴シテ水ヲ求ムルモ得ズ漸ニシテコノ河流ヲ發見シ悦ビ極マリテ泣キ死セリト依テ此地ヲ泣尾ト云フ村人此所ヲ墓地トシ五尺餘ノ石碑ヲ建ツ老樹ノ圍リ七八尺ナルモノ數多アリト云フ

郷司屋敷跡

平治ノ亂後源義朝子頼朝ト關東ニ逃レントシ甲津原ニ來ル頼朝幼ニシテ險路ニ堪ヘ難キヲ察シ之ヲ捨テントス草野ノ莊司定康之ヲ憐ミ大吉寺ニ隱シ義朝ヲ嚮導シテ郷司某ガ家ニ來リ休息セシム

郷司義朝ヲ導キ深谷山ヲ越エ尾陽へ赴ク途ニシテ石南花ノ咲乱レタルヲ歎賞シ以後石南花獄ト名ク進ンテ深山幽谷ヲ經テ美濃國ニ至リ義朝ニ別レテ歸リシト云フ郷司ノ宅跡石南花獄ニ連續シ郷司屋敷ト稱ス

舞臺跡

甲津原ニアリ往古美濃ノ人廣瀬兵庫ト云フモノ豊臣秀吉ノ母ヲ此谷ニ招キ舞樂ヲナセリ其跡ヲ舞臺跡ト云フソノ舞樂ニ用ヒシ樂器ノ今ニ存スルモノ御面九面鼓大小二個ナリ

此面ハ上古泰河勝紫宸殿前ニテ舞技ヲ演スルニ用ヒタルモノナリト舊記ニ見ユ後數十百年ヲ經テ此地ニ移リ淺井久政ノ時土民暫々召サレテ舞技ヲ演シ麻上下ヲ拜領シタルコトアリト云フ徳川氏ノ末ニ至リ代官石原清左衛門面堂ヲ再建シ此ノ舞具ヲ納ム

人物

船川仙左衛門

船川仙左衛門ハ通稱尾佐九ト云ヒ甲津原ノ人幼少ノ頃江戸白木屋ニ丁稚奉公セリ性書畫ヲ好ミ年長スルニ及ビ太田南畝(蜀山人)ノ門弟トナリ専心斯道ヲ勵ミ文政元年ノ頃其師ヨリ諫鼓堂ノ雅號ヲ受ケタリ後故郷ニ歸ル時多ク師ノ書畫ヲ携ヘ歸レリ淺何モナク大阪ニ移住シテ死セリト云フ百

人一首其他著書數多アリト云フ

生業

本村ハ山間ニ僻在スルヲ以テ古來山業ノ傍馬鈴薯類ヲ培養シ來リシガ近世ニ至リ人口ノ増殖ト共ニ漸次開墾ヲ勉メ田畑ヲ耕シ傍發齋ヲ營ミ其他薪炭類ヲ製スルヲ以テ業トセリ

地質

多クハ礫質壤土(秩父古生層)ニシテ一部ハ花崗石ニ屬ス

産物

産物ノ主ナルモノハ穀物、薪炭、栗、繭、山芋等ナリ

交通

縣道

草野道ハ吉槻ヨリ坂路ニテ上草野村^{大字}岡谷ニ通ズル道路ナリ

伊吹道ハ吉槻ヨリ上板並下板並ヲ經テ坂田郡伊吹村^{大字}大久保ニ通ズル道路ナリ

沿革

本村ハ元東草野莊ト稱シ古來莊名ノ變革ナシ

管轄

本村ハ古來ノ沿革詳ナラズト雖モ中古足利氏ノ頃ハ京極氏ニ屬セシガ永正年間淺井亮政(備前守)之ニ代ル孫長政織田氏ニ滅ボサレテヨリ木下秀吉ノ領地ニ入ル(其後不詳)徳川氏ニ及ンテ小室城主小堀正一(備前守)ニ屬セシガ寛政元年ヨリ代官石原清左衛門之ヲ治メ弘化二年ニ至リ代官多羅尾久右衛門之ニ代ハル王政維新ニ際シ明治元年甲津原曲谷甲賀吉槻ノ四ヶ村ハ大津縣支配所ニ屬シ又上板並下板並ノ二ヶ村ハ小堀政尹ノ采地トナル同四年十一月此等ノ支配ヲ廢セラレ長濱縣下トナリ同五年二月同縣廢止ト同時ニ犬上縣ニ屬シ同年十一月同縣廢止ト共ニ滋賀縣ニ合併セラレタリ

住家取調表

住家所有區別		住家構造區別		住家屋上區別	
種別	棟數	種別	棟數	種別	棟數
持地持家	三八三	木造	四〇四	瓦葺	一〇九
借地持家	一六	土藏造	一	板葺	三八
持地借家	五	煉瓦造		コケラ葺	三二〇
借地借家	〇	石造		葺	四九五
					七二八二

産物取調表

種別	合計	合計	合計
米	一七一四〇〇 <small>石</small>	四〇五	四〇五
薪炭	九二〇〇〇 <small>石</small>		三二一〇〇 <small>石</small>
酒	四〇〇〇〇 <small>石</small>		二二〇〇〇 <small>石</small>
生糸	三六〇〇〇 <small>石</small>		一六〇〇〇 <small>石</small>
醤油	一三二〇〇 <small>石</small>		四三二〇〇 <small>石</small>
麥	三六〇〇〇 <small>石</small>		
繭	八五〇〇 <small>石</small>		
桑	四三〇〇 <small>石</small>		三〇〇 <small>石</small>
木材	一〇〇〇 <small>石</small>		
茶	一〇〇〇 <small>石</small>		
夏蠶種			
合計	四〇五	合計	六四一
			八二七六

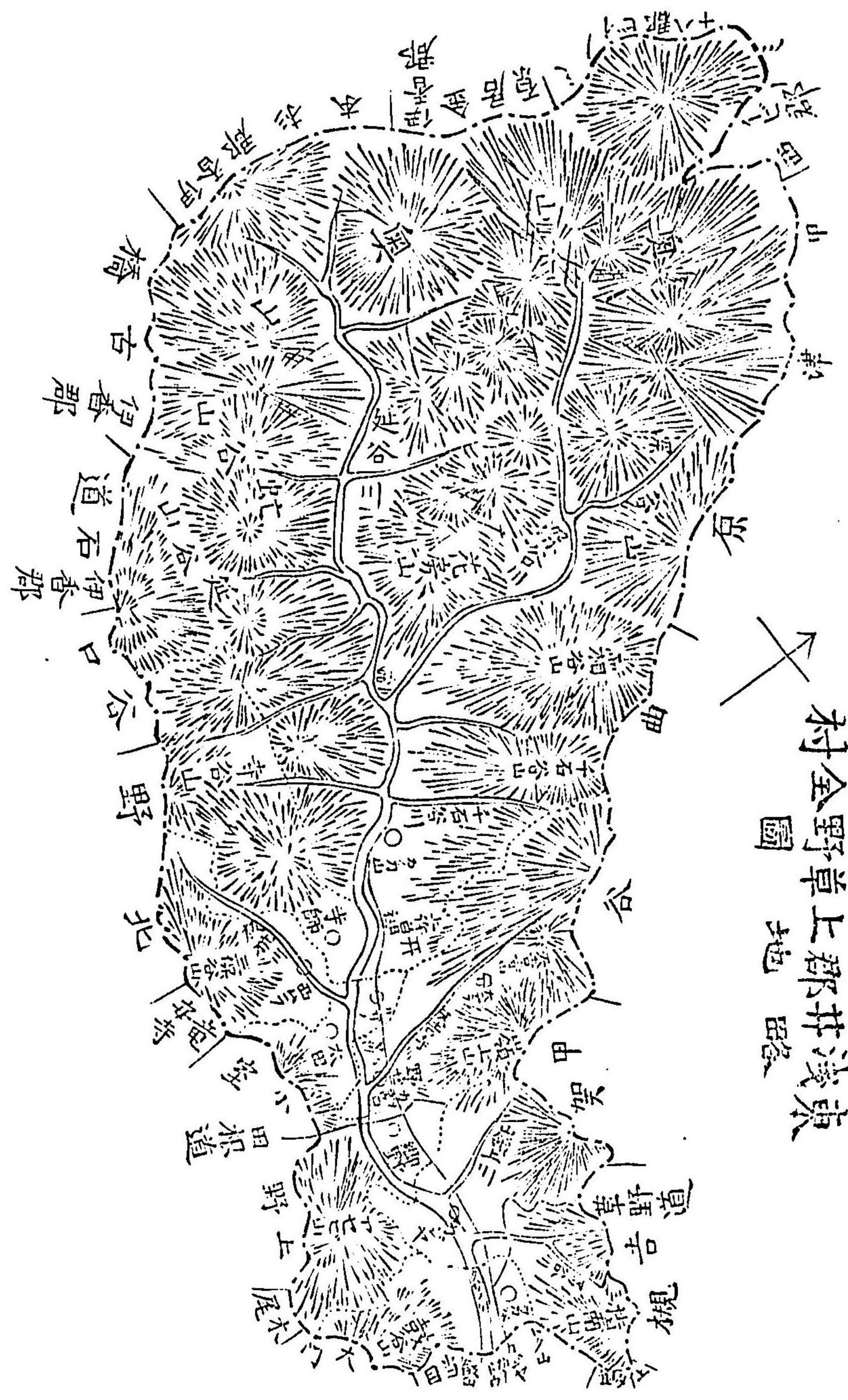
徳川時代石高取調表

村名	徳川氏ノ初代	元祿年間	享保年間	寛政年間
吉 槻	四九四 ^ナ 七三八 ^合	四七二 ^ナ 九六〇 ^合	四七三 ^ナ 四九〇 ^合	
甲 賀	一四五〇六二	一三四八四〇	一三六一〇〇	
曲 谷	二四五 ^{一〇〇}	二二〇三九〇	二二一〇〇〇	
甲 津原	三一八〇三〇	二五四七九〇	二六三〇〇〇	
上 板 並	三〇〇九一六	二一九九三〇	二一九九三〇	
下 板 並	一五二六七四	一〇三二六〇	一〇三二二〇	
合 計	一六五六五二〇	一三九六一七〇	一四一六七三〇	

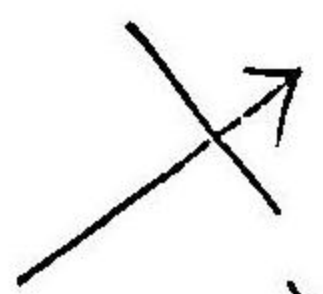
明治以後地價取調表

大字名	明治二十二年以前ノ地價	明治二十二年修正地價	明治三十三年修正地價
吉 槻	二〇〇七六 ^ナ 二〇 ^合	一七八〇四 ^ナ 四六 ^合	一三八六六 ^ナ 四八 ^合
甲 賀	五三〇二四二	四六八七六八	三六九九〇五
曲 谷	一三一〇六八九	一一三八四二三	八六七三四六

甲 津原	上 板 並	下 板 並	合 計
一一六三一 九八	一八三八〇 五〇	七七七五 一一	七六二七三 一〇
九三九六 六一	一五九一八 六二	六七五七 四四	六五九九九 〇四
七九八二 四二	一二三四五 〇二	五五七一 六六	五二〇三八 〇九



東井郡上野全圖
地圖



上草野村誌

位置

上草野村ハ本郡東北部ノ山間ニシテ東ハ東草野村大字上板地及下草野村大字徳山西、田根村大字小室、龍安寺、北野、谷口、伊香郡高時村、古橋大字石道、杉野村大字杉本、金居原大字常目、飯山、大門、田根村大字木尾、北ハ東草野村大字曲谷、及美濃國ニ界ス

面積

一千六百五十六町四反六畝十七步

内

田 百二十一町八反十九步

畑 二百六十一町七反八畝二十二步

郡村宅地 三十七町四反五畝二十步

山林原野 一千二百三十三町八反四畝二十三步

其他 四百二十二町六反一畝二十四步

戸數及人口

戸数 八百戸

人口 四千四百五十一人 内男二千二百八十八人 女二千七百七十一人

區劃

本村ヲ野瀬、草野、高山、寺師、西、大田、郷野、鍛冶屋、岡谷ノ九大字ニ分ツ

各大字名稱沿革

野瀬ハ往古押谷村ト稱セシガ其野瀬ト改稱セシハ何ツノ頃ナルヲ知ラス

草野ハ往古中村ト稱セシガ明治七年十月二十四日草野ト改稱セリ

大田ハ往古ヨリ慶長六年マデ下西村ト稱ヘ西村ノ一部ナリシガ翌七年檢地ノ節奉行三浦庄兵衛ノ命

ニヨリ田村ト改メ明治七年十月二十四日更ニ大田ト改稱セリ

郷野ハ古昔綾ノ郷古屋村ト稱セシガ後郷野ト改稱セリ

鍛冶屋ハ上古草香部ト稱セシガ何ツノ頃ヨリカ草野村ト改稱セリ莊名ノ起ルニ及ビ鍛冶屋ト改メラ

レタリ

岡谷ハ古昔岡本村ト稱セシガ其後年アリ岡谷ト改稱セリ

地勢

東西十五町餘南北三里餘地形狹長ニシテ山脈圍繞シ草野川本村ノ中央ヲ貫流ス其沿岸僅ニ平地アルノミニシテ高低一樣ナラス南方僅ニ長濱ニ通スル一路アルノミ

山

千石谷山霜谷山深谷山ハ大字高山ニアル山脈中ノ高峯ニシテ東北部ニアリ

延谷山蛇谷山花房山ハ大字高山ノ西北部ニアル山脈中ノ高峯ナリ

以上諸山ハ何レモ峻峻ニシテ雜木繁茂セリ

奥山ハ大字高山ノ北部伊香郡ニ連續セル山ノ總稱ニシテ上草野村下草野村(西主計ヲ除ク)七尾村四ヶ字(保樂寺北池南池佐野)及伊香郡北富永村ノ馬上高時村ノ三字(高野石道小山)共有民林ナリ

寺谷山ハ大字寺師ニアルニ等國有林ニシテ領主小堀遠江守ノ代ニハ御林山トシテ伐木ヲ禁止セラレタリ

三保谷山ハ大字西村ニアリテ西村大田ノ共有山ナリ

天吉寺山ハ大字野瀬ノ北方ニアリ古昔九十九坊ノ寺院アリシト云フ現今ハ二宮八民ノ部分林ナリ

アセヒ山ハ大字郷野ニアリ大アセヒ小アセヒノ二山ニ分カル山中水田多ク全山樹木少ク上草野村

(郷野)下草野村(東野飯山當目乘倉東主計)ノ共有山ナリ

嶺上山ハ大字鍛冶屋郷野ノ間ニアリ明治二十二年以前ハ全山元山ニシテ霖雨毎ニ土砂ノ流出夥シカ
リシガ同二十三年一月其組合所有ノ上草野村(鍛冶屋郷野)下草野村(當日飯山乘倉東野東主計)ト組
合規約ヲ設ケテ國土保安ノ爲メ保安林ニ編入スルノ許可ヲ得タリ以後毎年植樹セシテ以テ現今ハ樹
木大ニ繁茂セリ

指南山ハ大字鍛冶屋ニアリ古來上草野村(鍛冶屋)下草野村(西主計ヲ除ク)七尾村(保樂寺北池南池
佐野)ノ共有ノ秣山ナリ

鼓谷山ハ大字岡谷ニアリ明治二十三年一月國土保安林ニ編入セラレタリ其共有組合村ハ上草野村
(岡谷)下草野村(飯山當日大門乘倉)ノ二ヶ村ナリ

川

草野川ハ大字高山ノ深谷山延谷山等群峯ノ溪間ヨリ出ヅ其深谷山脈ヨリ出ヅルモノヲ深谷川延谷山
脈ヨリ出ヅルモノヲ延谷川ト云ヒ花房山ノ南端ニ至リ相合シテ草野川トナリ南流シテ本村ノ中央ヲ
貫キ下草野村ニ入ル

明治二十九年大洪水ノ際人家又ハ田畑ヲ流失セシメ被害甚シカリシテ以テ同二十九年十月八日特
ニ待從東園基愛ヲ水害視察トシテ差遣サレタリ

千石谷川ハ大字高山ノ千石谷ヨリ發シ草野川ニ入ル

板杭川ハ大字寺師ノ寺谷及大字西村ノ三保谷ヨリ出デ西村ニテ相合シ大字太田ニ至リテ草野川ニ入
ル

天吉寺川ハ大字野瀬ノ奥ノ谷ヨリ出デ、草野川ニ入ル

嶺上谷川ハ大字鍛冶屋ノ嶺上谷ヨリ發シ草野川ニ入ル

松谷川ハ大字鍛冶屋ノ松谷及指南谷ヨリ出デ、草野川ニ入ル

以上諸川ハ明治二十九年大洪水ノ際人家又ハ多クノ田畑ヲ流失セシメタリ

沼

青路沼ハ大字鍛冶屋ノ北端ニアリ此沼ヨリ湧出スル水ハ青路井川トナリ鍛冶屋全部ノ飲用水トナル
官衙及公署

上草野村役場ハ大字野瀬ニアリ明治十八年七月一日野瀬草野高山寺師西大田郷野鍛冶屋岡谷ノ九ヶ
村聯合シテ役場ヲ設置シ野瀬村外八ヶ村戸長役場ト稱セシガ町村制實施ト共ニ同二十二年四月一日
ヨリ上草野村役場ヲ置ク

巡查駐在所ハ大字鍛冶屋ニアリ明治十四年十月始テ鍛冶屋ノ民家ヲ假用シ長濱警察署ノ分署ヲ設置

セラル其後同村ノ有志者各寄付金ヲ出シ以テ一ノ家屋ヲ新築シテ官ニ納ム同十六年九月分署ノ廢止ト同時ニ之ニ移リ交番所ト稱セラル同二十年三月十日速水警察署巡查駐在所ト改メラレ鍛冶屋郷野野瀬草野高山寺師西村大田ノ八大字其所轄ニ屬ス

學校

上草野尋常小學校ハ大字野瀬ニアリ明治五年十月三日ノ創立ニシテ同九年三月ニ至リ競進學校ヲ高山ニ誘進學校ヲ野瀬ニ文弘學校ヲ鍛冶屋ニ化風學校ヲ西村ニ各設立セシガ其後高山寺師西大田草野ノ五ヶ村聯合シテ競進學校ヲ高山ニ野瀬郷野ハ聯合シテ誘進學校ヲ野瀬ニ新築シテ同十七年十一月二十八日文部省ヨリ三等獎勵品下賜ノ榮ヲ得タリ後鍛冶屋岡谷ノ二ヶ村ヲ加ヘ四ヶ村ノ通學區域トナセリ同二十年八月競進學校ヲ尋常科高山小學校誘進學校ヲ尋常科野瀬小學校ト改稱セシガ同二十六年四月一日改正小學校令ニ基キコノ二校ヲ廢シ上草野尋常小學校ト名ケ舊誘進學校舍ヲ以テ之ニ充テ全村ヲ通學區域ト改ム同三十年六月二十一日單級ノ高等科ヲ併置シ同三十一年六月十三日裁縫專修科ヲ加設ス同年八月十二日高等科ヲ二學級ニ同三十二年四月十八日之ヲ三學級ニ編制セリ現今ハ尋常科六學級高等科三學級專修科單級合計十學級ナリ兒童數尋常科四百三十五人高等科百三十四人專修科二十九人合計五百九十八人ナリ

神社名	祭神	社格	勸導年月	所在地
上許曾神社	草野姬命	郷社	不詳	高山
草野神社	伊弉諾命	村社	同	鍛冶屋
大寶天皇社	文武天皇	無格社	同	同
高山神社	伊弉冉命	同	同	高山
蛭子神社	蛭子命	同	同	岡谷
栢堂神社	素盞烏命	同	同	郷野
天滿神社	菅原道真	同	同	同
天滿神社	菅原道真	同	同	同
若宮神社	譽田別命	同	同	同
三嶋神社	溝咋姬命	同	元龜四年	同
八幡神社	應神天皇	同	不詳	草野
日吉神社	大山咋命	同	同	野瀬
上森神社	猿田彦命	同	同	同

皇大神社 天照大神 同 同 同
下森神社 素盞鳥命 同 同 同
中山神社 大山祇命 同 同 同
大田

備考

上評曾神社ハ延喜式内ノ古社ニシテ淺井十四座ノ一ナリト云フ全村ノ産神ニシテ中古藤原盛行本社ヲ再興シ正安三年黒田判官源宗満崇敬シテ隨神一對ヲ納メタル又嘉慶元年平光重藤原盛元等宮鐘ヲ献納セラル此鐘ハ小谷城主淺井亮政姉川戰役ニ用ヒンタメ其臣大野木土佐守大橋善次郎等ヲ遣ハシ之ヲ假用セラレシト云フ其古文書寫左ノ如シ

上評曾宮鐘入用に罷在此使の人夫ともへ相渡し可申旨に候

四月五日

大野木土佐守

大橋善次郎

草野谷村々

百姓社頭共々

草野神社ハ延喜式神名帳淺井十四座ノ一ナリトモ云フ元祿年間回録ノ災ニ罹リ社殿文書焼亡セル

モ阿閉梨光慶ノ縁記書ニ式内三座ノ銘文アリ亦大永七年法華經寫本ノ裏ニ「草野天皇上評曾」ノ文字アリ

佛閣

寺名	宗派	開基年月日	開	祖	所在地
大吉寺	天台宗	白雉元年	僧安圓	野瀬	
光福寺	真宗佛光寺派	不詳	同願坊	同野	
佛緣寺	同	同	同了明	同野	
西證寺	同	慶長十五年十二月	同道圓	郷野	
念相寺	真宗大谷派	明治九年正月(移轉)	同慈龍	鍛冶屋	
圓徳寺	同	元龜二年	同了安	草野	
西光寺	同	元祿五年八月二十日	同玄性	寺師	
徳藏寺	同	元和元年	同法意	西谷	
観念寺	同	不詳	同祐專	岡谷	
福順寺	同	同	同	高山	
光信寺	真宗本派	永和元年二月	同	大田	

備考

大吉寺ハ白雉元年近江國愛知川ニ流出シタル浮木ノ自然ニ聖觀音ノ像ニ似タルアリ 天智天皇詔シテ寺ヲ建テコノ像ヲ安置セシメ天吉寺ノ號ヲ賜フ天平勝寶七年洪水ノ爲メ流失シ海ニ入ル(琵琶湖)後二十八年ヲ經テ 桓武天皇ノ御宇延暦元年近江國粟津ノ湖底(粟津ケ原)ニ之ヲ發見シ勅使參議兼兵部卿橋朝臣奈良麿ヲシテ拾ヒ上ケシメ同十六年再ビ一寺ヲ建テ大吉寺ト改メ賜フ 清和天皇ノ御宇貞觀七年僧安圓(天臺第四ノ座主安惠和尚ノ弟子)及淺井治家ト協力シ當寺東北十三町餘ノ山腹ニ於テ堂舍並僧坊九十九院(一ニ四十九院トモ云フ)ヲ建設セラレタリ平治ノ乱ニ源義朝及賴朝等此寺ニ匿レシヨリ(平治元年十二月ヨリ永曆元年二月マデ)平氏ノ兵來リ攻メ火ヲ寺坊ニ放ツ僧阿願坊本尊ヲ負ヒ難ヲ山上ニ避ク後平家亡ビテ文治元年賴朝之ヲ再建シ寺領三千七百石ヲ賜ヒ同二年七月七日虫供養ノ判物ヲ賜フ其古文書寫左ノ如シ

虫供養毎年無懈怠可被勸候近江一國者不申及六十餘州一戸一合宛爲料米令寄附猶以山内太郎右衛門可申候如件

文治二年七月七日

大吉寺本坊

賴 朝 花 押

又正應二年十二月七日中興ノ僧覺道上人所感アリテ山ノ東嶺ニ石棺ヲ造リ入定セシト云フ其跡今ニ存ス(古跡部參照)其後代々足利氏ノ信仰厚カリシガ淺井三代ノ乱ニ難ヲ避ケンガ爲メ自ラ火ヲ放チテ寺坊ヲ燒ク文祿元年堂宇並六坊(松壽院寶城院福壽院法壽坊吉祥坊一ハ不祥)ヲ再建セシガ今ハ僅ニ大吉寺ノ一字ノミヲ存シ寺領ハ織田氏ノ爲メニ沒收セラレタリ

古跡

天吉寺山

大字野瀬ノ大洞山脈中ニアリ古昔天臺宗ノ寺坊數多アリト云フ今其山腹ニ石船アリテ長サ七尺幅一尺深サ一尺五寸所謂古ノ水船ナリト云フ山上ニ源賴朝追悼ノ石碑及覺道上人入定ノ石窟アリ 鳴岩及粥羹ノ石

千石谷山脈中ニ瀧谷口白鷺ニ鳴岩トテ凡ソ五尺四方ノ岩アリ時々鳴動セシコトアリシヨリ名ヅクト云ヘリ其傍ヲニ粥羹ノ石アリ源賴朝山中ニ匿レ粥ヲ羹タル石ナリト云フ

安明ノ淵

深谷山脈中白鷺ニ安明ノ淵アリ源賴朝鯉ヲ捕ヘテ片身ノ鱗ヲ去リ草野川ノ上流深谷川ニ放チタル淵ナリト云フ此淵ハ明治二十八年大洪水ニテ埋沒セリ

鼓谷

岡谷ニアリ平治ノ乱後源義朝子頼朝ト間道ヨリ東ニ出ントシ大雪ニ會ヒ頼朝ト分レテ小平山(今ハ大平山)ノ麓ニ來リシニ岡本ノ太夫ト云フ者アリ門前ニテ馬船(今ノ馬洗鹽ナランカ)ヲ造リ居リシガ頼朝之ヲ見テ追兵ノ急ヲ告ケ救ヒテ乞フ太夫常人ナラザルヲ知リ諾シテ造ル所ノ馬船ヲ覆ヒ泰然工ヲ取ル追兵頼朝ヲ索ム急ナリ略ハスニ利ヲ以テス太夫更ニ知ラズト答フ追兵去リシ後事ノ泄ル、ヲ憚リ大吉寺阿願坊中ニ潜伏セシム數月ヲ經テ頼朝ヲ女装セシメ刀ヲ薦ニ包ミ自ラ肩ニシテ青墓驛延壽ノ家ニ送リシト云フ頼朝政權ヲ取ルニ及ビ太夫ニ此地及堤莊司ノ名ヲ賜フ其住居セシ跡ヲ鼓谷ト云フ

鍛冶屋

桓武天皇ノ御宇橋奈良麿五男宮須磨淺井大娘ノ家ヲ嗣ギ此地ニ住セシガ平治元年十二月ニ至リ大属草野定康代ワテ住居セリ(舊記ニ曰ク草野定康ハ橋宮須磨ノ裔ナリト)又源頼朝ノ世大和國宇多郡ヨリ冶工ヲ此谷ニ移シ鍛冶ノ職ヲ取ランメント云ヘリ

人物

ナシ

生業

當村ハ山間ニシテ田地甚尠シ故ニ溪間到處トシテ桑圃ナラザルハナシ住民ノ過半ハ養蠶製糸ヲ以テ業トシ野瀬以北ノ各大字ハ農圃木炭ヲ燒キテ助業トナス又鍛冶屋ハ多ク農具ノ冶工及絹紬等ノ機械ヲ營ミ野瀬ハ専ラ行商ニ從フモノ多シ

地質

礫質壤土秩父古生層ニ屬ス

産物

産物ノ主ナルモノハ生糸、繭、鍛冶屋紬、絹、夏蠶種、農具、實生桑苗、薪炭等ナリ

交通

里道縣稅支辨街道

鍛冶屋街道ハ下草野村大字ヨリ來リ岡谷鍛冶屋郷野瀬草野ヲ經テ高山ニ終ル

田根街道ハ郷野ニ起リ草野川ニ架スル今郷橋俗ニ天下ト云フヲ經テ谷坂ヲ越ヘ田根村大字ニ通ズ

沿革

本村ハ元上草野莊ト稱シ寺師高山中村(草野)野瀬郷野鍛冶屋岡谷ノ七ヶ村ナリシガ其後西村大田(田村)ノ二村ヲ加ヘテ一村トシ上草野村ト稱ス

管轄

本村ハ古來沿革詳ナラスト雖モ中古足利氏ノ頃ハ京極氏ノ管スル所ナリシガ永正年間京極氏ノ衰頹ニ乗ジ淺井亮政(備前守)之ニ代ルト天正元年織田氏淺井氏ヲ滅ボシ木下秀吉ヲ坂田郡今濱(長濱)ニ置キ江北ノ守護トス豊臣氏政權ヲ取ルニ及ビ堀秀政ノ領地トナリ後亦石田三成等ノ封内ニ入ル同氏滅ビ徳川氏ノ世ハ代官日下部善輔(湯田村誌人物部參照)ノ支配トナリ後元和三年小堀正一(遠江守)ノ所轄ニ轉セシガ天明八年裔孫政方ノ世ニ至リ領地ハ羽倉權九郎ヘ引渡シ代官石原庄三郎支配トナル後寛政二年田村ノ一部ハ知善院領トナリ岡谷村ハ遠江國濱松城主大河内信祝(伊豆守)ノ所領ニ轉ズ同十二年本庄資訓(豊後守)大河内氏ニ代リテ之ヲ領ス享和三年井上正經(河内守)亦本庄氏ニ換リテ之ヲ領セシガ文化十四年水野忠邦(越前守)ノ領地トナリ子孫世襲ス孫忠弘ニ至リ明治二年版籍ヲ奉還シ藩知事トナリ同四年廢藩置縣ニ際シ朝日山縣ニ屬ス其他ノ八ヶ村(田村ノ一部ヲ加フ)ハ弘化元年ヨリ王政維新マテ代官都々築金三郎多羅尾久右衛門石原清左衛門三氏ノ支配ヲ受ク後明治元年ヨリ同三年マテ大津縣支配所ニ屬ス同四年十一月朝日山縣廢セラレテヨリ長濱縣ニ屬シ同五年二月同縣廢止ト同時ニ全村犬上縣ノ管轄トナリ同年十一月同縣廢止ト共ニ滋賀縣ニ合併セラレタリ

住家取調表

住家所有區別		住家構造區別		住家屋上區別	
種別	棟數	種別	棟數	種別	棟數 坪數
持地持家	五四七	木造	八〇〇	瓦葺	六五一 七二五二
借地持家	二三〇	土藏造	一	板葺	九 七七
持地借家	一	煉瓦造		コケラ葺	三 一六
借地借家	二三	石造		萱葺	五八七 一〇六二一
合計	八〇一	合計	八〇一	合計	一二五〇 一七九六六

産物取調表

生糸	八二五〇〇〇 <small>斤</small>	四二二五〇〇〇 <small>斤</small>
繭	一五二九 <small>斤</small> 五〇〇 <small>斤</small>	
縮緬	一五〇〇 <small>反</small> 〇〇〇 <small>寸</small>	一四二〇 <small>反</small> 〇〇〇 <small>寸</small>
夏繭種	三〇 <small>斤</small> 八〇〇 <small>斤</small>	
桑	三〇六七〇〇〇 <small>坪</small> 〇〇〇 <small>坪</small>	

木材	五五〇〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
薪炭	二七八〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
酒	九六二〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
醬油	二三五〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
米	八九一〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
鐵物	九〇〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
春蠶種	九六六 <small>石</small>
麥	二七〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
大豆	一五〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
菓子	一五〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
油滓	六〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
油	八八〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
茶	八八〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>

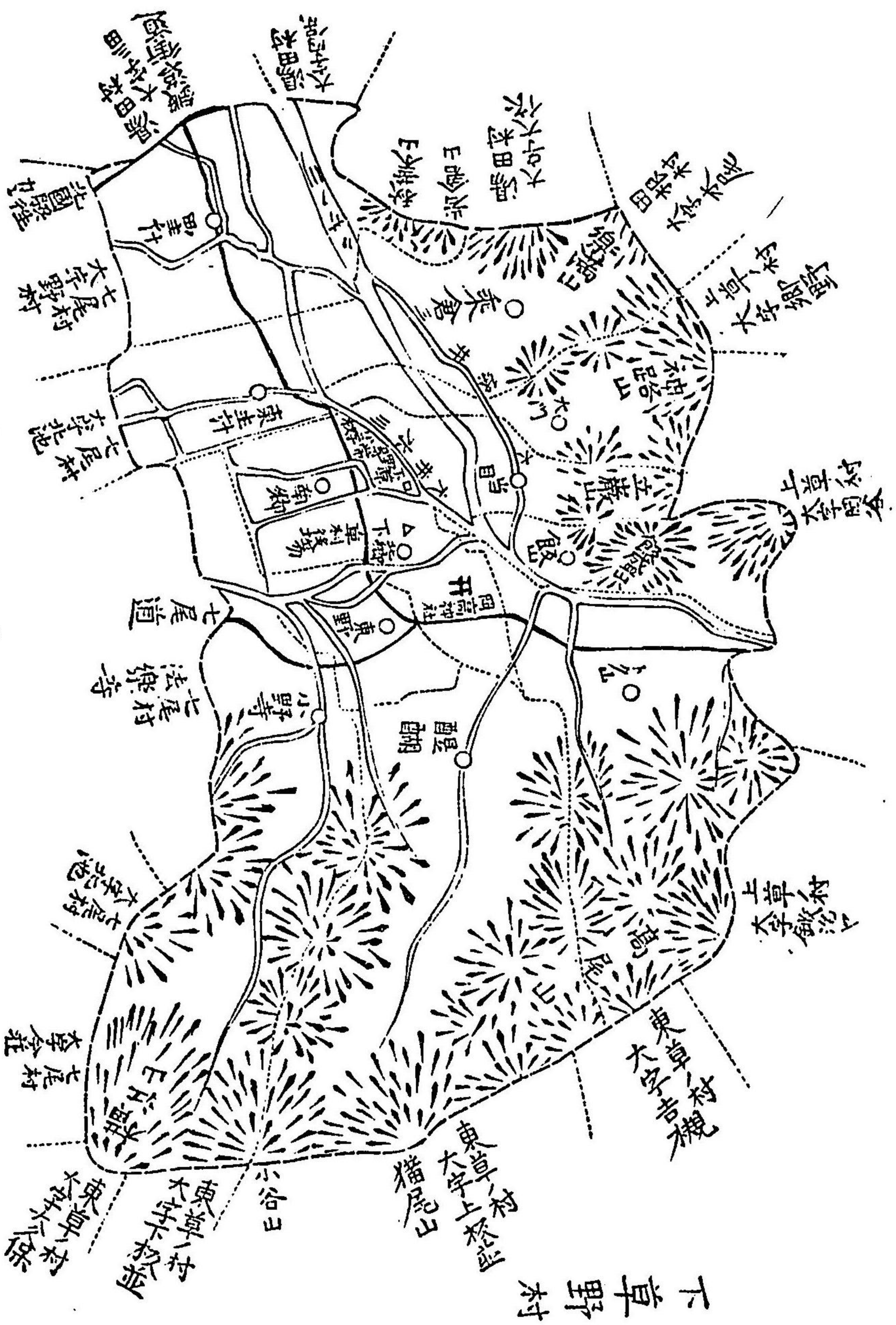
木材	五五〇〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
薪炭	二七八〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
酒	九六二〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
醬油	二三五〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
米	八九一〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
鐵物	九〇〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
春蠶種	九六六 <small>石</small>
麥	二七〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
大豆	一五〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
菓子	九五〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
油滓	二一〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
油	二一〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>
茶	二一〇 <small>石</small> 〇〇〇 <small>合</small>

徳川時代石高取調表

村名	徳川氏ノ初代	元祿年間	享保年間	寛政年間
野瀬	二六三 <small>石</small> 一四六 <small>合</small>	二六三 <small>石</small> 一四六 <small>合</small>	二四八 <small>石</small> 〇二〇 <small>合</small>	二四八 <small>石</small> 〇二〇 <small>合</small>
草野	一二二五七三	一二二五七三	一一九六三〇	一二一一三三
高山	四三一 二四六	四三一 二四六	三八一九〇〇	四〇〇〇〇〇
寺師	一〇五七二〇	一〇五七二〇	八八二五〇	一〇二三二二
西村	一二二七三〇	一二二七三〇	一一二七五〇	一一七三七〇
大田	一〇八〇八九	一〇八〇八九	八二七三〇	八八二二九
郷野	三八〇七九三	三八〇七九三	三五二二三〇	三七一三四七
鍛冶屋	二二二一六〇	二二二一六〇	一九二五五〇	二一〇一六四
岡谷	一五二〇〇五	一五二〇〇五	一四七三七六	一五二〇〇五
合計	一八九八四六二	一八九八四六二	一七二五四三六	一八一五九〇

明治以後地價取調表

大字名	明治二十二年以前ノ地價	明治二十二年修正地價	明治三十二年修正地價
野瀬	一四五八二 _円 二〇 _銭	一三二五〇 _円 九二 _銭	一〇七〇四 _円 二八 _銭
草野	六七五六〇四	六〇六四九四	四八六二二七
高山	三三三九六六〇	二七九一六五九	一五五八六〇七
寺師	五四五四二六	四八五六六二	二八五四九二
西村	六九二八〇六	六〇九三一三	四三〇八七〇
大田	六八〇三四一	五九三七九四	三八七二一三
郷野	一四四三七四五	一二六二三三四	七二七一三八
鍛冶屋	一一三四八九四	一〇四六三五七	八三四二五二
岡谷	五四八六七四	四七六七八三	三七七二八一
合計	一〇三一九三七〇	九一九七四八八	六一四七五〇八



下草野村誌

位置

本村ハ東淺井郡ノ東部稍南方ニ位シ東ハ坂田郡伊吹村大字及東草野村大字下坂並、
北ハ上草野村大字、
西ハ湯田村大字、
南ハ七尾村大字、
北池、
二界ス

面積

九百四町九段一畝十九步

内

田 百九十一町六段九畝九步

畑 七十二町二段十一步

郡村宅地 二十八町七段二畝十九步

山林原野 六百十町一段六畝五步

其他 二町一段三畝五步

戸數及人口

戸數 四百四十戸

人口 二千百十九人 内男千五十五人 女千六十四人

區劃

本村ヲ北ノ郷、小野寺、東野、醍醐、徳山、飯山、當目、大門、乘倉、西主計、東主計、南郷ノ十
二大字ニ分ツ

各大字名稱沿革

北ノ郷ハ寛保年中ニ登江ノ字ヲ用キタルコト見ユレドモ今ハ北ノ郷ノ字ヲ用フ

東野ハ往古東郷ト稱セシガ徳川時代年月詳ナラスニ至リ改稱セルモノナリ

飯山ハ古飯山寺アリテ該寺ニ屬スル人々ノミ僅ニ住セシガ寺廢滅シテ後一村ヲナシ寺號ヲ以テ村名
ニシタルモノナリ

大門ハ往古密嚴院ノアリシ地ニシテ宏大ナル門近世マデ殘レル故此名稱アリト云フ

南郷ハ古南江ノ字ヲ用非タルコト舊記ニ見ユ

地勢

東西凡二十六町餘南北十五町餘西北境ハ屈曲甚ク東部廣クシテ西南部甚狹シ東境ハ横江高尾等
ノ諸山連亘シ西北境ニハ飯盛神路シノ樂滿等ノ諸山アリテ草野川其間ヨリ來リ北部ヲ西流ス地概平坦ニ

シテ漸次西方ニ低下ス

山

横江山ハ小野寺ノ東南境ニアリテ東面ハ坂田郡伊吹村大字ニ屬シ南ハ立山ニ連リ餘流西方ニ延ブ

小谷山ハ小野寺ノ東境ニアリテ南ハ横江山ニ續キ北醍醐ニ跨リ東面東草野村大字ニ屬ス

猫尾山ハ南小谷山ニ續キ醍醐ノ東境ニアリテ山脉北方ヘ互リ東面ハ東草野村大字ニ屬ス

高尾山ハ徳山ノ東境一帯ノ山脉ニシテ南猫尾山ヨリ北上草野諸山ニ連リ東面ハ東草野村大字ニ屬ス

ハ上草野村大字ニ屬ス

飯盛山ハ飯山立巖山ハ當目神路山ハ大門樂滿山ハ乘倉ノ各北境ニ連亘スル一帯ノ山脉ニシテ東北方

ヨリ屈曲シテ西方ニ延ビ樂滿山ヨリ南方ヘ折レ西主計ノ北方ナル岩倉山ニ終ル神路山以東ハ上草野

諸山ニ連リ北面岡谷郷野ニ屬シ樂滿以南ハ田根湯田ノ諸山ニ連リ西面ハ木尾大依ニ屬ス以上ノ諸山

雜木茂生セリ

岩倉山ハ姊川戰域ニ入ル湯田村姊川史談参照

川

草野川ハ東北上草野村大字ヨリ來リ大字徳山飯山ノ境界ヲ南流シ飯山ノ南部ニ於テ西方ニ屈折シ當

目大門乘倉ノ南部及西主計ノ北部ヲ過ギテ湯田村大字内保三田ノ界ニ入ル

明治二十九年出水ノ際其災害甚シカリシヲ以テ同年十月九日東園侍從視察トシテ巡檢セラル
大井水河ハ大字飯山ニテ草野川ノ水ヲ引ケルモノニシテ初二派トナリ更ニ數派トナリ徳山醍醐ノ外
各大字ノ灌溉ニ便ス

官衙及公署

下草野村役場ハ大字北ノ郷ニアリ明治十八年七月一日北ノ郷東野小野寺醍醐徳山飯山當目大門乘倉
東主計西主計南郷ノ十二ヶ村聯合シ東野村ノ舊曉明學校舎ニ役場ヲ設ケ東野村外十一ヶ村戸長役場
ト稱ス同二十一年七月民家ニ移リ翌二十二年町村制實施ニ際シ六月北ノ郷ノ民家ニ移轉シ下草野村
役場ト改稱ス同三十二年一月新築功成リ之ニ移ル

北ノ郷ノ巡查駐在所ハ明治二十二年三月二十六日北ノ郷村ニ設置シ巡查駐在所ト稱シ岡谷徳山醍醐
小野寺法樂寺東野北ノ郷ノ七ヶ村ヲ巡邏區域トス同三十二年八月一日區域ノ變更アリテ岡谷飯山當
目大門乘倉南郷北ノ郷東野小野寺醍醐徳山ノ十一大字トナレリ西主計ノ巡查駐在所ハ明治二十一年
七月一日西主計村ニ設置シ巡查居住所ト稱ス翌二十二年一月一日巡查駐在所ト改稱シ巡邏區域ハ飯
山當目大門乘倉南郷東主計西主計七ヶ村ナリシガ同三十二年八月一日區域變更アリテ東主計西主計

學校

三田大路大依ノ五大字トナレリ
下草野尋常小學校ハ大字當目ニアリテ明治八年三月ノ創立ニシテ東野村ニ設置シ曉明學校ト稱ス當
時通學區域ヲ東野北ノ郷南郷東主計飯山徳山醍醐小野寺ノ八ヶ村トス同十七年一月當目大門乘倉ヲ
合シ同年十一月二十八日文部省ヨリ三等獎勵品下賜ノ榮ヲ受ク同十九年十一月小學校令實施ニ際シ
北池南池法樂寺佐野及西主計ノ五ヶ村ヲ合シ尋常科岡高小學校ト改稱シ佐野ニ支校ヲ分設シ且同時
ニ簡易科ヲ併置セシガ實施セズシテ止ム同二十四年支校ヲ獨立セシメ全ク其關係ヲ絶チ同二十五年
九月改正小學校令ニヨリ下草野尋常小學校ト改稱シ西主計ニ分教場ヲ置キ同二十九年七月一日單級
ノ補習科ヲ加設ス同三十年七月當目ニ校舎ヲ新築シ分教場ヲ廢シ同三十一年十月一日更ニ裁縫補習
科ヲ設置シ現今尋常科四學級補習科一學級ニシテ兒童數尋常科百九十六人補習科四十九人裁縫補習
科三十七人合計二百五十二人ナリ

神社名	祭神	社格	勸請年月	所在地
岡高神社	菅原道真	郷社	欽明天皇六年	北ノ郷
春日神社	天兒屋根命	村社	不詳	西主計

神	明	社	天照大神	無格社	同	小野寺
日吉	神社	瓊々杵命	同	同	醍醐	醍醐
德山	神社	<small>天照大神、天兒屋屋命、伊弉冉命、大山咋命、菅原道真</small>	同	同	德山	德山
貫船	神社	高靈神	同	同	飯山	飯山
五社	神社	伊弉諾命	同	同	同	同
八幡	神社	應神天皇	同	同	當目	當目
日高	神社	神功皇后	同	同	同	同
高岡	神社	菅原道真	同	同	大門	大門
若宮	神社	宇治皇子	同	同	同	同
貴船	神社	宇禮皇子	同	同	同	同
大國主	神社	高禮皇子	同	同	同	同
秋葉	神社	大國主命	同	不安	同	同
八幡	神社	軻遇突知神	同	同	西主計	西主計
八坂	神社	應神天皇	同	同	東主計	東主計
八坂	神社	素盞烏命	同	同	南郷	南郷

岡高神社ハ大字北ノ郷東野醍醐小野寺徳山飯山當目大門乘倉東主計南郷及七尾村大字法樂寺南池
 北池佐野ノ産神ナリ縁起ノ略ニ曰ク當社ハ古昔祭神素盞烏命ニシテ欽明天皇六年岡本大宮祠蒲生
 三廢社殿ヲ錦岳現今社地ノ東方十餘町ヲ隔テ、千丈尾岳アリ其後岳ノ大岩アル地之ナリニ創建シタリシガ延暦十五年更ニ現今ノ社地ニ移シ別
 當岡高山神宮寺ノ社僧ヲシテ奉仕セシム永祿年中織田信長巨利名祠ニ破戒破律ノ僧徒多キ爲メ悉
 ク之ヲ焚滅ストノ流説アリ神宮寺ノ僧之ヲ憂ヒ其災ヲ避ケン爲メ信長ノ父信秀ノ崇敬セル天滿宮
 ト爲サントシ菅原道真ヲ合祀シ天滿宮ト改稱ス是ニ於テ其祭神ニ變更ヲ生ゼリ依テ現今保存セル
 銅額ニ天滿宮元祿十年三月天臺座主堯延親王ト彫刻セルアリ後別當ハ漸次衰滅ニ歸シ明治初年岡
 高神社ト改稱シ同九年村社ニ列シ同十七年郷社ニ昇格セルモノナリ

佛	閣	寺名	宗派	開基年月日	開	祖	所在地
廣善寺	真宗大谷派	不詳	僧	勝月	北ノ郷		
醍醐寺	真言宗新義派	同	僧	覺遍	醍醐		
玉泉坊	同	同	僧	專了	同		
岩本坊	同	同	僧	龍尊	同		

淨邦寺	眞宗大谷派	同	文龜二年三月十八日中興	僧	圓	融	徳山
西林院	眞言宗新義派	同		僧	頼	善	大門
法通寺	眞宗大谷派	慶長十三年正月廿八日	僧	了	永	乘	倉
宿願寺	同	不	詳	僧	圓	立	西主計
宗元寺	同	同	延享三年十月 中興 年不詳中興	僧	宗	圓	南郷
賢明院	眞言宗新義派	同	不	僧	宗	圓	小野寺

備考

醍醐寺ハ役小角ノ草創ニシテ不動明王鎮守五所權現(延喜)及役行者ノ錫杖ヲ安置セリ往古天臺宗隆盛ナルニ際シ法華行者辨天堂鐘樓浴室大門仁王門等アリ一山内ニ四十九坊ヲ有シ中寂靜院學頭ニシテ即第一和尚ナリ其他第二和尚第三和尚等アリ法花講等ヨリ寄附ノ田畑數多遠近ニアリシコト當時ノ古記録ニ見ユ中古一旦烏有ニ歸セシガ文龜年中眞言宗紀州根來ノ僧覺遍錫ヲ此地ニ止メ衰頽ヲ嘆キ一字ヲ再興シ院宇一統ノ法水ヲ傳フ之中興開基トス天正ノ兵亂後寺院復衰微シ法具等悉ク散逸シ今ハ其淺分存シ仁王堂辨天塚蓮池等ノ遺跡アリ

古跡

小野寺跡

小野寺跡ハ大字小野寺ニアリ役小角ノ艸創ニ係リ下草野五山中ノ一ニシテ一山中ニ四十九院アリキト云フ

飯山寺跡

飯山寺跡ハ大字飯山ニアリ役小角ノ艸創ニ係リ下草野五山中ノ一ニシテ一時盛ナリシガ天正年間兵燹ニ罹リ廢絶スト云フ

大聖寺跡

大聖寺跡ハ大字大門ニアリ役小角ノ創立ニ係リ下草野五山中ノ一ニシテ神道山大聖寺密嚴院ト號シ大伽藍四十九院アリシガ後廢絶シテ漸不動明王ヲ安置セル小堂アルノミ

慶藏寺跡

慶藏寺跡ハ大字西王計ニアリ天平十二年六月十八日僧行基ノ創立セルモノニシテ法相ノ精舎三院ニ坊アリシガ後衰微セシテ延曆年中僧最澄之ヲ再興シ法相天臺ノ兼學トナリ復盛ナリ天正ノ役ニ於テ悉ク兵燹ニ罹リ烏有ニ歸シ今ハ漸觀音ノ像ヲ安置スルノミ元祿元年三月十五日此赤跡ヨリ發掘セシ一寸八分ノ黄金立像ヲ存ス

主計氏居址

主計氏ノ居址ハ大字東主計ニアリ俗ニ殿屋敷ト稱ス主計繼之頭之ニ住セシガ應仁文明ノ際亡ビキト云フ今ハ其碑ヲ存スルノミ

人物

草野庄司

壽永年間源頼朝ノ大吉寺ニ匿レシ時隨從ノ士ニ康照トイヘルモノアリ草野ノ地ニ止マリテ住ス後頼朝天下ヲ統一スルニ及ビ命ヲ受ケテ草野庄司トナリ氏ヲ草野ト改ム降リテ徳川氏ノ世ニ至リ此地小堀氏ノ所領トナリシト雖世襲ノ久シキ庄司ノ威權漸強ク領主ノ意居常平ナラザリキ庄司照善ニ至リ會領苛酷ニシテ賦歛ヲ厚クシ人民大ニ苦メリ照善之ヲ救ハント欲シ其失政ヲ鳴ラシ行政ノ改革ヲ圖ル延寶七年四月有司抗上ノ罪ヲ以テ資財ヲ沒收セラレンシガ權右衛門ニ至リ領主小堀政方素行治ラズシテ斷絶ニ及ビ幕府ヨリ復々前ノ資財ヲ與ヘ祖光ノ冤罪ヲ明ニシ近郷八千石ノ庄屋取締役ヲ命セラレタリ

中村五平

中村五平ハ東野村ニ生ル人ト爲リ公平義ヲ重ンズ貞享十四年上草野莊トノ共有山林ニツキ訴訟起

リ享保二年ニ至リ爭論益激シテ東野當目乘倉飯山東主計ノ五村人民ノ困苦底止スル所ヲ知ラズ是ニ於テ翁ハ獨リ身ヲ以テ之ニ當リ力ヲ盡シテ同七年十二月終ニ立入ノ許可ヲ得村民ニ大利益ヲ與ヘタリト云フ同十一年七月十一日歿ス年七十九

小八木藤助

小八木藤助ハ西主計村ノ人ニシテ延享三年ニ生ル性銳敏至孝ナリ寶曆年間旱魃ノ爲凶作村民大ニ困ム時ニ年十歳ナリ父之ヲ救ハントシテ嘆セルヲ聞キ成長ノ後ハ必救ハントト誓ヒテ父ヲ慰ム寶曆十年十五歳ニシテ庄屋ヲ務メ水利組合會ニ提議シテ分水ノ法ヲ定メントセシモ成ラズ翌年分水諸村ト爭論ヲ生シ訴訟ニ及ベリ藤助自身ヲ以テ當リ少シモ屈セズ救民ヲ以テ己ノ任トシ大ニカムルニト二十六年終ニ其結果當村灌溉ノ便ヲ得タリト云フ後藩主ヨリ水利取扱ノ任ヲ受ケ愛知川附近ヘ出張シ堰ヲ設ケ或溝渠ヲ通シ紛爭ヲ治ムル等功績アリ依テ井伊侯ヨリ米拾俵及人足三十人ヲ與ヘラレタリト云フ文化二年病ヲ歿ス年六十二今ニ西主計ニハ其德ヲ忘レザル爲メ年々藤助祭ヲ行ヘリ

生業

古來農作ヲ事トセシガ近來養蠶ノ業盛ニナレリ商業或工業ヲ營ムモノアレトモ多ク農家ノ兼業ナリ

地質

多クハ壤土ニシテ第四紀新層ニ属シ一部ハ壤質礫土ニシテ第四紀古層ニ属ス
産物

米麥其他ノ穀類繭生絲菜種茶等ナリ

交通

國道

北國脇往還ハ南七尾村^{大字}野村^{大字}ヨリ來リ僅ニ西主計ノ西南部ニ入り西境ヲ過ギテ湯田村^{大字}三田^{大字}ニ入ル
里道^{縣稅支}辨^{街道}

鍛冶屋街道ハ湯田村^{大字}ヨリ來リ西主計東主計南郷東野北ノ郷徳山ヲ經テ上草野村^{大字}岡谷^{大字}ニ至ル
七尾街道ハ七尾村^{大字}法樂寺^{大字}ヨリ來リ小野寺ヲ過ギ東野ニ於テ鍛冶屋街道ニ合ス

沿革

往古莊ノ沿革詳ナラズト雖近世下草野莊ト稱シ北ノ郷東野小野寺法樂寺北池南池佐野醍醐徳山飯山
當目大門乘倉東主計ノ十四村ナリシガ明治二十二年法樂寺北池南池佐野ノ四村ヲ割キ湯次莊ノ西主
計村ヲ合シ各村ヲ大字トシ下草野村ト改稱セリ

管轄

鎌倉幕府以前

北ノ郷小野寺醍醐徳山飯山當目乘倉ハ參議兼兵部卿橘朝臣奈良麿五男宮須磨ノ淺井大娘ノ家ヲ嗣
ギシ時ヨリ其領ニ入ル

西主計ハ延暦年間ヨリ比叡山延暦寺ノ領地タリ

東野大門東主計南郷ハ詳ナラズ

鎌倉及足利幕府時代

佐々木秀義近江守護ニ任セラレ子孫奕世之ヲ食ム曾孫泰綱氏信南北分領スルニ及ビ北部六郡ハ氏
信之ヲ領シ京極氏ト改ム裔孫高峯ニ至リ兵威衰ヘ永正十三年家宰淺井亮政終ニ之ヲ奪ヒ孫長政マ
デ之ヲ領ス

織田豊臣氏時代

全村天正元年ヨリ羽柴秀吉ノ領地トナリ後秀次ヲ經テ石田氏ノ所領ニ属ス
北ノ郷小野寺徳山ハ天正元年ヨリ代官野村肥後守定正之ヲ支配ス
東野東主計ハ天正十五年秀次領トナリ其代官田中兵部補吉政之ヲ支配シ文祿四年ヨリ石田三成ノ

領地トナリ慶長五年ニ至ル

飯山南郷大門ハ信長ノ死後詳ナラズ

醍醐乗倉當目ハ代官木下半助之ヲ支配ス

西主計ハ天正十五年秀次領トナリ代官田中吉政之ヲ支配シ同十八年野村肥後守之ヲ領セシガ文祿四年ヨリ石田三成ノ領地トナリ慶長五年ニ至ル

徳川幕府時代

徳山大門北ノ郷ハ元和三年小堀遠江守正一之ヲ領シ子孫世襲シテ和泉守政方ニ至リ沒收セラレ天明六年代官石原庄三郎ノ支配トナリ石原清三郎ニ至ル

東野東主計ハ慶長二十年井伊掃部頭直孝之ヲ領シ子孫世襲シテ掃部頭直憲ニ至ル

飯山ハ慶長二十年ヨリ井伊直孝ノ領ニシテ苗裔直憲ニ至リ慶應二年代官多羅尾四郎左衛門ノ支配トナル

西主計ハ慶長二十年井伊直孝之ヲ領シ子孫世襲直彌ニ至リ弘化四年代官多羅尾四郎左衛門ノ支配トナル

小野寺ハ旗下松野八郎兵衛之ヲ領シ子孫世襲シテ八郎兵衛ニ至ル

醍醐ハ元和三年小堀正一之ヲ領シ苗裔政峯ノ世ニ至リ享保十四年ヨリ大河内伊豆守信祝之ヲ領セシガ寛延三年ヨリ本莊豊後守資訓享和三年ヨリ井上河内守正經文化十四年ヨリ水野越前守忠邦之ヲ領シ子孫世襲真次郎忠弘ニ至ル

當目乗倉ハ元和三年小堀正一之ヲ領シ同九年ヨリ小堀河内守ノ領トナリ苗裔大學ニ至ル

南郷ハ元和三年小堀正一之ヲ領シ寛政四年小堀權十郎政尹ノ領トナリ苗裔權十郎政安ニ至ル

明治初年

北ノ郷徳山ハ代官石原清左衛門之ヲ支配セシガ後大津縣ニ合シ五年犬上縣ニ合シ同年九月同縣廢止トナリ滋賀縣ニ屬ス

小野寺ハ松野八郎兵衛之ヲ領セシガ二年版籍奉還シテ大津縣ニ合シ五年犬上縣ニ合ス以下同上

醍醐ハ水野忠弘之ヲ領セシガ二年版籍奉還シテ知藩事ニ任セラレ之ヲ治ム五年犬上縣ニ合ス以下同上

飯山ハ元年井伊直憲之ヲ預リ三年水野忠弘之ニ代リ知藩事ニ任セラレ治ム四年朝日山縣トナリ五年犬上縣ニ合ス以下同上

當目乗倉ハ小堀大學之ヲ領セシガ二年版籍奉還ニヨリ大津縣ニ合セラレ三年水野忠弘之ニ代リ知藩事トナリ之ヲ治ム四年朝日山縣トナリ五年犬上縣ニ合ス以下同上

大門ハ石原清左衛門支配セシガ後大津縣ニ合シ三年水野忠弘之ニ代リ知藩事トナリ之ヲ治ム四年朝日山縣トナリ五年犬上縣ニ合ス以下同上西主計ハ井伊直憲之ヲ領セシガ後四年大津縣ニ合シ五年長濱縣トナリ同年九月犬上縣ニ合ス以下同上南郷ハ小堀政安之ヲ領セシガ二年版籍奉還ニヨリ大津縣ニ併セ五年犬上縣ニ合ス以下同上

住家取調表

住家所有區別		住家構造區別		住家屋上區別	
種別	棟數	種別	棟數	種別	棟數
持地持家	三八九	木造	四四〇	瓦葺	二五一
借地持家	三八	土藏造		板葺	一
持地借家		煉瓦造		コケラ葺	一
借地借家	一三	石造		萱葺	三四四
合計	四四〇	合計	四四〇	合計	五九七
					一〇八〇三
					三七四〇
					一八
					六
					七〇三九

産物取調表

生糸	四二二〇〇〇 <small>斤</small>	一八五四〇〇 <small>斤</small>
酒	一〇八〇〇〇 <small>合</small>	二四八四〇〇 <small>合</small>
油	七九〇〇〇 <small>合</small>	一三七四〇〇 <small>合</small>
菓子		八九〇〇〇 <small>斤</small>
油滓		二七三〇〇 <small>合</small>
米	二八六四〇〇 <small>合</small>	
麥	一九七〇〇〇 <small>合</small>	
大豆	五三〇〇〇 <small>合</small>	
蕎麥	三七八八 <small>斤</small> 九八五 <small>合</small>	
茶	二六〇〇〇 <small>斤</small> 〇〇〇 <small>斤</small>	
桑葉	一一五三〇〇 <small>斤</small> 〇〇〇 <small>斤</small>	
木材		一一〇〇〇 <small>合</small> 〇〇〇 <small>合</small>
木炭		二二〇〇 <small>合</small> 〇〇〇 <small>合</small>
春蠶種	三九〇〇 <small>斤</small>	
夏蠶種	一六六二四 <small>斤</small>	

徳川時代石高取調表

村名	徳川氏ノ初年	元祿年間	享保年間	寛政年間
北ノ郷	二四七 _五 二八 _上	二四七 _五 二八 _上	二三六 _七 七三〇 _上	二三六 _七 七三〇 _上
小野寺	二二七五〇六	二二七五〇六	二二七五〇六	二二七五〇六
東野	二三九六一〇	六九五三七	六七九八〇	六九五三七
醍醐	六九五三七	一五九一六七	一四八七二〇	一五五六九〇
徳山	一五九一六七	一四四五四〇	一四四五四〇	一五五六九〇
飯山	一一四五四〇	二七五三五〇	二七五三五〇	二七五三五〇
當目	一三〇八〇〇	一三〇八〇〇	一二六四八〇	一二六四八〇
大門	一三〇八〇〇	一六二八九〇	一六二八九〇	一六二八九〇
大乘倉	六七八九八〇	六七八〇九八	六七八九〇二	六七八〇九二
西主計	四三九二三〇	四三九二三〇	四三九二三〇	四三九二三〇
東主計	三〇四九四〇	三〇四九四〇	三〇四七〇〇	三〇四七〇〇
南郷	二六一一八三八	二八一二七三六	二七八二五二八	二六七六一八五
合計				

明治以後地價取調表

大字名	明治二十二年以前ノ地價	明治二十二年修正地價	明治三十二年修正地價
北ノ郷	一三二一三四一 _上	一一四五八 _上 四九 _上	九九一五 _上 八三 _上
小野寺	一〇八九〇九七	九五六七七一	八三六二〇九
東野	一一七〇四三〇	一〇三一三六六	八七八〇二三
醍醐	四四八二五七	四一三三二一	三七四一一一
徳山	五三三三九七	四六〇二一四	三七四八七〇
飯山	五八六八六三	五四六六〇一	四二二四一九
當目	一七〇八七八九	一四七五〇七〇	一〇二〇三七八
大門	七六七五三八	六六五二六六	四五八五五一
大乘倉	九五八九九八	八二九七九三	八九六三九六
西主計	三四二二一五一	二九四三五七二	二五五九五三一
東主計	二三九五四八二	二〇六二三八六	一八〇六二〇八
南郷	一五九〇七四二	一三六五八一〇	一一八八三九三
合計	一五九九五〇八五	一三八九六〇一九	一一八〇六六五四

七尾村誌

位置

本村ハ東淺井郡ノ南方ニシテ稍東部ニ屬シ東ハ伊吹村大字伊吹小泉北ハ下草野村大字小野寺東西ハ湯田村大字三田接シ南ハ坂田郡大原村大字井ノ口村井田及ビ北郷里村大字上坂ニ界ス

面積

六百八十五町一段二畝五步

内

田 百八十八町一畝二十二步

畑 六十二町九段一畝二十四步

郡村宅地 二十五町六段六畝步

山林原野 四百五町四段十七步

其他 三町一段八畝二步

戸數及人口

戸數

四百三十戸

人口 二千五十四人 内男九百七十一人 女千八百三十八人

區劃 本村ヲ相撲庭、今莊、佐野、南池、北池、法樂寺、野村ノ七大字ニ分ツ

各大字名稱沿革

相撲庭ハ往古大原村ト稱シタルコトアリト云フ
南池北池ハ上古此兩大字ノ地ニ大池二ヶアリシヲ以テ其位置ニヨリ南池北池ト名クルモノナリ
法樂寺ハ上古此地ニ保樂寺ト稱スル巨刹アリシヨリ村名ノ起リヲ爲シ、ト云フ徳川時代ニ柳澤小堀
ノ二領アリシ際柳澤領下ハ法樂寺小堀領下ハ保樂寺ト書セシヨリ維新ニ至ルマデニ様ナリキト云フ
地勢

東西凡三十四町南北凡二十九町東部稍廣ク西部ニ至ルニ從ヒ漸狹ク東北部ニハ七尾山石川谷川山梯
子山等ノ諸嶺連互シ西部及南部ハ平坦ニシテ漸次西方ニ低下ス

山

七尾山ハ相撲庭ノ東北境ニアリテ東面ハ坂田郡伊吹村大字伊吹小泉ニ屬シ北ハ石川谷川山ニ續キ南ハ姊川
ニ臨ム此山元來七ヶノ支脈アルヲ以テ此名アリ其一支脈西方ニ延ビ北國脇往還ノ通路ニ一ノ坂ヲ爲

セリ之ヲ野場工坂ト云フ全山樹木少シト雖俗ニ刈安ト稱スル染草ヲ出ス

石川谷川山ハ今莊ノ東北方ニアリテ南ハ七尾山ニ連リ東面ハ東草野村大字小泉ニ屬ス

梯子山ハ南池ノ東北隅ニアリテ佐野及北池ニ跨ル

東山ハ北池立山ハ大字法樂寺ノ東北境ニ連互スル山脉ニシテ南石川谷川山ニ連リ東北ハ下草野村大字小野
寺ノ諸山ニ連ル

以上ノ諸山松樹雜木茂生ス

岡山ハ大字法樂寺ノ西田圃ノ中央ニアリ芝草全山ヲ蔽ヒ樹木無シ

原野

紫野ハ法樂寺ニアリテ立山ノ麓ナリ東北ヨリ西南ニ彎曲シ長二町餘面積三町五段九步ニシテ本郡第
一ノ原野ナリ

川

姊川ハ東南坂田郡伊吹村大字ヨリ來リ相撲庭今莊佐野野村ノ南境ヲ西ニ流レテ湯田村大字三田ニ至ル湯田村古蹟參照
小谷井川ハ相撲庭ニ於テ姊川ヨリ取レルモノニシテ下流ヲ赤井川ト稱シ今莊ヲ經テ石川谷川ト共ニ
小嶋井川ニ入ル

小嶋井川ハ今莊ニ於テ姉川ヨリ取レルモノニシテ赤井水川ヲ合シ佐野野村ヲ經テ湯田村大字ニ入ル
官衙及公署

野村郵便局ハ明治七年四月一日ノ創立ニシテ民舎ニ設ク同十八年十月一日貯金事務ヲ開始シ翌十九
年三月鍛冶屋郵便局廢止ニヨリ之ヲ合ス同二十五年五月十六日爲替事務及七月十日外國(通)爲替事
務ヲ開始シ同三十二年四月一日電信爲替事務同年十二月一日小包郵便ノ事務ヲ開始セリ此間局ノ移
轉アリト雖年月詳ナラズ

七尾村役場ハ今莊ニアリ明治十八年月日詳ナラズ佐野村ノ民舎ヲ假用シ今莊佐野南池北池法樂寺野村ノ六ヶ
村聯合シテ役場ヲ設ケ佐野村外五ヶ村戸長役場ト稱ス同二十二年町村制實施ニ際シ七月坂田郡相撲
庭ヲ合シ七尾村ト稱シ七尾村役場ト改ム同二十五年六月十日今莊ノ舊校舍へ移轉ス

巡查駐在所ハ野村ニアリ明治十一年月日詳ナラズノ創立ニシテ民家ヲ假用シ巡邏區域ハ野村佐野今莊南池北
池三田大路ノ七ヶ村ナリシガ同二十二年四月大路ヲ除キ相撲庭ヲ加フ同二十四年同大字ノ舊校舍へ
移轉シ七尾村全部及湯田村ノ三田ヲ巡邏區域トシ後同二十七年又區域變更シテ野村佐野今莊相撲庭
南池及三田ノ六大字トナリ三十年ニ至リ本村全部ヲ區域トス

學校

七尾尋常小學校ハ佐野ニアリ明治二十一年九月一日ノ創立ニシテ岡高小學校支校ト稱ス以前ハ今莊
ニ今莊學校相撲庭ニ敎立學校北池村ニ明達學校(北池野佐野法樂寺聯合)アリシガ同十九年小學校令實施ニ際シ更
ニ通學區域ヲ擴張シテ前三校ヲ廢シ東野村ナル岡高小學校ノ支校トシテ舊明達學校舍ヲ使用シ同年
十月野村ヲ合シ同二十一年九月校舍新築成ル現今ノ校舍是ナリ同二十四年四月一日岡高小學校ノ區
域ヲ脫シ尋常科七尾小學校ト改稱ス同二十五年改正小學校令ニヨリ七尾尋常小學校トナリ同二十九
年四月一日單級ノ補習科ヲ加設シ同三十二年一月十五日裁縫補習科ヲ加フ現今尋常科三學級補習科
一學級ニシテ尋常科百九十一人補習科五十二人裁縫補習科三十三人合計二百七十六人ナリ

神社

社名	祭神	社格	勸請年月日	所在地
春日神社	春日大明神	村社	不詳	相撲庭
天津神社	伊弉諾命	同	同	今莊
北野神社	菅原道真	同	弘長年中	野村
秋葉神社	軻遇突知命	無格社	不詳	今莊
大年社	大年大明神	同	同	同

方リ詔ヲ奉シテ其平癒ヲ祈リ奉ル同五年 皇后御懷胎ノ際ノ如キ惟幄ニ侍リテ祈念シ奉レリ萬延元年三月權僧正トナリ文久三年ヨリ年々廩米七石ヲ下賜セラレ尋テ僧正トナリ廩米拾三石ヲ加賜セラレ慶應二年十二月 孝明天皇御不豫ニ際シ御床ニ侍リ祈念シ奉リ金帛若干下賜セラレタリト云フ明治二十一年八月三日病ヲ歿ス享年七十

佐野氏居址

佐野氏居址ハ大字佐野ニアリ彈正屋敷トモ稱ス

悲現寺專覺寺跡

悲現寺專覺寺跡ハ大字南池ニアリ上古厩戸皇子此地ニ寺二字ヲ帥創シ藥師釋伽ノ二佛ヲ以テ本尊トシ定惠論師ヲ開基トセラレ各淺井十二大寺ノ一ナリシガ後天正ノ兵乱ニ際シ柴崎源三郎悲現寺ノ藥師如來ヲ奉ジテ此地ヲ去リ乱鎮マリテ後佐野村ニ住シ小堂ニ安置ス今佐野ナル藥師堂之ナリ依テ悲現寺ハ今名ノミ殘リ專覺寺ハ五輪塔及古墳今ニ存ス

小池

小池ハ大字北池ニアリ古 推古天皇ノ御宇厩戸皇子灌漑ノ便ヲ計リ此地ニ大池二个ヲ作り給ヘリ後星霜ヲ經フルニ從ヒ南方ナル一个ハ全ク埋マリテ田圃トナリ他ノ一个亦僅ナル小池トナリ今存

スルモノ之ナリト云フ

保樂寺跡

保樂寺跡ハ大字法樂寺ニアリ往古淺井十二大寺ノ一ニシテ宣敎大師彫刻ノ觀世音菩薩ヲ安置セシレ後廢絶シ觀音像ノミ小堂ニ安置セシガ數年前ノ大雪ニ於テ堂宇全ク破壊シ今ハ其跡ヲ存スルノミ

多賀氏野村氏居址

多賀氏野村氏居址ハ何レモ大字野村ニアリ今ハ里人ノ宅地トナレリ

人物

豐菊姬

豐菊姬ハ福永豐重ノ女ニシテ 後鳥羽上皇ノ侍姬ナリシガ承久役ノ結果義時ノ暴逆終ニ 上皇ノ播遷セラレ給フヤ悲哀ニ堪ヘズ故郷ニ歸リ池中ニ投ジテ遠逝シケリ位牌ハ坂田郡名超寺ニアリ法名ヲ勸皇院空月寂忍信女ト號ス

河崎兵太

河崎兵太ハ美濃國養老郡三俣村農佐水増三郎ノ三男ニシテ文政十二年八月十五日出生權四郎ト稱

ス資性温順父母ニ事ヘテ至孝ナリ元治元年十二月八日本郡今莊村農河崎やつノ家ニ養ハレ名ヲ兵太ト改ム家甚貧困ナリシヲ以テ常ニ人ニ傭ハレ其所得ノ金ヲ以テ生計ヲ助ク兵太克ク養母ニ事ヘ一家親睦和氣雍々タリ慶應二年四月養母會中風症ニ罹ル兵太願之ヲ憂ヒ醫ヲ招キ藥ヲ求メ看護周到毫モ怠ラズ病勢愈加ルニ及ビ或ハ養母ヲ負ヒテ浴ヲ他家ニ執ラシメ或ハ神社佛閣ニ參拜セシメ或ハ花月ヲ山野ニ賞セシメ且朝夕養母ノ身裝口味等親シク之ヲ辨セリ此ノ如キコト十五年殆一日ノ如シ明治十四年五月一日養母溢焉永眠ス兵太悲哀慟哭シテ之ヲ葬ル明治十年某月某日滋賀縣令龜手田安定兵太ノ至孝ヲ褒シテ金三圓賞與セリ

河崎まも

河崎まもハ本郡今莊村ニ生レ父ヲ兵太夫母ヲやつト稱スまもハ其長女ナリ安政三年七月七日父ヲ亡ヒ元治元年十二月八日美濃國養老郡二俣村ノ農佐水權四郎ヲ迎ヘテ夫トナスまも親ニ孝ニ夫ニ貞ニ能ク生計ヲ助ク慶應二年四月母やつ病ニ罹リ身体意ノ如クナラザリシカハ夫ト共ニ貧苦ニ處シ心力ヲ竭シ看護ヲ怠ラザリシコト殆十數年母死スルニ及ビ哀悼ニ堪ヘズ眩然厚ク葬ル明治十年某月某日滋賀縣令龜手田安定ヨリ金三圓ヲ賜ハリ其孝貞ヲ表賞セラル

佐野美作守恒種

佐野美作守恒種ハ佐野ニ住セリ世々京極氏ニ屬シ近郷ヲ領セシガ後淺井氏ニ屬シ軍功アリ子常陸介ニ至リ小谷落城ノ際井上ト改姓シ世ニ隠ル家系今ニ存ス

多賀左近

多賀左近ハ京極氏ノ旗頭ニシテ野村ニ住セシガ子孫多賀兵部ニ至リ羽柴秀吉ノ爲ニ力ヲ盡シ天正十九年四月十九日感狀一通ヲ受ク家系今ニ絶エズ

野村肥後守直定

野村肥後守直定ハ京極氏ノ旗頭ニシテ野村ニ住セリ其子定元永正ノ頃淺井氏ニ屬シ軍功アリ淺井氏滅ビ後羽柴氏ニ屬ス姓ヲ佐々木ト改メ家系今ニ存ス

五仙先生

五仙先生ハ通稱ヲ齊治郎ト稱ス北池村田村喜平ノ四男ニシテ天保二年十月某日ニ生ル性樸直ニシテ孝ナリ人ト爲リ文ヲ好ミ書ヲ能クス壯年ニ及ビ寺小屋ヲ開キ郷子弟ノ教育ニ從事セリ明治昭代ニ及ビ益教育ノ道ニ盡サント欲シ大津師範學校ニ入リシガ家事ノ已ムヲ得ザルアリテ退學シ後復自宅ニ於テ近郷ノ青年ヲ教導シ常ニ書ヲ講シ或揮毫シテ優遊以テ老イ明治十四年三月一日病ヲ歿ス年五十一後子弟等碑ヲ建テ其德ヲ追慕セリ

生業

人民多クハ農作ヲ力メ傍養蠶ヲ勵ム商工ノ業ヲ營ムモノアリト雖專業トスルモノ甚稀ナリ

地質

多クハ壤土ニシテ一部壤質礫土アリ何レモ第四紀新層ニ屬ス

産物

米穀、繭、生絲、菜種、刈安、石灰等ナリ

交通

國道

北國脇往還ハ坂田郡大原村大字ヨリ來リ相撲庭ニ入り今莊佐野村ヲ過ギ下草野野村大字ニ至ル
里道縣稅支辨街道

七尾街道ハ坂田郡那郷里村大字ヨリ來リ今莊ニ入り北國脇往還ヲ横斷シ佐野南池北池法樂寺ヲ過ギ下草野村大字ニ至ル

市道ハ坂田郡大原村大字ヨリ來リ相撲庭ヲ過ギ今莊ニ於テ七尾街道ニ合ス
御坊道ハ湯田村大字ヨリ來リ野村ニ於テ北國脇往還ニ合ス

沿革

上古ノ沿革明ナラズト雖近世法樂寺北池南池佐野ハ下草野莊ニ屬シ今莊野村ハ湯次莊ニ屬シ相撲庭ハ坂田郡大原莊ニ屬セシガ明治二十二年合シテ各村ヲ大字トシ七尾村ト改稱セリ

管轄

鎌倉幕府以前

今莊法樂寺ハ延暦年間ヨリ參議兼兵部卿橘朝臣奈良麿五男官須磨淺井大娘ノ家ヲ嗣ギシヨリ其領地トナレリ

相撲庭佐野南池北池野村ハ記録散逸シテ明ナラズ

鎌倉及足利幕府時代

佐々木秀義近江守護ニ任セラレ子孫奕世之ヲ食ム曾孫泰綱氏信南北分領スルニ及ビ北部六郡ハ氏信之ヲ領シ京極氏ト改ム裔孫高峯ニ至リ兵威衰へ永正十三年家宰淺井亮政終ニ之ヲ奪ヒ孫長政ニ至ルマデ之ヲ領ス

佐野南池北池ハ京極持清ノ旗頭佐野美作守恒種之ヲ領シ其子常陸介淺井氏ニ屬シ軍功アリテ之ヲ繼ゲリ

相撲庭ハ記録ナキヲ以テ明ナラズ

織田及豊臣時代

天正元年ヨリ羽柴秀吉ノ領地トナリ後秀次ヲ經テ石田氏ノ所領ニ屬ス

佐野南池北池野村ハ天正十五年秀次之ヲ領シ代官田中兵部大輔吉政之ヲ支配ス文祿四年ヨリ石田三成ノ領地トナリ慶長五年ニ至ル

今莊法樂寺ハ天正元年代官野村肥後守定元之ヲ支配ス

徳川幕府時代

相撲庭ハ慶長二十年井伊掃部頭直孝之ヲ領シ子孫世襲直憲ニ至ル

野村ハ代官日下部善助之ヲ支配シシガ慶長二十年井伊直孝ノ領地トナリ子孫世襲直憲ニ至リ慶長二年代官多羅尾四郎左衛門之ヲ支配ス

南池ハ元和三年小堀遠江守正一之ヲ領シ寛永四年小堀權十郎政尹之ニ代リ子孫世襲政安ニ至ル今莊ハ享保九年柳澤甲斐守吉重之ヲ領シ子孫世襲甲斐守保甲ニ至ル

佐野ハ代官日下部善助ノ支配タリシガ慶長二十年二領ニ分ル一ハ井伊直孝ノ領ニシテ世襲直憲ニ至ル一ハ柳澤吉里ノ領ニシテ子孫世襲保甲ニ至ル

北池ハ一部慶長二十年井伊直孝之ヲ領シ子孫世襲直憲ニ至リ一部ハ元和三年小堀正一ノ領トナリ寛永四年小堀政尹之ヲ領シ子孫世襲政安ニ至ル

法樂寺ハ一部元和三年小堀正一之ヲ領シ子孫世襲和泉守政方ニ至リ没收セラレ天明六年代官石原庄三郎之ヲ支配シ石原清三郎ニ至ル一部ハ享保九年柳澤吉里之ヲ領シ子孫世襲保甲ニ至ル

明治初年

相撲庭野村ハ井伊直憲之ヲ預リ二年版籍奉還シテ知藩事ニ任セラレ之ヲ治ム五年犬上縣トナリ同年九月同縣廢止ニヨリ滋賀縣ニ屬ス

南池ハ小堀政安之ヲ領セシガ二年版籍奉還ニヨリ大津縣ニ合シ五年犬上縣ニ合ス以下同今莊ハ柳澤保申之ヲ領セシガ二年版籍奉還シテ知藩事トナリ五年犬上縣ニ合ス以下同

佐野ハ二領ニ分レ一ハ井伊直憲一ハ柳澤保申之ヲ領セシガ二年版籍奉還ニヨリ各知藩事ニ任セラレ之ヲ治ム五年犬上縣ニ合ス以下同

北池ハ二領ニ分レ一ハ井伊直憲一ハ小堀政安之ヲ領セシガ二年版籍奉還井伊直憲ハ知藩事ニ任セラレテ其地ヲ支配シ小堀政安ノ領地ハ大津縣ニ屬シ何レモ五年犬上縣ニ合ス以下同

法樂寺ハ三領ニ分レ一ハ石原清左衛門一ハ小堀直次郎一ハ柳澤保申之ヲ領セシガ二年ニ石原及小

廻ノ領地ハ大津縣ニ合シ柳澤ハ知藩事ニ任セラレ之ヲ治ム五年何レモ犬上縣ニ合ヌ以下

住家取調表

住家所有區別		住家構造區別		住家屋上區別	
種別	棟數	種別	棟數	種別	棟數
持地持家	三九〇	木造	四二七	瓦葺	六四
借地持家	一三	土藏造		板葺	一九九三
持地借家		煉瓦造		コケラ葺	
借地借家	一四	石造		葦葺	三六三
合計	四二七	合計	四二七	合計	四二七
					九三五五
縮緬	三五〇〇 <small>寸</small>		二六二五 <small>寸</small>		
生絲	二七〇〇 <small>寸</small>		一四八〇〇 <small>寸</small>		

産物取調表

酒	一〇三、五〇〇 <small>合</small>	二七、九四〇 <small>合</small>
醬油	四一、一〇〇 <small>合</small>	四九、三二〇 <small>合</small>
油	一九、〇〇〇 <small>合</small>	六二、七〇〇 <small>合</small>
瓦	一六〇 <small>坪</small>	一四、四〇〇 <small>坪</small>
油滓		三〇、四〇〇 <small>合</small>
米	五一、九六五 <small>石三合</small>	
麥	四二、二七八 <small>石五合</small>	
大豆	八〇、五〇〇 <small>合</small>	
蕎麥	六四、一七二 <small>石合</small>	
茶	六八、〇〇〇 <small>合</small>	
桑葉	七四、八五〇 <small>石〇〇合</small>	
春蠶種	七、六六〇 <small>合</small>	
夏蠶種	六、九五五 <small>合</small>	

徳川時代石高取調表

村名	徳川氏ノ初年	元祿年間	享保年間	寛政年間
相撲庭	不詳	不詳	不詳	不詳
今莊	二五五 _石 二九〇 _合	二五五 _石 二九〇 _合	二五五 _石 二九〇 _合	二五五 _石 二九〇 _合
佐野	二七三〇八〇	一七〇八六八〇	三七〇〇〇〇	三七〇〇〇〇
南池		二〇八三四〇	二〇七九八〇	二〇七三八〇
北池	三〇六四三〇	三五〇一〇〇	三五〇一〇〇	三五〇一〇〇
法樂寺	一八七七七八	一八七七七八	一八〇五九〇	一八二六一八
野村		五五一一三〇		五五一一三〇
合計	一〇二二五七八	三二六一三一八	一三六九二七〇	一九一六五一八

明治以後地價取調表

大字名	明治二十二年以前ノ地價	明治二十二年修正地價	明治三十二年修正地價
相撲庭	四〇七九九 _町 六三 _畝	三五八五〇 _町 三二 _畝	三一八八七 _町 〇三 _畝
今莊	一七五四八五五	一五七三八〇八	一三二四六〇四
佐野	一七六七七六七	一五三八三一二	一三二八四六一
南池	九四九三五三	八三四七八四	七三〇〇〇二
北池	一七五九六一九	一五二〇二九五	一三三三〇一四
法樂寺	九三九〇七〇	八一五二一六	七〇六三〇四
野村	三七九四六二六	三二七六九一九	二八六八九〇〇
合計	一五〇四五二五三	一三一四四三六六	一一四七〇一一四

湯田村誌

位置

本村ハ東淺井郡中部ノ南方ニ位シ東ハ七尾村大字野村大字下草野村大字西西北ハ田根村大字木尾大字西ハ小谷村大字伊部大字虎姫村大字宮部大字三川ニ接シ南ハ姊川ヲ隔テ、坂田郡神照村大字北郷里村大字ニ界ス

面積

八百二十三町四段五畝二十步

内

田 四百十一町四段六畝二十七步

畑 百八十八町七段九畝七步

郡村宅地 五十町七段二畝十步

山林原野 百六十七町七段九畝二十九步

其他 四町六段七畝七步

戸數及人口

戸數 八百五十二戸

人口 三千九百十八人 内男千八百五十一人 女二千〇六十七人
區劃

本村ヲ内保、大路、三田、大依、八嶋、平塚、尊勝寺、山ノ前、西野、尊野、湯次ノ十一大字ニ分
ツ

各大字名稱沿革

三田ハ古御田ノ字ヲ用ヒシガ後三田ノ字ニ改レルナリト云フ
大依ハ往古大寄ノ字ヲ用ヒ後^{年代詳カ}尾崎及小寄トナリ維新後大依ノ字ヲ用フルニ至レリ
八嶋ハ古矢嶋ト書セシガ後^{年代詳カ}八嶋ノ字ニ改メシモノナリ其改字ノ由來ニ曰ク古昔 敏達天皇ノ
裔孫大和國^{イナ}五村ヨリ來リたるを塚^{今ノ平塚}ニ數年逗留セラレタルコトアリ其際里人此地ノ形勢大和國
五村近傍ノ八嶋ニ相類スルヲ聞キ以テ八嶋ノ字ヲ用フルニ至レリト
平塚ハ古來平野村ト稱セシガ永錄年間ニ平塚村ト改稱セリ
尊勝寺ハ往古小照寺或ハ高勝寺村ト稱セシガ後平野村ト稱シ天文元年尊勝寺村ト改メシモノナリ其
改稱ノ由來ニ曰ク上古當地ニ尊勝寺ト稱スル寺アリシニヨルト
西野ハ元來尊勝寺ノ出郷ニシテ天正年間ヨリ小字ヲ西野ト稱セシガ明治八年分離シテ西野村ト稱セ

尊野ハ往古下野村ト稱セシガ後野村ト稱シ元祿元年尊野村ト改稱セシモノナリ
湯次ハ上古湯次宮ト稱シ全ク神家巫戸等ナリシガ後寺院神社燒失セルヨリ悉解職シテ農トナリ湯須
村ト稱シ慶長七年湯次村ト改稱セルモノナリ

地勢

東西凡一里二十町唐北凡一里二十五町地形ハ東南ヨリ西北ニ長ク四境屈曲シテ北部廣シ東北境ニ大
依山八嶋山連リ西北境ニ雲雀山アリ姉川草野川ハ南部ヲ田川ハ北部ヲ西ニ流ル土地概シテ平坦漸次
西北方ニ低下ス

山

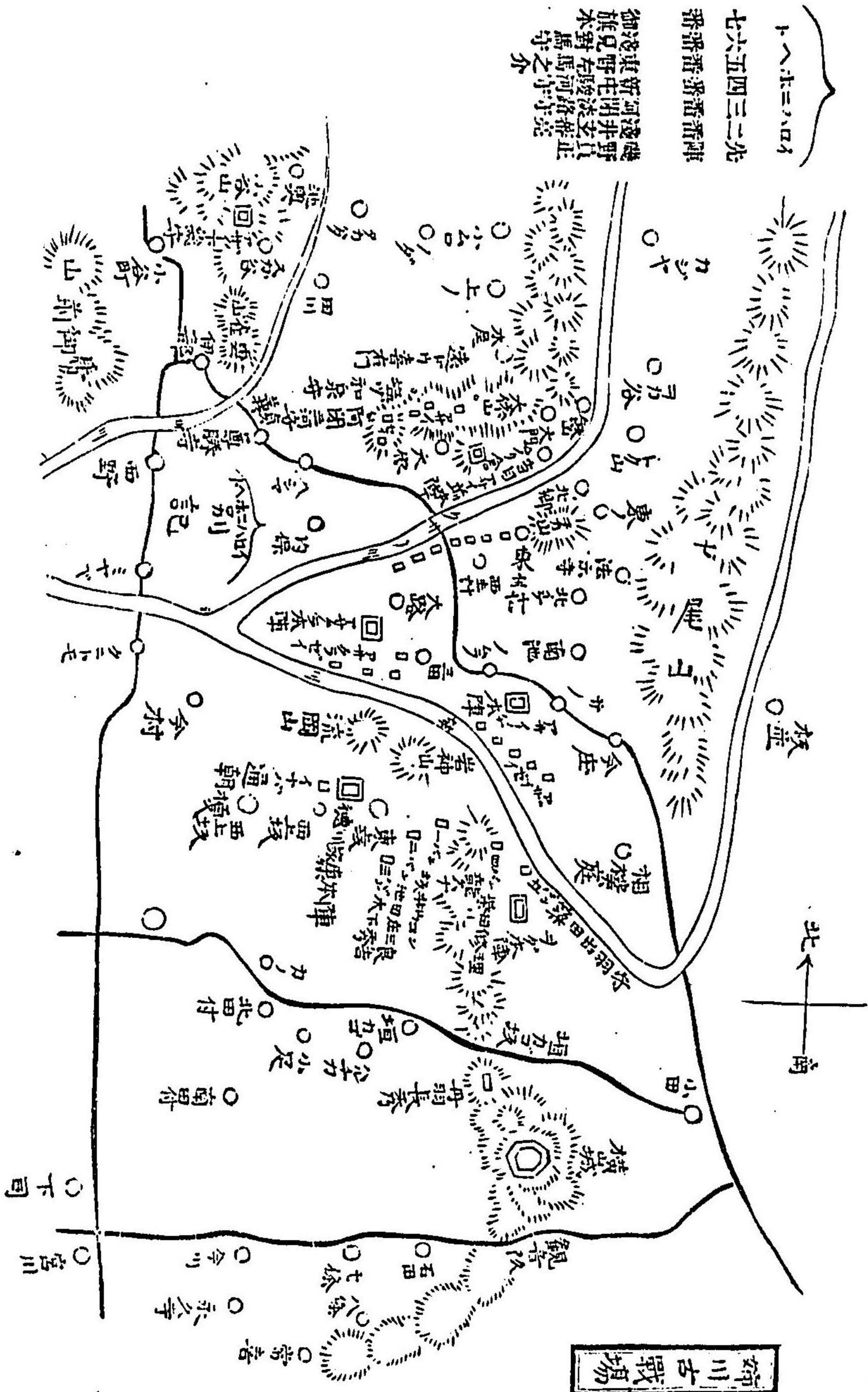
大依山ハ大依ノ東北方ニ連互スル山脉ニシテ北及西ハ田根村ノ諸山ト八嶋山トニ連リ東面ハ下草野
村^{大字兼倉}北面ハ田根村^{大字}ニ屬ス滿山松樹茂生ス姉川戰城ニ入ル^{古跡部}
八嶋山ハ東大依山ニ連リ北面ハ田根村^{大字}ニ屬シ西南ニ延ブ此脈中東元山ヲ始メトシ馬場谷御生靈
山七廻笠取山ノ諸山アリ其西南端ヲ秋葉山ト云ヒ秋葉神社アリ姉川戰城ニ入ル
雲雀山ハ山ノ前ノ西北境ニアリテ西面ハ小谷村^{大字}ニ屬ス^{小谷村誌古}
^{伊部ニ跡部參照}

姊川ハ東南七尾村大字ヨリ來リ三田ノ南境ヲ西流シ虎姫村大字宮部ニ入ル
 元龜元年四月織田信長越前ニ入リ朝倉義景ヲ討ス是ヨリ先キ淺井長政ハ信長ト姻戚ナリシモ常ニ
 陸シカラズ朝倉氏ト互ニ應援セシガ信長兵ヲ越前ニ出スト聞キ信長ト絶テ自小谷坂ニ據リ鹽津刀
 根今濱米原ノ城砦ニ戍兵ヲ置キ以テ其道ヲ塞グ俗長怒リ兵ヲ返シテ小谷城ヲ攻メントス長政ハ朝
 倉氏ニ謀シ合ヒ夾撃シテ一舉ニ殲サント欲シ六月長比刈安ノ二砦ヲ修メ之ニ備フ廿一日信長兵ヲ
 率ヒテ淺井郡ニ入り別ニ兵ヲ雲雀山ニ置キテ小谷ニ備ヘ先横山城ヲ攻ム淺井氏ノ將横山大野木三
 田村野村等急ヲ小谷ニ告ケ援兵ヲ乞フ時ニ朝倉景健兵一万三千ヲ率キ來リ援ク長政兵八千ヲ以テ
 大寄山ニ軍シ信長ハ龍ヶ鼻ニ軍ス徳川家康亦來リテ信長ヲ援ク廿七日長政陣ヲ野村主計ニ進メ景
 健ハ大路村三田村ニ陣シ天明ヲ待チ戰ヲ挑マントス信長乃氏家常陸之介ヲ留メ横山城ニ備ヘ自兵
 ヲ分チテ十三隊トシ來リ姊川ノ南ニ軍ス坂井右近政尙ヲ先鋒トシテ池田木下柴田中條等各隊ニ將
 タリ長政亦姊川ノ北ニ軍シ磯野貞正ヲ先鋒トシ兵ヲ七隊ニ分チ淺井阿閉新庄東野淺見等ヲ各隊ニ
 將トス家康稻葉伊豫守通朝ト共ニ景健ニ當リ西軍大ニ姊川ニ戰フ既ニシテ長政ノ兵坂井政尙池田
 信輝ヲ破リ信長ノ中軍ヲ突ク時ニ景健利ヲ失ヒ退キテ長政ノ軍ニ合ス信長益殆シ家康之ヲ見テ景

健ノ軍ヲ突キ北クルヲ追ヒテ三川田川村マデ至リシガ信長ノ急ナルヲ以テ直ニ歸リテ之ヲ援ク又
 氏家常陸之介部下ヲ率キテ來ルアリ共ニ夾撃シテ急ニ迫ル是ニ於テ長政支フル能ハズ逃レテ小谷
 城ニ歸リ淺井雅樂加納次郎左衛門之ニ死シ諸兵潰散ス遠藤直繼首級ヲ提ゲ敵ニ混ジテ信長ヲ狙撃
 セント欲ス成ラズシテ死ス信長直ニ小谷城ヲ攻メント欲シタリシガ捕虜安養寺經世ナルモノアリ
 城兵尙多キヲ語ル信長其謀計ナルヲ知ラズ經世ヲ許シ小谷ヲ攻ムルコトヲ止ム柴田勝家横山城ヲ
 攻ム守將大野木秀俊逃レテ小谷ニ歸ル信長兵ヲ引キ退キテ佐和山城ヲ攻ム磯野貞正固守シテ降ヲ
 ズ戍兵ヲ諸砦ニ置キテ去ル

草野川ハ東方下草野村大字ヨリ來リ三田大路ト内保トノ境ヲ西南ニ流レ虎姫村大字宮部ニ入ル
 田川ハ田根村大字野村大字ヨリ來リ八嶋ノ北境及山ノ前ノ北部ヲ西流シ小谷村大字伊部ニ入ル
 郷里井川ハ七尾村大字野村大字ヨリ來リ三田ニ於テ下草野村大字ヨリ來レル大井川ヲ合シ三田大路ノ田用水
 トナリ餘水虎姫村大字宮部ニ入ル
 中川ハ八嶋ヨリ出テ大字尊勝寺西野ヲ經テ虎姫村大字三川ニ入ル

新川古戦場



官衙及公署

湯田村役場ハ大字内保ニアリ明治十八年七月一日内保村ノ民家ヲ假用シ内保大路三田大依八嶋平塚
尊野湯次ノ八ヶ村聯合シテ役場ヲ設ケ内保村外七ヶ村戸長役場ト稱ス同十九年四月同村十地坊ノ堂
宇ニ移轉シ同廿二年町村制實施ニ際シ五月尊勝寺山ノ前西野ノ三村ヲ合シ湯田村ト稱シ湯田村役場
ト改ム同廿九年七月大字内保ノ議事堂ヲ假用シ移轉ス

巡查駐在所ハ大字八嶋ニアリ明治二十年一月一日八嶋ナル舊校舍ヲ假用シ巡查居住所ヲ置ク八嶋平
塚尊勝寺山ノ前田川須ヶ谷西野三川宮部湯次尊野内保大依ノ十三ヶ村ヲ巡邏區域トス同二十一年十
二月八日新築成リ移轉シ同二十二年一月一日巡查駐在所ト改稱ス同月十九日巡邏區域改マリ八嶋平
塚尊野湯次三川宮部西野内保ノ八ヶ村トナリ後敷回區域ノ變更アリシモ詳ナラズ現今ハ八嶋平塚尊
勝寺内保及田根村ノ木尾田川ノ六大字ヲ其區域トス

學校

湯田尋常小學校ハ大字内保ニアリ明治七年七月十五日ノ創立ニシテ内保村十地坊ノ堂宇ニ假設シ覺
明學校ト稱ス當時内保一村ノミナリシガ同八年八月八嶋湯次ノ二村ヲ合セシモ同十年二月ニ至リ八
嶋ハ通學不便ナリトテ區域ヲ脱スルト同時ニ尊野村加入シ同十二年九月二十五日本校舍ヲ新築ス同

十七年四月大依村當學區内ニ入り同十九年十一月小學校令實施ニ際シ三田大路八幡平塚ノ四村加入
 シ尋常科養徳小學校ト改稱ス同二十三年一月三田ニ十一月八幡ニ各假分教場ヲ設置シ尋常科湯田小
 學校ト改稱ス同二十六年四月改正小學校令ニヨリ湯田尋常小學校トナリ尊勝寺西野山ノ前ノ三大宇
 ヲ合シ同二十八年六月二十四日單級ノ高等科ヲ併置シ湯田尋常小學校ト改稱ス同三十年四月二十一
 日裁縫專修科ヲ加設シ現今尋常科五學級高等科二學級ニシテ兒童數尋常科三百四十七人高等科百〇
 五人專修科八十二人合計五百三十四人ナリ

神社

社名	祭名	社格	勸請年月日	所在地
湯次神社	御名方咩命	郷社	安康天皇元年甲午十二月	大路
八幡神社	瀨織津比咩命	村社	雄略天皇二年	内保
天満宮	菅原道真	同	正中	三田
天神社	菅原道真	同	不詳	平塚
平焚神社	素盞烏命	同	元和七年	尊勝寺
八幡神社	應天神	同	不詳	西野

日吉神社	大山咋命	同	同	尊野
湯次神社	御名方咩命	同	安康天皇元年甲午十二月	湯次
森神社	不詳	無格社	雄略天皇二年	内保
大國主神社	大國主命	同	同	大路
少彦名神社	少彦名命	同	同	同
熊野神社	伊弉冉命	同	同	同
北野神社	菅原道真	同	同	同
野神社	鹿屋野比賣命	同	同	三田
八幡神社	應天神	同	同	大依
少那神社	少彦名命	同	同	同
八幡神社	應天神	同	同	平塚
八幡神社	應天神	同	同	八嶋
秋葉神社	秋葉大權現	同	元和三年癸亥十二月十八日	同
八幡神社	井伊掃部頭	同	不詳	尊勝寺
大主神社	大國主命	同	同	同

天神社 菅原道真 一同 山ノ前

式内湯次神社ハ大字大路ニアリ大路三田内保下草野村大字西主計七尾村大字野村ノ産神ナリ以前ノ社地ハ草野川ノ南涯ニアリテ常ニ水害ヲ受ケ特ニ明治二十九年九月洪水ノ際ノ如キ浸害甚シカリシヲ以テ翌三十年九月十日今ノ地ニ遷セルモノナリ縁起ノ略ニ曰ク當社ハ延喜式内神名帳近江國淺井郡十四座中ノ一ニシテ風土記ノ所謂湯須神社圭田二十九束三毛田 安康天皇元年甲午十二月始所祭御名方命也同一座圭田三十四束三字田 雄略天皇二年始所祭瀬織津比咩命也有神家巫戸等云々是ナリ而中古ニハ湯次莊淺井坂田二郡ノ内野村御田内保西主計三川大路今莊宮部野平塚田村大井西大井湯次律勝寺西野中ノ郷今村下ノ郷井ノ尻安福寺森村等總計四十八ヶ村ノ産神ニシテ社地四町八段歩アリキト云フ

湯次神社ハ大字湯次ニアリ縁起ノ畧ニ曰ク當社ハ延喜式内神名帳近江國淺井郡十四座中ノ一ニシテ元湯次莊十三郷ノ總社タリシガ元龜四年ノ兵乱ニ燒失シ天正三年十一月仮本堂建築セラレシモ後追々産子減シ終ニ本村ノミ崇敬スルニ至レルナリ往昔社領八斗二升四合アリテ境内六反七畝十三歩ナリシガ慶長七年八月四日檢地ノ際除地六反三畝廿五歩トナリ寛永二十一年十一月二十九日

佛閣

再檢地ノ節全ク除地ヲ廢セラルル天正三年十一月仮本堂建築ノ際三田村中ノ郷等十三郷ヨリ經費ヲ寄附セン送リ狀今ニ存ス

寺名	宗派	開基年月日	開祖或中興祖	所在地
哲願寺	真宗本派	白鳳十三年	僧 定	大字内保
成滿寺	真宗大谷派	寛永二年	僧 了	同
哲順寺	真宗本派	寛永十八年	僧 正	同
十地坊	真言宗新義派	長祿二年	僧 慶	同
忍法寺	真宗大谷派	不詳	僧 順	大 路
極樂寺	同	同	僧 乘	同
運行寺	同	同	僧 了	同
傳正寺	同	永久年中	僧 壽	三 田
了西寺	同	天文三年	僧 順	同
景流寺	同	不詳	僧 正	同

安勝寺	眞宗本派	同	永祿元年十一月	僧	永祿五年二月中興	淨	念	大	依
玄龍寺	眞宗大谷派	永祿元年十一月	僧	受	海	八	嶋		
蓮臺寺	同	文龜三年三月	僧	賢	智	同			
實西庵	禪宗曹洞派	天文十一年三月	尼	昌	庵	平	塚		
稱名寺	眞宗大谷派	文正元年	僧	教	圓	尊	勝	寺	
慶徳寺	同	元和八年十月二十日	僧	順	西	同			
逆光寺	同	應永十二年五月	僧	了	山	同			
訖明寺	同	延寶五年二月	僧	淨	傳	西	野		
法音寺	同	元祿八年	僧	宗	哲	尊	野		
養泉寺	同	延寶六年	僧	善	久	同			
滿徳寺	同	不詳	僧	久	誓	湯			

備考

誓願寺ハ定惠論師ノ艸創ニ係リ淺井十二大寺中ノ一ニシテ 文武天皇ノ叙願所トナリ爾來法相三論兼學ノ靈場トナル天平年中僧行基亦十二體ノ佛像ヲ彫刻シ各十二寺ニ安置セリ寶龜年中湯次寺

ト改稱シ天慶二年僧實祐ノ時法相天臺兼宗トナリ應保二年蓮乘寺ト改稱ス文治三年十二月湖源頼朝ヨリ岡本ノ郷ノ内六十貫文ノ地ヲ拜領シ繁盛ナリシガ正治元年回祿ノ災ニ罹リ衰微セリ嘉祿元年常陸國幡谷太郎高重(附唯)ナルモノ親鸞聖人ノ命ヲ受ケ當寺ニ住シ密ニ念佛門ヲ修ム是ヲ中興開基トス後覺如上人北陸道ヘ下向ノ途次止宿セラレ天臺宗ヲ改メ眞宗トナシ誓願寺ノ號ヲ賜フ降テ第十一世了乘江北十ヶ寺ト共ニ石山籠城中ナル顯如上人ヲ助ケ或ハ淺井長政ノ爲メニ織田信長ニ抗セリ當時ノ連判狀及右加勢ニ關スル書狀等今ニ存ス當寺ニアル梵鐘ハ田中筑後守吉政嘗陣中ニ用キシモノナリシガ母堂追福ノ爲メ寄附セシモノナリ

稱名寺ノ開基ハ美濃國安八郡津布良莊與村ノ一士族坂田郡大原莊井ノ口ニ移住シ寛正四年尊勝寺ニ轉住シ津布良胤教ト號シ後七年ヲ經テ國司屋敷跡ニ天台宗ノ寺院ヲ興ス稱名寺即之ナリ次代教圓ニ至リ文明十三年三月眞宗ニ轉ズ百餘年ヲ經テ性教ニ至リ天正十八年豐臣秀吉ヨリ湖北八萬石ノ代官所ヲ司ルコトヲ命セラレ翌十九年四月二十三日復朱印ヲ以テ尊勝寺村郷ノ内六十三石並ニ屋敷等ノ寺領御判物ヲ付セラレ徳川時代ニ及ビ秀忠ヨリ寺領並ニ三葵ノ定紋ヲ賜ハリ爾來徳川累代ノ將軍亦朱印ヲ寄セラル以上ノ由緒アルヲ以テ先年大谷本願寺ヨリ同派中別格由緒地ト稱スベキ旨認可セラレタリ當寺後圍ハ小溝ニ架セル石橋ハ長三尺餘幅一尺餘ニシテ鮮明ナル木理アリ古

來謂ヒ傳フ楠ノ化石セルモノナリト

實西庵ハ又實際庵トモ書ス天文十一年三月豊臣秀吉ノ姊昌庵尼ノ開キタルモノニシテ當時寺領五十石アリシガ徳川時代ニ及ビ遂ニ衰ヘ現今僅ニ寺院ヲ存スルノミ

古跡

莊嚴寺跡

莊嚴寺跡ハ大路ニアリ古昔淺井十二大寺中ノ一ニシテ天台宗ナリシモ後眞言宗ニ改ム淺井氏ノ尊崇セル寺ナリ元龜天正ノ際兵燹ニ罹リ廢滅ニ歸シ今ハ全ク田圃トナレリ

三田村氏居址

三田村氏ノ居址ハ大字三田ニアリ今ノ傳正寺ノ屋敷ニシテ三田村氏居住セシ際ハ三重ノ垣堤アリキト云フ今ニ其内堤ヲ存ス人物部参照

大依山砦址

大依山砦址ハ大依及八嶋ニアリ兩大字ニ互レル山脈ナリ姉川合戦ノ際淺井氏ノ陣セシ處ニシテ其臣遠藤喜右衛門尉鹽津和泉守ノ兩氏砦ヲ築キ籠レリト云フ姉川戰域ニ入ル

龜塚

龜塚ハ八嶋ノ西部ニアリ高一丈七尺周回五十七間アリ雜樹茂生スルノミ古昔滋賀宮ノ際中臣金連ナルモノアリ弘文天皇ニ仕ヘ壬申ノ乱ニカテ盡セシガ乱後此地ニ斬ラレタルヲ白鳳元年土民ノ葬レルモノナリト云フ

救外寺跡

救外寺跡ハ八嶋ノ東北方ニアリ一ニ空華雨寺トモ書ス當寺ハ聖德太子ノ創立ニ係リ天台宗ノ大山ニシテ七堂伽藍並ビ立チ頗壯嚴末寺三十坊寺領三百石アリ淺井氏ノ菩提所タリ尋テ足利義輝將軍松永氏ノ爲弒セラル、ニ及ビ弟義昭逃レテ淺井氏ニ依リ此寺ニ館ス後朝倉氏ニ依ラントシ越前ニ起キシガ容レラレズ因テ復永祿十一年信長ニ頼ラントシ此處ニ數日滞在シ尾州へ出發セラル後淺井織田兩氏ノ合戦トナリ織田氏ノ爲破却燒失セラレ寺領沒收セラルト云フ伽藍塚今ニ存シ近邊ノ土中ヨリ布目瓦ヲ發掘スルコトアリ

公方跡

公方跡ハ八嶋ノ東南方ニアリ義昭救外寺ニ滞在中將來將軍タルヲ得バ王城ヲ此地ニ遷シ奉ラントテ其經營ヲ爲シ、地ナリト云フ今ハ全ク田圃トナレリ

將軍塚

將軍塚ハ八嶋ノ東南方ニアリ義昭當地ニ滞在ノ際將來王城タラシメメンニハ鎮護トシテ將軍塚ヲ要
ストテ作レルモノナリト云フ雜草茂生セリ
國司屋敷跡

國司屋敷跡ハ大字尊勝寺ノ稱名寺ノ地即是ナリ上古國司赴任ノ際要害ノ爲メニ重ノ大濠ヲ穿テ高
堤ヲ築キ中ニ祈願所鎮守神社公文所等ヲ造營セシガ鎌倉幕府ノ時ニ及ビ守護跋扈ノ爲遂ニ國司ノ
赴任ナク城廓モ荒廢ニ属シ明屋敷トナリ祈願所公文所等廢滅シ其本丸ハ後郷士大橋家ノ住宅トナ
リ終ニ稱名寺敷地トナレルモノナリト云フ神社及内濠ノ外今存スルモノナケレドモ小宇トナリテ
殘レリ

尊勝寺ノ市

尊勝寺ノ市ハ淺井亮政小谷築城ノ時ニ始リシモノニシテ宿驛ノ市ト云フ淺井氏滅亡ノ後天正十一
年十一月十一日改メテ佐和山城主堀秀政ヨリ市ノ免狀下附セラレ同十五年秀次ノ領地トナルヤ暫
ク市ヲ伊部村ニ移サレシガ同十八年再宿驛トナル其後互ニ市ヲ爭ヒシガ慶長六年伏見奉行ノ判決
ニヨリ永ク伊部ニ移ルコト、ナレリ

湯次六坊跡

湯次六坊跡ハ湯次ニアリ往古當地ヲ湯次宮ト稱セシ頃住人ハ悉ク社僧ノミニシテ六箇ノ寺坊アリ
天臺宗ノ末院ナリシガ應永年中ヨリ元龜年間ニ互リ兵燹ノ爲滅絶セシモノナリト云フ今ハ全ク住
民ノ宅地及ビ田圃トナレリ明治十年穿井ノ際出デシ青銅五貫目餘ヲ存ス

人物

三上黙

三上黙ハ美濃國ノ産ニシテ大路村ニ來リ住ス字ハ士成主水ト號ス安積長齋ノ門ニ入り儒ヲ學ブ桑
陰村莊詩鈔ヲ著ハス

三田村定政

三田村定政ハ淺井忠政ノ次子ナリ京極氏ノ旗頭ニテ三田村ヲ領セシガ後淺井三代ニ軍功アリ
岡本壽仙

岡本壽仙ハ尊勝寺村ノ人ニシテ頗博識ノ聞エアリ當時郡中醫家ノ上首ト稱ス地理書ヲ閱スルコト
ヲ好ミ寛政五年平野郷記三冊ヲ著ハス史家ノ參考ニ供スベキ好書ナリ

大橋安藝守秀元

大橋安藝守秀元ハ京極家ノ臣ナリシガ永正十三年淺井亮政起ルニ際シ之ヲ助ケ大ニ力ヲ盡セリ後

淺井家ノ執權職トナリ亮政ノ臍股ノ臣タリシガ亮政卒後其子久政弓馬ノ道ヲ忘レ唯遊藝ノミナ事トス秀元數諫言セシモ一トシテ用ヒザルノミナラズ却テ謀叛ノ企アリトシ天正十七年三月九日大橋父子ヲ小谷城ニ召シ大吉寺ニ塾居セシメタル依テ同月十五日身ノ潔キヲ示サントメ父子割腹シテ死ス

木下半介正元

木下半介正元ハ尊勝寺村和名寺住職性宗ノ四男ナリ還俗シテ壽輔ト稱シ豊臣秀吉ニ仕ヘ木下ノ民ヲ受ク賤ケ岳ノ合戦ニ從ヒ功ヲ顯ハシ或ハ朝鮮征伐ノ際肥前那古屋ニ於テ千五人ノ木下半介組トテ名ヲ擧ゲタリト云フ

日下部善助

日下部善助ハ徳川幕府ノ代官ニシテ尊勝寺村ニ住ス五村ヲ以テ一千戸ノ町ト爲サント欲シ大村刑部ト謀リ自費用ヲ出シ大村氏ハ土地ヲ出シ協力遂ニ御坊ヲ立ツ五村別院即是ナリ且田川姉川ノ水ヲ引キ舟行ノ便ヲ開カント企圖シ允裁ヲ經ルニ及ビ寛永十年八月似ニ卒去シ其事止ム

山脇新九郎

山脇新九郎ハ尊勝寺村ノ人ニシテ父ハ新左衛門ト稱シ庄屋ヲ勤ム常ニ仁愛ノ心ヨリ救民ニ力ヲ盡

シ漸家政衰ヘタリシガ新九郎繼グニ及ビテ之ヲ挽回シ遂ニ一郷屈指ノ資産家トナレリ天保年間當村社地ニツキ訴訟起リ費用多カリシヲ以テ村民ノ困苦ニ陥ランコトヲ恐レ藩主井伊侯ニ哀訴シテ淺分ノ救恤ヲ得且村民ニ勸ムルニ勸勉節儉ヲ以テシ大ニ其活計ヲ立テシム村民大ニ喜ビ其德ヲ忘レザル爲メ一ノ碑ヲ立テ題シテ仁君ノ碑ト云フ藩主ヨリハ其教化宜シキヲ賞シテ米貳俵及褒狀ヲ賜ヒ慶應元年九月淺井郡總代ヲ命セラル明治ノ初年ニ至リ馬渡小觀音寺兩村ノ間ニ永出作ノ論起リ他藩領地錦織村トノ關係トナリ境界論ノ葛藤相解ケザルニ及ビ和解御用掛ヲ命セラレ其功ヲ奏シ褒賞トシテ一代切苗字御免ヲ受ク同二年三月坂田淺井伊香三郡ニ於ケル彦根藩配下ノ大總代ヲ命セラレ同二年八月伊香郡川合村ト古橋村トノ間ニ養水ノ争生シ後和解御用掛ヲ命セラレ一旦治マリシモ再出作論激烈トナレリ其間ニ立テテ互ニ融和セシメタル功ヲ以テ永代苗字御免ノ褒賞ヲ受ク同四年九月朝日山縣ヨリ淺井第十區戸長ヲ命セラレ且山脇村及坂田郡春照村北小豆村ノ三村困弊セントセシヲ以テ其再興御用掛ヲ命セラレ功ニヨリテ同年十二月蔭書硯箱青磁活花瀝ヲ受ク當時近郷養蠶業起リ漸製絲業盛ナリシモ薪炭乏シク價高クシテ斯業ヲ中止セントスルモノアルニ至ル是ニ於テ濃江ノ境界ナル宇鳥越山ヲ開鑿シテ濃州淺又山ノ薪炭ヲ運搬セシメ一ハ濃州山間ノ産物ヲ輸出シ一ハ地方薪炭ノ欠乏ヲ救ヒ兩地ノ民利ヲ増サンコトヲ欲シ同十四年十一月許可シ得

翌年早春工事ニ着手シ二年ヲ經テ里程百五十町余ノ峻嶺ヲ開キ殆成功セントセシモ費用二万余圓ヲ自辨シタル爲メ破産ノ窮境ニ陥リ經費ノ不足ヨリ此余ノ工事ハ進行著シカラス完成セシハ同十九年四月ナリキ今之ヲ新九郎坂ト稱ス依テ同二十七年十一月三日美濃國廣瀬村中ヨリ感謝狀ヲ贈リ鳥越峠ニ一碑ヲ立テ其德ヲ題セリト云フ明治二十八年八月二十二日死ス享年七十三

按て

按てハ登勝寺村ノ寡婦ナリ文化十一年ニ生ル幼ニシテ孝入々之ヲ喪ム兩親死セル後親戚貴家ノ惡田ヲ悉ク作り出精セリ其爲メニ養子センモ來ルモノナキテ厭ハズ隣人ノ入嫁ヲ勸ムルアルモ家ノ潰ル、ヲ恐レテ嫁カズ只管奉公ニ怠ナシ依テ彦根藩主ヨリ其賞トシテ褒賞及米貳俵ヲ賜ヒ且善行ヲ旌表スベキ書札ヲ下渡サレタリト云フ明治二十年三月十六日死ス年七十三

性宗

性宗ハ登勝寺村稱名寺四代目ノ住職ナリ淺井ノ代官ヲ勤メ文學ニ長シ且能書ノ名アリ

生業

概農作ヲカメ養蠶業甚盛ナリ傍商業或ハ工業ニ從フモノアリト雖專業家至リテ少シ

地質

多クハ壤土ニシテ第四紀新層ニ屬シ一部ハ壤質礫土ニシテ第四紀古層ニ屬ス

産物

米、大豆、小豆、其他ノ穀類、繭、生絲、茶、澁柿等ナリ

交通

國道

北國脇往還ハ南方下草野村大字西主計ヨリ來リ僅ニ三田ノ東北部ニ入り草野川ヲ渡リ内保ニ入り八嶋尊勝寺山ノ前ヲ過ギテ小谷村大字伊部ニ至ル

縣道

鍛冶屋街道ハ坂田郡神照村大字今村ヨリ來リ姉川ヲ渡リ三田ノ中央ヲ過ギ下草野村大字西主計ニ至ル
御坊道ハ虎姫村大字五村ヨリ來リ湯次内保ヲ過ギ草野川ヲ渡リ大路三田ヲ經テ七尾村大字野村ニ至ル
大郷道ハ下草野村大字西主計ヨリ來リ三田大路ヲ過ギ坂田郡神照村大字今村ニ至ル
湯田道ハ虎姫村大字宮部ヨリ來リ内保ヲ過ギ八嶋ニ至リ北國脇往還ニ合ス
田根道ハ田根村大字旧川ヨリ來リ大字尊勝寺ヲ過ギ西野ニ至リ山西街道ヲ横ギリ虎姫村大字三川ニ至ル
山西街道ハ小谷村大字留日ヨリ來リ西野ヲ過ギ虎姫村大字三川ニ至ル

沿革

郷莊ノ沿革ハ合邈トシテ詳ナラズト雖往古由須木郷或湯須莊ト稱シ今莊西主計野村三田今村中ノ郷
(友國)下ノ郷宮部内保湯次宮(湯次)下野(野)三川平塚小照寺(野)安福寺井ノ尻ノ十數村ナリシガ後今莊今
村中ノ郷下ノ郷安福寺井ノ尻等ノ諸村ハ分離シ野野平塚野勝寺ノ三村ハ分レテ平野ノ莊ヲ興シ殘リ
八ヶ村ニ減シタルガ如シ明治二十二年宮部三川野村西主計ノ三村ヲ割キ平野莊(野野平塚野勝寺)及田根莊
ノ大依八嶋ノ二村田川莊ノ山ノ前村ヲ合シ各村ヲ大字トシ湯田村ト改稱セリ

管轄

鎌倉幕府以前

大依八嶋ハ按察使大納言朝房卿ノ領地ナリ

湯次ハ延暦年間ヨリ比叡山延暦寺ノ領地ナリ

此他各大字ハ詳ナラズ

鎌倉及足利幕府時代

全村始ハ佐々木氏次ハ京極民ノ領地ナリ即佐々木秀義近江守護ニ任セラレ子孫奕世之ヲ食ム曾孫
泰綱氏信南北分領スルニ及ビ北部六郡ハ氏信之ヲ領シ京極氏ト改ム裔高峯ニ至リ兵威衰ヘ永正十

三年家宰淺井亮政專恣終ニ之ヲ奪ヒ孫長政マデ之ヲ領ス但京極氏以後三田村左衛門大夫定元三田
村ニ住シ近邑一萬五千石ヲ食メリ

織田豊臣時代

全村天正元年ヨリ羽柴氏ノ領地トナリ後秀次ヲ經テ石田氏ノ所領ニ屬ス

内保ハ信長死後詳ナラサレドモ慶長二年石田三成ノ領地トナリ同五年ニ至ル

大路三田八嶋ハ天正十五年秀次領トナリ代官田中兵部大輔吉政(秀次ノ)配下トナリ文祿四年ヨリ石田

治部少輔三成ノ領地トナリ慶長五年ニ至ル野勝寺、西野ハ天正元年代官高田長左衛門之ヲ支配シ

同五年代官一柳勘左衛門翌六年代官小堀勘左衛門之ニ代リ同八年古田肥前守之ヲ領シ同十一年羽

柴左衛門督之ニ代ル此後亦選登詳ナラズ同十五年代官田中吉政代テ支配シ同十八年代官野村肥後守太田又助

木下半助等之ニ代リ翌十九年代官早川主馬頭文祿元年代官熊谷大膳之ヲ支配ス同四年ヨリ石田三

成ノ領地トナリ慶長五年ニ至ル

山ノ前ハ天正元年代官日下部善助之ヲ支配シ文祿元年熊谷大膳代リテ支配ス

大依野湯次平塚ハ信長死後紛紜トシテ詳ナラズ

徳川幕府時代

内保大路ハ慶長二十年井伊掃部頭直孝之ヲ領シ子孫世襲シテ直憲ニ至ル

大依ハ慶長二十年井伊直孝之ヲ領シ子孫世襲シテ直憲ニ至リ慶長二年代官多羅尾四郎左衛門ノ支配トナル

尊野ハ代官猪飼治郎兵衛ノ支配ナリシガ寛永十一年ヨリ井伊直孝之ヲ領シ子孫世襲シテ直憲ニ至ル

八嶋ハ代官日下部善助ノ支配ナリシガ寛永十五年井伊直孝之ヲ領シ子孫世襲直憲ノ世ニ至リ慶應二年代官多羅尾四郎左衛門ノ支配トナル

尊勝寺ハ代官關名右平次ノ支配ナリシガ慶長二十年代官日下部善助之ニ代リ元和三年小堀遠江守正一之ヲ領シ寛永十五年井伊直孝之ヲ領シ子孫世襲シテ直憲ニ至ル

三田ハ代官日下部善助ノ支配ナリシガ寛永十五年井伊直孝ノ領トナリ直憲ノ世慶應二年代官多羅尾四郎左衛門ノ支配トナル

山ノ前ハ代官關名右平次ノ支配タリシガ元和三年小堀正一之ヲ領シ延寶七年市岡理右衛門之ニ代リ元祿六年平岡三郎兵衛之ニ代リ翌七年本多中務大輔忠刻之ヲ領ス正徳二年雨宮新九郎支配シ同三年竹内喜左衛門之ニ代リ享保三年松平伊賀守^{後井}之ヲ領シ同十五年多羅尾四郎左衛門支配シ同二

十年太田攝津守資俊之ヲ領シ元文五年鈴木小右衛門之ニ代リ寛保三年代官石原清左衛門ノ支配トナリ天明七年稻葉美濃守正弘之ヲ領シ子孫世襲シテ美濃守正邦ニ至ル
平塚ハ石原清左衛門多羅尾四郎左衛門相尋テ支配セシガ天明六年稻葉正弘之ヲ領シ子孫世襲シテ正邦ニ至ル

湯次ハ慶長五年旗下大岡備前守之ヲ領シ子孫世襲シテ苗裔主水ニ至ル

明治初年

内保大路ハ尊野井伊直憲之ヲ領セシガ二年版籍奉還シテ知藩事ニ任セラレ之ヲ治ム四年犬上縣ニ合シ五年九月同縣廢止トナリ爾來滋賀縣ニ属ス

三田ハ井伊直憲之ヲ預リ二年版籍奉還シテ知藩事ニ任セラレ之ヲ治ム四年犬上縣ニ合ス^{以下}
大依八嶋ハ井伊直憲之ヲ預リ三年水野直次郎忠弘朝日山知藩事トナリ之ヲ治ム四年七月朝日山縣トナリ十一月犬上縣ニ合ス^{同上}

平塚ハ稻葉美濃守正邦之ヲ領セシガ二年版籍奉還シテ知藩事ニ任セラレ之ヲ治ム四年犬上縣ニ合ス^{以下}
尊勝寺西野ハ井伊直憲之ヲ領セシガ二年版籍奉還シテ知藩事ニ任セラレ三年水野忠弘代リテ之ヲ

治山以下
同上

山ノ前ハ稻葉正邦之ヲ領ヒシガ二年版籍奉還シテ知藩事ニ任ゼラレ三年水野忠弘代リ之ヲ治山以下
湯次ハ元年大津縣ニ属シ五年犬上縣ニ合ヌ同上

住家取調表

住家所有區別		住家構造區別		住家屋上區別	
種別	棟數	種別	棟數	種別	坪數
持地持家	七三五	木造	八五一	瓦葺	二〇五
借地持家	九六	土藏造		板葺	一九六六七
持地借家	三	煉瓦造		コケラ葺	一一三三
借地借家	一七	石造		萱葺	一四二八
合計	八五一	合計	八五一	合計	二五六一五

産物取調表

生絲	五〇八〇〇〇 <small>斤</small>	二二八四四〇 <small>圓</small>
酒	六〇〇〇〇〇 <small>合</small>	一五〇〇〇〇 <small>圓</small>
醬油	一四六〇〇 <small>合</small>	八七〇〇 <small>圓</small>
瓦	一五〇〇 <small>坪</small>	二〇二五〇〇 <small>圓</small>
米	七八九二〇〇 <small>合</small>	
麥	五〇八〇〇〇 <small>合</small>	
大豆	二〇四〇〇〇 <small>合</small>	
繭	一五〇八〇〇〇 <small>合</small>	
茶	四六〇〇〇〇 <small>斤</small>	
桑葉	一一七〇〇〇〇 <small>斤</small>	二五〇〇〇〇 <small>圓</small>
木材		
春蠶種	八七五五 <small>丸</small>	
夏蠶種	一〇九五〇 <small>丸</small>	
賣藥		三九九六〇 <small>圓</small>

徳川時代石高取調表

村名	徳川氏ノ初年	元祿年間	享保年間	寛政年間
内保	一二八九 ^石 六七〇	一二八九 ^石 六七〇	一二八九 ^石 六七〇	一二八九 ^石 六七〇
大路	一〇四七九四〇	一〇四七九四〇	一〇四七九四〇	一〇四七九四〇
三田	一〇三二七二〇	一一三二七二〇	一一三二七二〇	一〇八〇六五〇
大依	三三九八〇〇	三三九八〇〇	三三九八〇〇	三三九八〇〇
八嶋	一〇二五五一〇	一〇二五五一〇	一〇二五五一〇	一〇二五五一〇
平塚	二二四九二〇	二二四九二〇	二二四九二〇	二二四九二〇
尊勝寺	一一五三四六七	一一五三四六七	一一五三四六七	一一五三四六七
山ノ前	四二〇四一〇	四二〇四一〇	四二〇四一〇	四二〇四一〇
尊野	五五一一三〇	五五一一三〇	五五一一三〇	五五一一三〇
湯次	四〇七四二二	四〇七四二二	三六九六二〇	四〇七四二二
合計	七四八六六七九	七五八六六七九	七五四八八七七	七五三四五五九

明治以後地價取調表

大字名	明治二十二年以前ノ地價	明治二十二年修正地價	明治三十二年修正地價
内保	六六一四二 ^町 七七 ^坪	五一〇四六 ^町 二五 ^坪	四九四三九 ^町 二七 ^坪
大路	四六六三〇三二	三五五七三六四	三五一三九八八
三田	五八一八七八八	四五三七四〇一	四三六九六七二
大依	一三八八四〇三	一〇五〇三六九	一〇三九四四三
八嶋	五〇九四五六三	三九二〇三八六	三八三〇〇九四
平塚	九二五四一九	六八三三八四	六四三六九〇
尊勝寺	三五三八四六一	二八二一〇七四	二六三一二二四
山ノ前	一七五八七〇二	一四〇四六〇四	一三一〇一一二
四野	一八四八九二七	一五〇三〇六七	一三六九九九六
尊野	二三四五五四四	一八七四六五八	一七四八五二二
湯次	一七七五〇二五	一四二三六七一	一三二二三二四
合計	三五七七一一四一	二七八八〇六〇三	二六七二三八三八

田根村誌

位置

本村ハ東淺井郡ノ中央ヨリ稍東北ニ位シ東ハ一帯ノ山脈ヲ以テ上草野村大字大田、郷野、鍛冶屋ニ西ハ小谷山ヲ以テ小谷村大字伊部、郡上ニ南ハ湯田村大字大俵、八崎、尊勝寺、山前及下草野村大字大倉、乗倉ニ北ハ連山ヲ隔テ、伊香那高崎村、大字石道ニ界ス

面積

壹千八拾四町步

内

田 貳百七拾參町九反六畝貳拾壹步

畑 壹百町七反四畝貳拾五步

郡村宅地 參拾五町四反四畝拾八步

山林原野 六百五拾町六反參畝貳拾貳步

其他 貳拾參町貳反四步

戶數及人口

戶數 六百四拾九戶

人口 貳千九百四拾五人 内男登千四百拾七人 女登千五百貳拾六人

本村ヲ谷口、北野、龍安寺、カ丸、高畑、池奥、瓜生、須賀谷、田川、木尾、上野、小室、黒部、野田ノ十四大字ニ分ツ

各大字名稱沿革

小室ハ元彌勒寺村ト云ヒシニ信州小室ノ人小室吉左衛門小室四郎兵衛此地ニ來リ住シ村名ヲ小室ト改ムト云フ

龍安寺ハ元獨立ノ一村ナリシガ明治十五年北野村ニ合併シテヨリ今猶大字北野ノ一部(小字)トナル
須賀谷ハ天文十七年片桐孫右衛門直貞始メテ家ヲ此谷ニ起ツル時會本村ノ奥ナル岩ニ鷲ノ巢クヒシコトアリシヨリ巢ケ谷ト名ケンガ明治維新ノ時巢ケ谷ノ字ヲ須賀谷ト改ム
地勢

東西凡廿五町南北凡一里北部ハ山脈重疊從ヒテ溪谷幽深ニシテ其山脈ニ方ニ岐ル一ハ東南ニ走リ一ハ西南ニ延ビタリ本村ハ其間ニ挾マルヲ以テ北ヨリ次第ニ南ニ低下シ隨ヒテ漸々廣潤且平坦トナル

山

寺山、瀧ノ山、大谷山、堂ノ奥山、新ノ谷山、マツミ山、北谷山等ハ本村ノ東北ヨリ東南ニ延ビタル連峯中秀デタル所ノ名ニシテ寺山ハ谷口ノ東北ニアタリ上草野村ニ跨ル其所屬西面ハ谷口東南面ハ上草野村(大字高山、寺師)及本村(大字北野)等ナリ中ニ貳拾八町歩ノ入會秣山アリ之ニ關スル大字ハ谷口、野田、池奥、瓜生、木尾、高畑ナリトス瀧ノ山ハ大字龍安寺ノ東方ニアタリ西北南ノ三面ハ龍安寺ニ東半面ハ上草野村(大字西)及本村(大字小室)ニ北ノ尾半面ハ北野ニ南ノ尾半面ハ黒部ニ屬ス大谷山ハ黒部ノ東北ニアタリ西南面ハ黒部ニ東面ハ小室ニ北面ハ龍安寺ニ屬ス堂ノ奥山ハ小室ノ正北ニアリ東北面ハ上草野村(大字西)西北面ハ黒部及龍安寺等ニ屬シ南面ハ官有山地ナリ新ノ谷山、マツミ山皆小室ノ正北ヨリ東南ニ互リ東北面ハ悉ク上草野村(大字大田、西、郷野、等)ニ西面ハ小室ニ屬ス北谷山ハ連峯中最南ノ高峯ニシテ大字上野及木尾ノ境上ニ聳エ南面ハ木尾ニ北面ハ上野ニ屬ス大谷山、石河山、上谷山、西浦山、北山、中尾山等ハ本村ノ西北ヨリ西南ニ連互セル山脈中ノ高峯ニシテ概小谷山ノ餘脈ナリ大谷山ハ谷口ノ西北ニ峙テ伊香郡ニ跨ル東面ハ谷口ニ南面ハ北野ニ西面ハ小谷村(大字山田)及伊香郡(高時村大字高野)ニ北方西南面ハ谷口ニ東北面ハ伊香郡(高時村大字石道)及本郡上草野村(大字高山)ニ屬ス中ニ入會秣山六拾町歩アリ之ニ關スル大字ハ谷口、野田、池奥、瓜生、木尾、高畑ナリトス石河山ハ北野ノ西北ニアリ小谷官山ノ一部ニシテ東南面ハ北野ニ西南面ハ池奥

北野(小字龍岸寺)及小谷村(大字山田)ニ北面ハ谷口ニ属ス上谷山ハ大字池奥ノ東北ニアリ西南面ハ池奥ニ東面ノ一部ハ北野ニ他ハ皆小谷官山ニ属ス西浦山ハ大字池奥ノ西ニアリテ東面ハ池奥ニ西面ハ小谷官山及瓜生ニ属ス北山ハ瓜生ノ西北ニアリテ東南面ハ瓜生ニ北面ハ池奥ニ西面ハ小谷官山及田川ニ属ス中尾山ハ大字田川ノ中央ヨリ稍北ニアリ連峰中最南ノ小峯ニシテ東南面ハ瓜生ニ北面ハ小谷官山ニ其他田川ニ属ス

以上東西北ノ連山松樹繁茂シ秋ニ至レバ盛ニ松茸ヲ産ス雜木亦多シ

川

田川ハ谷口ノ北部ナル寺山及大谷山ノ溪間ヨリ發シ坪谷川ノ支流(北野ノ東北山中ヨリ發シテ西流ス)ヲ合セ南流シテ本村ヲ中斷シ木尾ノ西ニ至リ狐川(上流坪谷川ト云ヒ北野ヲ經テ龍安寺ノ山間ヨリ發スル堀川ヲ合セ黒部ニ入り小室ニ至リテ登リ戸川ト云ヒ上野ノ西ヲ流レテ木尾ニ入ル)込田川(木尾ノ雨水爰ニ四集シ流末ハ田川狐川等ニ塞ガレ近傍區所トナル)等ト相會シ西流シテ小谷村(大字伊部)ニ入ル

溜池

溜池ハ數ヶ所アリト雖モ大字池奥ノ地内ニアルモノヲ以テ最モ大ナリトス長サ凡六町幅五町其水流

レテ字宮川トナリ高畑ノ西端ヲ流レテ田川ニ入ル灌溉ノ利極メテ多シ池奥、瓜生、高畑等ノ立會所ナリ

官衙及公署

田根村役場ハ大字高畑ニアリ明治十八年七月高畑、瓜生、木尾、上野、力丸、野田、小室、黒部、龍安寺、北野、池奥、谷口ノ十一ヶ村聯合シテ高畑村ニ役場ヲ設置シ高畑外十一ヶ村戸長役場ト稱セリ明治二十二年六月町村制實施セラル、ニ方リ須賀谷、田川ノ二村ヲ加ヘ十四ヶ村ヲ以テ田根村ト改稱シ大字高畑ニ田根村役場ヲ設置セリ

巡查駐在所ハ大字高畑ニアリ明治二十年一月一日高畑村ニ巡查居住所ヲ創設セラレ同二十二年一月一日巡查駐在所ト改稱セラル高畑、力丸、野田、上野、小室、黒部、龍安寺、谷口、北野、瓜生、池奥ノ十一大字ハ其巡邏區域タリ(湯田村誌及虎姫村誌官衙巡查駐在所ノ部參照)

學校

田根^{尋常}小學校ハ明治八年十月ノ創立ナリコノ頃高畑ニ盈進學校アリ北野ニ文友學校アリ小室ニ六合學校アリシガ同十一年八月盈進文友ノ二校合併シ新ニ校舍ヲ高畑ニ建築シ研修學校ト稱ス此ト同時ニ木尾ニ高邁學役アリ谷口ニ谷口學校アリシガ明治十九年十月小學校令實施ニ際シ研修、六合、高邁、

谷口ノ四校ヲ併セテ簡易科田根小學校ヲ設ケ舊研修學校ヲ以テ校舍ニ充ツ同二十三年五月簡易科ノ資格ヲ改メ尋常科トス同二十六年四月改正小學校令ヲ實施シ田根尋常小學校ト改稱シ補習科ヲ加設ス同二十九年五月補習科ヲ廢シ單級ノ高等科ヲ併置シ田根^{高等}尋常小學校ト稱ス同三十年四月高等科ヲ貳學級トシ尋常科ヲ四學級トス同三十年十月ニ至リ裁縫專習科ヲ加設セリ現在兒童數尋常科二百五十一人高等科百五人裁縫專習科四十九人合計四百五人ナリ

神社名	祭神	社格	勸請年月日	所在地
波久奴神社	高皇產靈神	郷社	不詳	高畑
若宮神社	應神天皇	無格社		同
灘川神社	金山彦命	同		同
杉高神社	猿田彦命	同		同
住吉神社	神功皇后	同		池同
日吉神社	大山咋命	同		瓜生
北野神社	菅原道真	同		同

座王權現社	座王權現	同		田川
神明社	大日靈貴命	同		須賀谷
若一神社	神功天皇皇后	同		木尾
諏訪神社	健南方命	同		同
加茂神社	別雷神	同		同
天神神社	菅原道真	同		同
素盞烏命神社	素盞烏命	同		同上
日吉神社	大山咋命	同		同上
秋葉神社	瓊々杵命	同		同上
日撫神社	不詳	同		同上
稻荷神社	倉稻魂神	同		同上
大谷神社	大貴巳命	同		同上
大巳貴神社	大貴巳命	同		同上
野田神社	少彥子貴命	同		同上
野田神社	受彦保命	同		同上
三輪神社	大貴巳命	同		同上

、時和尙深ク別離ヲ惜ム管公自ラ一肖像ヲ刻ミ一面ノ鏡ヲ添ヘ之ヲ和尙ニ贈ラレシガ公ノ薨後和尙其勅勸ヲ蒙リシ人ノ肖像タルヲ以テ之ヲ祭祀スルヲ憚リ此二品ヲ故郷ナル櫻氏ノ家臣馬父地某ニ託シ櫻氏ノ山莊ニ祭ラシム後現今ノ地ニ筑紫安樂寺ヲ摸擬シテ一字ヲ建テ菅原ノ宮ト稱シ櫻氏ヲシテ其別當タラシム寺號ヲ櫻寺安樂院ト云フ天歷九年京都北野ニ公ノ廟ヲ造營アリシヨリ本村北野ノ稱アルヲ以テ人通稱シテ北野ノ宮ト稱スルニ至ルト

佛閣

寺名	宗派	開基年月日	開	祖	所在地
孤蓬菴	禪宗臨濟派	承應二年	僧	江雲	上野
西通寺	真宗佛光寺派	不詳	不	詳	同
勝光寺	天台宗	元龜元年三月	僧	潤	小室
蓮受寺	真宗大谷派	不詳	不	詳	同
眞悟庵	禪宗臨濟派	同	同	詳	同
西照寺	真宗本派	承應三年	僧	惠	同
南流寺	真宗大谷派	同	僧	宗	野田

來生寺	同	不詳	僧	賢	北野
光現寺	同	嘉曆元年	僧	正	高畑
飯田寺	同	不詳	僧	順	同
泊清寺	同	同	僧	慈	瓜生
明法寺	同	文明五年四月	僧	淨	春田
行念寺	同	寛文元年	僧	勝	同
大田密寺	真言宗眞義派	不詳	不	詳	同
勝傳寺	真宗大谷派	再建 延寶五年	僧	道	善木
即心寺	同	不詳	僧	了	同

備考

孤蓬菴ハ彌勒山ト號シ京都紫野大徳寺ノ末寺ナリ小堀備中守正之(人物部参照)ノ建立ニカ、リ小堀家累代墓碑ノ存在スル所ナリ

來生寺ノ口碑ニ曰ク延喜三年ノ頃相應和尙(神社部並ニ人物部参照)ノ父櫻賢良先キニ相應和尙ヨリ家臣馬父地某ニ託セシ菅公ノ肖像ヲ以テ一社ヲ創立シ及其別當トシテ其社境内ニ一寺ヲ建立シ

一八
割髮シテ名ヲ賢良ト改メ寺ヲ襟寺安樂院ト號シ天台宗トナル文明年間賢應ト云フ者蓮如上人ニ歸依シ眞宗兼學トナリ北野山來生寺ト改稱ス寛永二年ニ至リ賢壽ト云フモノ天台宗ヲ廢シ北野社境内ヨリ今ノ地ニ移セシナリト

古跡

小堀氏居址

大字小室ノ北方ニアリ小堀氏ハ淺井備前守長政ヨリ出ヅ初メ小谷落城ノ時長政ノ妾逃レテ阪田郡小堀村ニ隱レ住ミ長政遺腹ノ子ヲ産ム是ヲ小堀新助正次トス（正次始メ大納言羽柴秀長ニ屬シ屢戰功ヲ立ツ後秀吉邑五千石ヲ賜フ關ヶ原ノ役徳川氏ニ歸シ備中松山一万石ヲ食ム）正次ノ子正一嗣グ正一ノ子正之ニ至リ慶安元年京都ヨリ小室ニ移リ一城ヲ構フ近江淺井郡ノ内及大和和泉兩國中ニテ采地一万六百三十石ヲ領ス正之ノ子政恒（正之ノ弟淺井權十郎政尹ト云ヒ姓淺井ヲ名乗ル而シテ正次正一正之ハ名ノ一字ニ正ノ字ヲ用ヒ政尹以後ハ政ノ字ヲ用フ）嗣ギ政恒ノ子政房弟政峯相嗣ギ政峯ノ子政方ニ至リ安永年中伏見奉行トナリシガ性苛酷氏ヲ虐ケ財ヲ貪リ色ヲ漁ス天明申伏見賈人ノ訴フル所トナリ糾彈セラレシガ政方不法ニ坐シ改易セラレ領地居城等悉ク沒取セラレ慶安元年小室ニ館セシヨリ僅ニ一百四十餘年ニシテ小堀氏絶ス（人物部參照）

海北氏居址

大字瓜生ニアリ淺井氏ノ臣海北善右衛門ノ居住跡ナリ現今其跡ニ一寺ヲ建ツ泊清寺是ナリ

早水大隅守居址

大字木尾ニアリ居址今民有地桑岡トナル

とちろ橋

大字木尾ノ西北ニアリ口碑ニ曰ク古昔此處ニ六十間餘ノ長橋アリシト又曰ク太平記ニ所謂大辻ハ此處ヨリ一町餘ノ場所ナリト

大人塚

大字木尾ノ西南禿山ノ西北端ニアリ大小二個ノ小丘アリテ所謂車塚ノ形ヲナス面積凡百坪アリ

田根沼

大字木尾ニアリ今區田トナリテ僅ニ其跡ヲ存ス古昔ハ大沼ナリシト云ヒ傳フ

岩窟

本宮ノ岩ト稱ス蓋シ波久奴神社ノ本宮ナラン本社ヨリ十餘町乾ノ方小谷山中ニアル巖穴ナリ入口狹ク奥ハ廣シ入ルコト二間許ニシテ一石アリ蹴上ノ石ト云フ此ヨリ下ニ三尺下レバ平面ノ石ニテ

六七人坐スヘシ是ヨリ少シク奥ニ入レバ左方ニ一小孔アリ冷風吹き出ツ二月初午神迎十月亥禰神送等ノ神事アリ

鹿嶋神社跡

大字田川麻曾田山ニアリシト云フ(小谷村誌神社部参照)

龍安寺跡

口碑ニ曰ク往昔龍安寺ト稱スル梵刹アリ村名亦此寺號ヲ取リ若干ノ戸數寺領ニ属セシガ元龜天正ノ際織田氏ノ爲ニ破却セラレ寺籍廢絶セリ後乱平定シテ土人歸村シ舊村名ヲ維持シ今ニ至リテ變セズト今尙東光寺塚田等ノ小字アリ是レ該寺跡ノ名ヲ存スルモノナリト云フ

龍岸寺跡

相傳フ古昔龍岸寺ト稱スル巨刹アリシト今北野ノ小字龍岸寺ハ即其寺ノアリシ所ナリト云フ同所地内ニ長サ二尺三寸許ノ墓石アリ葎苔石ヲ覆フ側面ニ風火水地ノ字アリ正面文字明ナラズト雖ドモ禪定尼及元龜年等僅ニ其字形ヲ存ス土俗云淺井長政北ノ方ノ墓ナリト

大柳光現寺跡

往昔東光寺山(龍安寺地内)ニ等光寺ト稱スル寺アリシガ明德ノ頃今ノ大字野田小字大柳ニ移リ後

人物

片桐且元附片桐孝利

寺號ヲ改メ光現寺ト云フ文龜二年寺籍ヲ今ノ大字高畑ニ轉ジ野田山光現寺ト稱スルニ至ルト云フ
且元ハ須賀谷ノ始祖片桐孫右衛門直貞ノ長男ナリ其先源經基ニ出ツ經基ノ子滿仲ノ後胤片切藏人太夫爲基ノ末孫爲頼近江淺井郡ニ移リ片桐氏ト改ム其子片桐備後守直光(元龜元年六月廿八日姉川ニテ討死ス)ノ長男即孫右衛門直貞ナリ且元姿度魁傑ニシテ豊臣秀吉ニ仕ヘ秀吉ノ備中ヲ徇ヘ明智光秀ヲ討ツ共ニ與カテ大功アリ賤ゲ岳ノ役ニ福嶋正則等六人ト競ヒ進ミ向フ所前ナシ後小田原ノ役朝鮮ノ役共ニ功アリ市正ニ任セラレ茨木ニ封セラレ四万二百石ヲ領ス慶長三年秀吉薨ジ第二子秀頼立ツ尙幼少ナリシヲ以テ且元之ガ傳トナリ専心保育教導ノ任ニ當ル慶長十五年秀頼方廣寺ヲ興シ大鐘ヲ鑄シガ其鐘銘「大釋迦小釋迦互ニ主伴トナル」及「國家安康」ノ句アリ家康其已チ咒咀スルモノトセシヨリ紛糾ヲ來タセリ且元豊臣德川兩家ノ讐ヲ開カントヲ懼レ百方和融ヲ計リ遂ニ三策ヲ進メシニ却リテ秀頼母子ヲ售ルトセラレシヨリ如何トモスル能ハズ其邑茨木ニ退ク後大坂落城ノ頃駿河國丸子ニテ病死セリ(或ハ云フ大坂兵起ルニ及ビ且元共ニ大坂城ヲ守ランコトヲ請フテ許サレズ城陷イリ秀頼死スルヲ聞キ大息之ヲ久フシ劍ニ伏シテ卒スト或ハ云フ秀頼ヲ扶

ケテ西國ニ落チ行ケリト

附片桐孝利

孝利ハ且元ノ長子ニシテ本名ヲ元包ト云フ幼名ニ郎助ナリ慶長十五年十二月從五位下ニ叙セラレ
出雲守ト稱ス元和元年父卒シテ遺邑ヲ製ヒ寛永十五年ヲ以テ卒ス時ニ年三十八
片桐貞隆附片桐貞俊

貞隆ハ孫右衛門直貞ノ子ナリ小字ハ駒千代加兵衛尉ト稱ス兄且元ト共ニ秀吉ニ仕フ天正十三年從
五位下ニ叙シ主膳正ニ任セラル慶長中大坂ノ役起ルヤ兄ト共ニ攝州茨木ニ入ル元和元年和州小泉
一万六千四百石ヲ賜フ寶永四年十月卒ス時ニ年六十八

附片桐貞俊

貞俊ハ石州流茶道ノ祖ナリ貞隆ノ子ニシテ初字ハ長三郎從五位下ニ叙セラレ石見守ト稱ス又大德
寺玉室和尚ノ俗弟子トナリ法名道稱ト云フ宗關、能改菴又浮瓢軒ト號ス寛永中高林院ヲ紫野ニ創
シ玉室ヲ請ヒテ開祖トス又能ク古器ヲ鑑定ス延寶元年十一月廿日卒ス年六十九其子貞房亦茶道ヲ
能クシ聽風軒研舍ト號ス

小堀正一

正一ハ遠州流茶式ノ祖ナリ初字ハ作助秀吉ニ仕ヘ後徳川家康ニ仕ヘテ遠江ノ田一万石ヲ賜ヒ從五
位下ニ叙セラレ遠江守ト稱ス禁裏若クハ柳營ノ作事奉行ヲ勤メ元和九年伏見奉行ニ補セラル職ニ
在ルコト二十四年正保四年二月六日卒ス年六十九正一點茶法ヲ吉田重能(一書ニ古田重然)ニ學ビ
定家縁ノ書及歌ヲ能クシ又活花ノ法ニモ通セリ器物ヲ鑑定スルニ委シ宗甫大有居士ト稱シ孤蓬ト
號ス嘗テ茶事ヲ以テ將軍家光ニ師範ケリ風流雅趣一世ニ冠ケリ

小堀正之

正之ハ正一ノ長子ナリ大膳正又備中守ト稱シ宗慶ト號ス茶式ヲ父ニ受ケテ能ク其道ニ達セリ

小堀政尹

政尹ハ正一ノ次男ニシテ蓬雲ト號ス通稱權十郎ト云フ幕府ノ旗下ナリ茶法及書法ヲ父ニ受ケ有名
ノ茶家トナル又傍ラ畫ヲ好ミ山水花鳥人物ヲ能クス常ニ半井ト養ト交ル因テ狂歌ノ贊アリ元禄七
年八月四日歿ス年七十

小堀政峯

政峯ハ正一ノ曾孫ニシテ從五位下ニ叙セラレ和泉守ト稱ス享保十九年伏見奉行トナリ後若年寄ト
ナル性温和ニシテ人ニ悻ラズ常ニ曰ク柳生氏ハ武辨ヲ以テシ我家ハ茶道ヲ以テス優劣豈耻ヂザラ

シヤト乃チ意ヲ決シ斷然復茶事ヲ職トセズ悉ク之ヲ辭ス

小堀宗瑞及宗香

宗瑞ハ茶人ナリ小堀家五代ヲ繼ギテ家風ヲ傳フ其子宗香和泉守ト稱ス伏見奉行若年寄奏者役等ヲ勤メ幕府ノ寵臣ナリ法號泰清院泉州梅嶺宗香ト云フ

相應和尚

和尚諱ハ相應俗姓樫氏本村大字北野ノ人ナリ其先 孝德天皇第一皇子天帶彦國押人命ノ苗裔ナリ父性寬仁ニシテ物ヲ愛シ夙ニ郷里ノ歸敬スル所トナル和尚 淳和天皇天長八年ニ生レ 仁明天皇承和十二年十五ニシテ鎮操大德ニ隨ヒ台山ニ登ル十七歳ニシテ剃髮シ十善戒ヲ受ク學經ノ次法華經常不輕菩薩品ニ至リ大菩提心ヲ發シ不輕ノ行ヲ修メント欲ス其師慈覺大師和尚ノ行ヲ異トシ厚ク之ヲ導ク學德漸ク著シ 文德天皇齊衡三年西三條大納言良相修行謹厚ノ者ヲ求メ以テ一生ノ師トナサントス大師和尚ヲ召シテ曰ク汝良縁ノ相應ナリ仍テ相應ト名ヅケシメント是レ彼ノ大納言良相ノ一字ヲ取ルナリ後和尚靈德愈顯レ 文德天皇以後六朝ニ出入レテ殊遇ヲ受ク 清和天皇貞觀七年佛工仁算ヲシテ等身不動明王ノ像ヲ修造セシメ佛堂ヲ造立シテ之ヲ安置シ無動寺ト號ス(因テ無動寺和尚ト稱ス)同七月最澄ニ傳教大師圓仁ニ慈覺大師ノ諡號ヲ下賜セラル和尚ノ奏請ニヨ

リテナリ 醍醐天皇昌泰十八年十一月三日夜半入滅ス時ニ年八十八歳ナリ和尚登山ノ日ヨリ入滅ニ至ルマデ嘗テ醋醃油蘇ノ味陳是經宿ノ物ヲ嘗メズ女人裁縫ノ衣ヲ服スルナク桑絲葛綿 類ヲ着ズ草履ヲ著ケズ牛馬ニ乘ラズ食ハ必ズ時ヲ定メ中ヲ過グルナク浴亦時ヲ定ム行歩左右ヲ見ズ睡眠身ヲ假シ手足ヲ伸ブルナシ齋後ノ隙常ニ桐箱ヲ作り道俗ニ與ヘ諸弟子ニ贈フテ曰ク箱ハ明王印契ノ相ナリ我レ一切衆生ノ智劍ヲ開示シ内心菩提ノ實理ヲ悟ラシメント欲ス仍テ常ニ此事ヲ行フト生前度スル所ノモノ一百三十一人法ヲ受クルモノ十六人印信ヲ蒙ルモノ五六而已

生業

農作ヲ主トスレドモ蠶業亦甚盛ニシテ之ヲ以テ專業トスルモノアリ蠶種ノ製造亦頗ル多ク遠ク三丹地方ヘ之ヲ販賣スルモノアリ

地質

礫質礫土(第三紀層)壤質礫土(秩父古生層)等交錯スト雖ドモ概シテ壤質礫土(第四紀古層)多シ

産物

産物ノ主ナルモノハ米及其他ノ穀類、繭、生絲、蠶種、杉、松茸等ナリ

谷口杉ノ由來

大字谷口ハ本村ノ中央ヲ去ル北方二十餘町ノ山間ニアリ其北方谷間ノ地耕作ニ適セズ且野獸多キヨリ自ラ荒廢ニ委シ雜木蒼葭等生長セシガ偶然杉樹ノ適地ナルヲ發見シ之ヲ培養スルニ至リシガ其木理密ニシテ質堅キヨリ谷口杉トテ人ノ之ヲ稱スルニ至リ遂ニ一ノ富源トナリシト云フ其初メテ杉樹ヲ植エシハ何時ノ頃ナルヲ知ラズト雖所謂老杉ナルモノニツキテ者フルニ少ナクモ三百年以前ナラン歟

交通

里 道縣稅支辨街道

田根道ハ上草野村(大字郷野)ヨリ來リ谷坂ヲ經テ大字小室ニ入り野田、高畑、瓜生、田川ヲ過貫シテ湯田村(大字尊勝寺)ニ入ル

沿革

田根莊ノ名ハ何時ノ頃ヨリナルヲ知ラズト雖 崇神天皇ノ御宇大田田根子命ノ後裔本村田保^子ニ來住シ土地ヲ開拓ス之ヲ田根莊ト云フト又往昔天兒屋根命第三世天種子命當地ニ居住アリシ故ニ種子ノ莊ト書セシガ中世已降田根ト書スルニ至ルト是皆口碑ニ傳フル所ニシテ其眞偽判シ難シト雖日本紀壬申ノ亂ノ時右大臣中臣ノ連金ヲ淺井田根ニ斬ルノ文字アリ又源順ノ和名抄ニ田保^子ノ字アルヲ見レバ古來

田根莊ナルヲ明カナリ此莊ニ屬スルモノ谷口、龍安寺、龍岸寺、北野、黒部、方丸、野田、小室、上野、木尾、大依、八嶋、高畑、瓜生、池奥ノ十五ヶ村ナリシガ明治二十二年町村制實施ニ際シ以上十五ヶ村中大依八嶋二村ハ湯田村ニ編入セラレ其餘十二ヶ村ハ先是龍岸寺ハ北野ニ合セリ及田川莊ニ屬セシ田川須賀谷ノ二村ヲ併セ新ニ田根村ナル一村ヲ組織シ從來ノ村ヲ改稱シテ大字トセリ

管轄

按ズルニ田根莊ハ昔按察大納言朝房卿ノ領セシ所ナリ東鑑ニ近江ノ地頭佐々木左衛門尉定綱領家事務勿語ノコトヨリ大納言朝房卿御教書ヲ頼朝公ニ遣ハサレ頼朝公ノ返翰中ニ返江國田根莊務ノ事早ク隨領家使ノ下知云々ノ文字アルヲ見レバ其朝房卿ノ所領ナリシヤ明ナリ爾來管轄沿革詳ナラズト雖降テ足利氏ノ頃ニ至リ當國湖北ノ郡村ハ京極氏ノ管スル所ナレバ本村亦其管治ヲ受ケシモノナルベシ永正ノ頃ニ至リ淺井亮政京極氏ノ衰頹ニ乘ジ江北ヲ併吞セシヲ以テ本村蓋シ亦同氏ノ有トナリシナラン天正元年織田信長淺井氏ヲ亡ボシ木下秀吉ヲ坂田郡今濱城ニ置キ江北ノ守護トナス爾來豐臣氏一統シテ堀秀政ヲ犬上郡佐和山城ニ封ズ

當時谷口、龍安寺、北野、黒部、方丸、池奥、木尾、上野、小室、野田ノ諸村ハ其封内ニ入り尋テ石田三成等ノ所領トナル徳川氏一統スルニ至リ元和三年小堀正一ヲ小室ノ城主ニ封ジ爾來之レガ所領タリシ

ガ裔孫政方ニ至リ伏見奉行勤役中天明八年德川氏ノ改易スル所トナリ領地悉ク羽倉權九郎ニ引渡セ
 リ同年七月ヨリ大津代官石原庄三郎ノ支配スル所トナル弘化元年都々築金三郎石原ニ代リ大津代官
 トナル同三年ヨリ信樂代官多羅尾久右衛門ノ支配トナリ嘉永六年ニ至リ石原清左衛門大津代官支配
 ニ復ス同清一郎ニ至リ明治維新ニ會シ大津縣管轄トナリ同四年長濱縣(後大上縣)ノ管轄トナル
 瓜生村ハ江北淺井氏ノ有トナリシ時淺井ノ家臣海北善右衛門ノ采地トナル德川氏一統スルニ至リ德
 川家康ノ八男義直ノ封土ニ入り甲府附ノ采地トナル天明七年山城國淀ノ城主稻葉正弘ノ所領トナル
 裔孫正邦ニ至リ明治維新ニ際シ同二年版籍ヲ奉還シ知藩事ニ任ゼラル同三年朝日山藩ノ管轄トナリ
 同四年長濱縣ニ合ス
 田川村ハ江北淺井氏ノ有トナリシ頃ハ瓜生村ニ同ジク海北氏ノ采地タリシガ天正年間ニ至リ野村肥
 後守ノ支配トナル文祿元年能谷大膳之ニ代リ德川氏ニ至リ關名右平次ノ支配トナル元和三年小堀正
 一ノ所領トナリ延寶七年市岡理右衛門ノ支配トナル元祿六年平岡三郎兵衛之ニ代リ寶永七年本多忠
 刻ノ采邑ニ附ス正徳二年兩宮新九郎竹田喜左衛門等ノ支配トナリ享保三年藤井忠周(松平伊賀守)之
 ナ領ス同十五年多羅尾治郎左衛門之ニ代リ同二十年太田資俊之ヲ領シ元文五年鈴木小右衛門石原清
 左衛門多羅尾四郎左衛門等代ル々々支配ス天明七年稻葉正弘之ニ代リ子孫世襲セシガ正邦ニ至リ王

政維新ニ會ス爾來沿革瓜生村ニ異ルナン

高洲ハ元和中德川秀忠ノ二男忠長ノ所領トナル寛永十年征夷府ノ直隸トナリシガ後將軍家光ノ二
 子綱重(甲府中納言)ノ封土ニ歸ス正徳二年ニ至リ三河國吉田ノ城主松平伊豆守信祝ノ所領トナル享
 保十四年松平信祝違江濱松城ニ移轉スルニ及ビ本庄豐後守資訓之レニ代リ寛延二年本庄資訓丹後宮
 津城ニ移リシヨリ松平氏吉田ノ城主ニ復シ其所領トナル爾來子孫世襲シ裔孫信古(刑部大輔此時舊
 姓ニ復シ大河内氏ト云フ)ニ至リ王政維新ニ會シ明治二年版籍ヲ奉還ス即チ豐橋藩和事ニ任セラレ
 舊領ヲ管治ス同四年豐橋藩廢セラレ豐橋縣ヲ置カレ其管轄ニ歸ス同年十一月豐橋縣廢セラレ長濱縣
 ノ管轄トナル
 須賀谷ハ德川氏ノ初年ヨリ井伊氏ノ所領トナリ子孫世襲セシガ苗裔直憲ニ至リ王政維新ニ會シ爾來
 田川等ト沿革ヲ同フセリ
 明治五年ニ至リ本村悉ク滋賀縣管轄ニ合シテ現今ニ至ル

野田	上野	木尾	黒部	力丸	龍安寺	谷口	北野	池奥	須賀谷	田川	瓜生	合計
四〇九九〇一	六〇一七〇一	七六四五八二	一七五一六五	八〇二〇〇	二四六四四一	二八八一四〇	四七三八八二	一四三七三九	五一二〇〇	六八〇二六八	四九五五四	五七三一九六三
四〇九六〇一	六〇一七〇一	七六四五八五	一七五一六四	八〇八〇〇	二四六四四一	二八八一四〇	四七三八八二	一四三七三九	五一二〇〇	六八〇二六八	四九五五六四	五七三一九六二
四〇二一二〇	六五三三六四	七二七〇八〇	一六三八一〇	八〇二八〇	二三六三六〇	二六八八九〇	四四九〇六〇	一三三四三〇	五一〇二〇	二八五二六八	四九五五二四	五二三二七六九
四〇六二五三	五九七一八三	七三六〇〇〇	一六四八〇四	八〇八〇〇	二三〇八四三	二七二五〇〇	四五二四八〇	一三五三八七	五一〇二〇	六八五二六八	四九五五二四	五六〇九四六二

一三三

明治以後地價取調表

高畑	力丸	野田	木尾	上野	小室	黒部	龍安寺	谷口	北野	池奥	瓜生	田川
四五〇八四 ^四 七五	三九二七二九	二〇八五一二九	三七〇七六〇四	二八三九四一六	一七八八 ^一 六六	七五一五三四	四九一九三四	一一九五六八二	三一七六二七三	五〇八九六九	二四七〇六五三	三一六八七八
三八九二七 ^四 九三	三四一九〇〇	一七九七七八二	三二一三一 ^一 三	二四六五〇四一	一五八五六六四	六五二二三三五	四三〇六八〇	一〇五九六八三	二七五三六一六	四四五二六六	二二二六一七九	二六八四二六七
三三四二七 ^四 〇〇	三〇〇三七五	一五三〇〇八九	二七三六三三三	二〇八五七〇四	一三一五三五五	五五三〇九八	三五九三〇二	七五四九六三	一三〇七三四六	三七三七一〇	一八四三一九七	二三二七一四八

大字名

明治二十二年以前ノ地價

明治二十二年修正地價

明治三十二年修正地價

一三三

小谷村誌

位置

本村ハ東淺井郡ノ中央ニ位シ東ハ小谷山脈ヲ以テ田根村大字瓜生池奥ニ西ハ高時川ヲ隔テ、速水村大字八口市速水、
高田、ニ南ハ田川ヲ隔テ、湯田村大字山前及虎姫村大字大寺ニ北ハ山田川ヲ隔テ、伊香郡高時村大字高野、及北宮水村大字馬場上、及南宮水村大字落川
 ニ界ス

面積

八百十町九反一畝十三步

内

田 三百四十二町一反一畝六步

畑 一百四十四反九畝二十步

郡村宅地 三十六町一反十六步

山林原野 一百五十三町七反九畝

其他 一百七十四町四反一畝一步

戸數及人口

戸數 六百五十四戸

人口 三千二百三十二人 内男一千五百八十八人 女一千六百四十四人

區劃

本村ヲ伊部、郡上、美濃山、丁野、二俣、上山田、下山田、河毛、山脇、留目、別所ノ十一大字ニ分ツ

各大字名稱沿革

伊部ハ永正年間淺井氏ノ家臣居住セシ頃ハ伊部常勝寺ト稱スル小名ニシテ僅ニ十五戸ノ農家アリシノミ天正元年淺井氏亡ビテ後伊部村ノ一村落ヲ成シ以テ今日ニ至レリ
美濃山ハ丁野内ノ荒地ナリシガ明治六年脇坂周伯(人物部參照)官ニ請フテ之ヲ開墾シ人民ヲ移住セシメ以テ今ノ一村ヲ成セリ

丁野ハ往古養老野ト唱ヘシガ後丁野ト改ム北丁野、南丁野、元丁野ノ稱アリシト雖皆一村ニシテ往昔ヨリ丁野ノ稱ヲ用フ(嘉吉年間下野ノ字アリ口碑ニヨレバ田根ニ上野、虎姫ニ中野アルヨリ此等ニ對シ下野ト稱セシガ後下ノ、ヲ脱シ丁野トナレリト云フ)

上山田、下山田ハ往昔伊勢國山田ノ稱ナリ此地ニ移シ神明ヲ勧請ス依テ村名ノ起原トスト云ヘリ上下

山田ハ元一村タリシガ分村ノ年代今詳ナラズ
河毛、郡上、山脇ハ元一村ナリシガ慶長年中郡上ノ一村分離ス元和年中井伊直孝領地加増ノ際四十餘戸ヲ以テ分村セシモノ之ヲ山脇村トス河毛ノ稱古來異ルナシ

地勢

東西凡三十町餘南北凡十二町餘地形稍長方形チナス山脈東北境ニ連互シ西ハ高時川ニ沿ヒ地勢概シテ南方ニ傾斜スト雖西部中又二三ノ小山脈アルヲ以テ高低起伏一様ナラズ

山

雲雀山ハ湯田村ノ界ニ孤立ス東方ハ湯田村(大字山ノ前)ニ屬シ西方ハ本村(大字伊部)ニ屬ス淺井織田兩氏ノ戦城ニ入ル(古跡部參照)
城山一ニ岡山ト云フハ本村ノ西北丁野及山脇ノ間ニアリ山脈臥龍山ニ連リ雜木茂生ス淺井織田兩氏ノ戦城ニ入ル(古跡部參照)

臥龍山ハ大字山脇ノ北方ニアル小山脈ニシテ城山ニ連ナル樹木少ナシ
山田山ハ上山田及下山田ノ北方ニ連互シテ伊香郡ノ界チナス山脈三方ニ互リ一ハ東南ニ赴キテ小谷山ニ連リ一ハ北ニ走リテ伊香郡己高山ニ連リ一ハ西ニ延ビテ下山田ノ伊香郡界ニ至リテ盡ク小柴、

萱、松樹等多ク中ニ入會採薪所アリ

此山古來入會權ニ關スル變遷種々アリシト雖明治十九年以來本村大字上山田、下山田、二俣及連水村大字八日市ニ其權ヲ得テ分割所有セリ郷内反別百六十八町歩ナリ

飯給山ハ大字河毛ノ南方ニ孤立ス 後鳥羽天皇遊幸ノ古跡ナリト云フ(古跡部參照)

小谷山ハ大字郡上ノ東ニアリテ田根村ノ界チナス山中雜木松樹多ク盛ニ松茸ヲ産ス

全山官林ニシテ反別四百三十六町一反三畝五歩アリ大字郡上、伊部、上山田、下山田、丁野、湯田村大字尊勝寺、田根村大字須賀谷ノ入會所有地トシ依リテ以テ薪材ノ供給ヲ得ル所トス 永正三年淺井亮政ノ城ヲ築キシ所ニシテ久政及長政相繼キテ此城ニ居リ頗有名ナル城址ナリ(古跡部參照)

虎御前山ハ大字別所ノ西ニ連リ西南ハ虎姫村(大字中野)ニ西北ハ本村(大字河毛)ニ北ハ同郡上ニ踞ル孤立ノ小山ニシテ雜木松樹茂生ス淺井織田兩氏ノ戰域ニ入ル(虎姫村誌古跡部參照)

山王丸ハ小谷山中ノ一部ニシテ田根村(大字須賀谷)ニ屬ス山王社アリ(神社部參照)

川

田川ハ田根村ヨリ本村(大字伊部ノ南)ニ來リ留目、別所ヲ過ギ虎姫村(大字中野)ニ入ル

高時川ハ伊香郡(南富永村大字落川)ヨリ本村(大字丁野ノ西)ニ來リ山脇、河毛ヲ經テ南流シテ大郷村ニ入ル

中野井川俗ニさいかち井トモ云フ本村(大字丁野ノ西方)高時川ノ東ニ太閤堤アリ高時川堤防ト此太閤堤トノ間ニ

水源井アリ此井ハ山田川ノ下流俗ニをたりに稱スル處ヨリ三百間ノ間伏セ廻リテ河水ヲ潛注シ來テシムルモノニシテ是レヨリ本村(大字丁野、山脇、河毛)ヲ經テ虎姫村(大字中野)ニ入ル

餅井川ハ本村ヨリ北方ニ里餘ヲ隔テ、伊香郡(高時村大字古橋ノ西)ニ於テ高時川ニ井堰ヲ設ケ水ヲ分流シ來ラシムルモノニシテ同村(大字古橋、石道、小山、高野)北富永村(大字馬上)ヲ過ギ本村(大字二俣ノ西)ニ來リ二派ニ分レ一ハ二俣、丁野、美濃山、郡上ヲ經テ留目ノ西ニ至リ田川ニ落チ一ハ二俣、丁野ノ西ヨリ山脇、河毛ヲ過ギ虎姫村(大字中野)ニ入ル(虎姫村誌人物部參照)

山田川ハ小谷山、山田山等ノ溪間ニ發シ小谷山麓ヲ巡リテ西流シ下山田、二俣ノ二大字ヲ經テ高時川ニ入ル

官衙及公署

小谷村役場ハ大字郡上ニアリ明治十八年七月丁野、上山田、下山田、二俣、山脇、河毛、美濃山ノ七ヶ村聯合シテ丁野村ニ役場ヲ設置シ丁野外六ヶ村戸長役場ト稱シ伊部、郡上、別所、留目、須賀

谷、田川、山前、尊勝寺、西野ノ九ヶ村聯合シテ伊部村ニ役場ヲ設置シ伊部村外八ヶ村戸長役場ト稱セリ明治二十二年六月町制實施セラル、ニ方リ須賀谷、田川、八田根村ニ山ノ前、尊勝寺及西野ハ湯田村ニ屬シ餘ノ十一ヶ村ヲ以テ小谷村ト改稱シ小谷村役場ヲ設置セリ

巡查駐在所ハ大字郡上ニアリ明治十四年八月長濱警察署郡上分署ヲ設ケラレ同十九年十二月之ヲ廢セラル同二十年一月一日速水警察署郡上派出所ヲ設ケラレ同二十二年一月一日巡查駐在所ト改正セラル郡上、河毛、山脇、丁野、二俣、上山田、下山田、美濃山ノ八大字ハ其巡邏區域タリ(虎姫村誌官衙巡查駐在所ノ部參照)

學校

小谷北尋常小學校ハ明治八年十一月ノ創立ニシテ併井學校ト稱シ丁野村ニアリシガ同十九年九月一日小學校令實施ニ際シ河毛村ニアリシ興文學校ヲ廢シ更ニ併井學校ニ合併シテ尋常科龜山小學校ト稱セリ同二十四年校舍ヲ同所ニ改築ス同二十六年改正小學校令實施シ大字伊部ニ設置スル小谷小學校區域内ナル郡上一字ヲ分離シ更ニ上山田ニアリシ簡易科山田學校ヲ廢シ本校ニ合セテ小谷北尋常小學校ト改稱シ尋常科ヲ四學級トシ補習科ヲ加設ス又別ニ上山田、河毛ノ二字ニ分教場ヲ置ク(河毛ノ分教場ハ明治十九年以來繼續セシナリ)明治三十二年四月補習科ヲ二學級ニ編制セリ現在児童

數尋常科二百三十九人補習科六十四人合計三百三人ナリ

小谷南尋常小學校ハ明治八年七月十三日ノ創立ニシテ導蒙學校ト稱シ伊部村ニアリシガ同十二年淺井學校ト改稱ス明治十九年十一月一日小學校令實施ニ際シ郡上村ニアリシ鳴鶴學校ヲ併セ簡易科小谷小學校ヲ設ケ伊部村舊淺井學校ヲ以テ校舍ニ充ツ同二十六年四月一日改正小學校令實施ニ際シ大字伊部、留目、別所相合シテ小谷南尋常小學校ヲ設置シ舊小谷小學校ヲ以テ校舍ニ充テ學級ニ編制ス現在児童數五十三人ナリ

神社

社名	祭	社格	勸請年月日	所在地
鹿嶋神社	武經天兒 津屋 大主 龜	郷社	仲哀天皇ノ御宇	留目
尾崎神社	伊姬	村社	不詳	郡上
美濃山社	大山	同	明治六年七月	美濃山
岡本神社	大山	同	不詳	丁野
和泉神社	大山	同	同	上山田
日吉神社	大山	同	同	河毛

同九年村社ニ列セラル

谷田神社縁起ノ畧ニ曰ク本社ハ元山王宮ト稱ス承平五年 朱雀天皇谷田山ノ敕額ヲ下賜セラレ境
 内除税地仰セ付ケラレ並ニ 朱雀天皇ノ御像ヲ勸請シ奉リ先キノ祭神ヲ大山咋命ト奉崇セリ觀應
 三年六月八日足利氏ヨリ社領百五十石寄附社境内ニ制札ヲ立テラル元龜四年兵燹ニ罹リ社殿燒失
 ス天正十年豊臣氏ニ及ビ社境内ニ制札ヲ立テラレ谷田神社ノ草堂ヲ建設セラル安永三年草堂朽廢
 セシヲ以テ彦根侯ノ命ニヨリ再建谷田神社ト稱セラル明治四年犬上縣ノ時制札ヲ廢セラレ同九年
 村社ニ列セラル

佛閣

寺名	宗派	開基年月日	開	祖	所在地
小谷寺	真言宗新義派	神龜五年	僧	澄伊	伊部
了因寺	真宗大谷派	文明年間	僧	歡	同
成兵寺	同	寛永九年	僧	祐	郡上
本覺寺	同	文明三年	僧	真	丁野
龍本寺	真宗本派	不詳	僧	隆	同

光明寺	同	同	不	性	詳	同
觀音堂	真宗大谷派	嘉吉年間	僧	法	進	同
專通寺	真宗本派	寛永十二年	僧	了	慶	二上山
清休寺	真宗大谷派	寛永十六年二月二十日	僧	正	安	上山
禮信寺	同	寛永二十年	僧	正	同	同
聞稱寺	同	應永年間	僧	賢	善	下山
恩長寺	同	天正元年	僧	道	海	河
泉龍寺	同	天和元年十一月	僧	道	味	同
源照寺	同	天和二年	僧	慈	玄	同
願正寺	同	寶永三年八月	僧	道	入	同
長行寺	真宗本派	文明年間	僧	行	長	同
專光寺	真宗大谷派	元和中	僧	淨	教	同
願教寺	同	元龜三年	僧	龍	念	同
高德寺	同	延寶四年	僧	龍	開	別

備考

小谷寺ハ 聖武天皇神龜五年越後國泰澄律師ノ帥創ニシテ一山四十九坊アリ是ヲ常勝寺ト稱ス後
 幾星霜ヲ經テ大ニ廢頽セリ應永二十三年僧慶春此地ニ來リ其衰頽ヲ歎キ之ヲ再建ス永享元年四月
 後花園院如意輪山ノ勅額ヲ賜フ永正十一年淺井亮政祈願所ト定メラレ水田若干寄附寺號小谷寺ト
 改稱ス天正元年八月小谷城陥落ノ際兵燹ニ罹リ堂宇及諸傳記悉ク灰燼トナル天正十九年四月二十
 三日豐臣氏寺領四十四石ヲ寄セ境内除稅地トナル文祿二年僧勢傳寺域ヲ換ヘ稍南方ニ轉ヲ築造
 ス是ヲ中興トス徳川氏ニ及ビテ慶長十八年四月十日寺領四十四石附置シ境内除稅地トセラル明治
 二年ニ至リ寺領奉還遞減祿下賜セラル本尊如意輪觀世音ナリ
 觀音堂ハ往古比叡山延曆寺ノ末派ニシテ本覺寺ト共ニ欽明山長教寺ノ寺跡ナリ嘉吉年間三條大納
 言公綱卿勅勅ヲ蒙リ左遷セラル、ニ方リ其領地丁野村ニ三ヶ年間蟄居ヲ賜フ當時今村某歸依ノ觀
 音ヲ以テ本尊トシ本堂ヲ再建シ境内地所三反歩ヲ寄附シ天台宗ノ僧性心ヲ以テ住職トス後三年ヲ
 經テ公綱卿赦免アリ上洛後性心ノ弟子良頼ノ時ニ至リ本願寺ノ蓮如上人ニ歸依シ依テ改宗セリ
 本堂後方ニ三條公ノ手栽ナリト云ハル公孫樹アリ此樹乳瘤ヲ生ズ乳ニ乏シキ婦人コレヲ服スレバ
 乳汁ノ欠乏ヲ生ズルコトナシト云フ淺井久政ノ世石垣ヲ寄附セラレシヨリ相製テ信徒等大石ヲ寄
 附ス依テ今尙數多ノ大石ヲ存ス

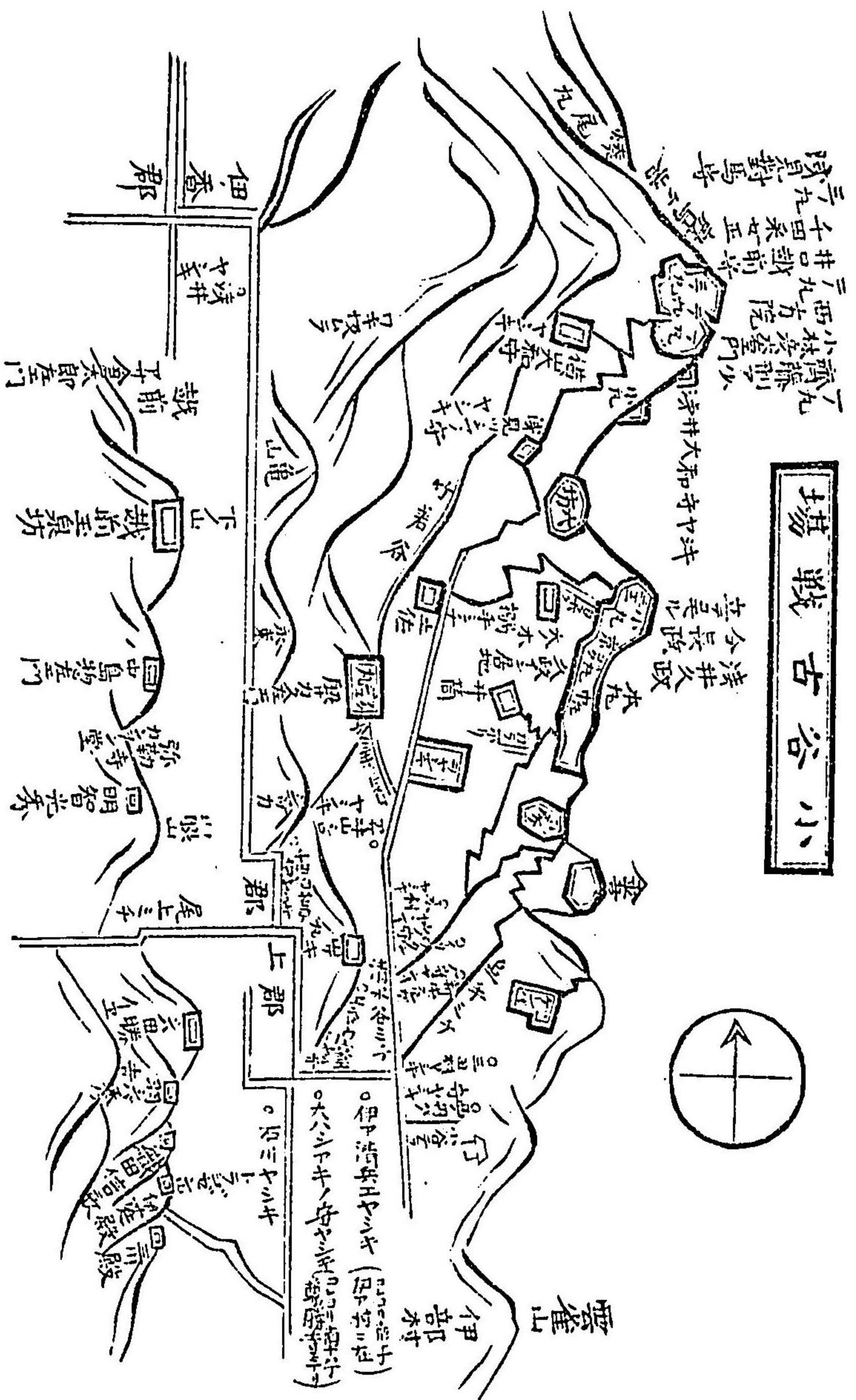
古跡

小谷城址

永正十三年八月淺井亮政京極氏ノ老臣上坂泰舜ヲ上坂城ニ攻メテ之ヲ走ラシ城ヲ取リ大野木土佐
 守(上草野村誌神社部參照)ヲシテ之ヲ守ラシメ歸テ小谷山ニ築ク十四年二月京極高峯江北ノ諸將
 ヲ發シ來リ攻ム亮政兵ヲ出シ京極氏ノ陣ヲ襲ヒ之ヲ敗ル是ニ於テ京極氏援テ六角氏ニ乞ヒ一舉小
 谷ヲ取ラントス亮政亦援テ朝倉氏ニ乞フ既ニシテ援兵交々至リ朝倉氏ノ兵ハ六角氏ヲ擊テ小谷城
 兵ハ京極氏ヲ逐ヘリ既ニシテ京極高峯其敵スベカラザルヲ知リ和ヲ請フ十二月亮政小谷ニ歸リ數
 日ヲ經テ上平ニ入り高峯ニ面ス是レヨリ江北ノ諸將皆淺井氏ニ服ス十五年五月六角氏ノ兵横山ニ
 來リ復小谷ヲ攻メントス小谷城中大ニ驚ク亮政奇策ヲ用ヒテ之ヲ走ラシ諸所ニ兵ヲ出シ遂ニ淺井
 伊香坂田高嶋ノ諸郡ヲ取ル大永元年九月六角定頼江北ヲ侵略ス亮政兵ヲ南ニ出シ大ニ番場地頭山
 ニ戰フ亮政殆危シ井口彈正代リ死ス後定頼兵敗レテ歸ル六年四月亮政長子高政卒ス享祿二年次子
 久政ヲ嫡子トシ井口彈正ノ女ヲ配シ天文八年ニ至リ亮政退隱シテ小谷城中ニ居リ同年七月病ヲ卒
 ス年五十二同二十一年久政兵ヲ南ニ出シ六角義賢ト戰ヒ利アラズ淺井ノ將士久政ヲ退ケ子長政ヲ
 立テントス長政武勇ニシテ膽略アリ兵ヲ率キ犬上愛知ニ入り六角氏ノ軍ヲ逐フ永祿十一年七月長

政織田信長ト佐和山ニ會ス是ヨリ先ギ長政信長ノ妹ヲ娶リシヲ以テナリ信長既ニ江南ヲ略取シ京都ニ入ル元龜四年四月信長越前ニ入り朝倉氏ヲ討ツ久政長政朝倉氏ヲ援ケ信長ト絶ツ六月信長坂田郡ニ入り來リ攻メントス長政援ヲ朝倉氏ニ乞ヒ大ニ姉川ニ戰ヒ(湯田村誌姉川ノ戰參照)敗レテ小谷ニ據ル三年三月信長長横山城ニ入り諸將ヲ部署シテ各所ニ陣セシメ天正元年八月大舉小谷ヲ攻ム長政其室織田氏ヲ送リテ死守ス既ニシテ久政戰勝ツベカテザルヲ量リテ自殺シ九月朝長政亦自殺ス久政年五十長政二十九長政三女アリ長ヲ淀君トス次ヲ常高院ト云ヒ京極高次ニ嫁ス季ハ羽柴秀勝ニ嫁シ後徳川秀忠ニ再嫁シ家光忠長ヲ生ミ崇源院ト號ス(人物部參照)

小谷古戰場



淺井氏居址

淺井重政ノ居址ハ大字丁野字養老屋敷ト云フ地ニアリシガ破壊シテ今其名ノミ存セリ

伊部氏ノ居址

伊部氏ノ居址ハ大字伊部ニアリ伊部爲利ノ居址ニシテ字殿屋敷ト稱シタリシガ明治八年改租ノ際
鍛冶屋田ト改稱セリ

脇坂氏ノ居址

脇坂ハ丁野ノ小字ニシテ脇坂久左衛門甚内ノ居住セシ地ナリト云フ(人物部參照)

土佐堂馬場

土佐堂馬場ハ大字河毛ニアリ大野木土佐守ノ居住セシ所ナリト云フ

佐野氏ノ居址

佐野氏ノ居址ハ大字山脇ニアリ佐野常世ノ末裔佐野常陸ナルモノ此地ニアリ其宅地ヲ寺トシ淺井
氏ノ亂ヲ避ケ越前ニ移レリ今ノ長行寺即是ナリ今猶堀等存在セリ

岡山ノ砦

元龜四年淺井長政織田信長ト戰フ淺井氏ノ援兵朝倉ノ家臣堀甚助久保助十郎平泉寺ノ衆徒玉泉坊

等之ニ立籠ル明智光秀大鳥山(大鳥山ハ城山ノ東角ニシテ字大鳥山ト云フ地ナリ)ニ陣シ越前勢ヲ
襲フ越前勢克ク去ル

又應永ノ頃京極氏ノ旗下中嶋惣左衛門之ニ居ル後淺井氏ニ屬シ姉川ニ戰死セリ
杉ノ坂

丁野村八幡山ノ北東ニアリ今ノ西丁野ハ淺井合戰ノ當時杉ノ坂ト云ヒ徳川氏ノ臣本多忠勝内藤信
成ノ斥候トシテ敵ノ形勢地ノ利ヲ見定メシ所ナリ古昔ハ此邊ヨリ隣村ニ候本堂ヘツバキ大ナル杉
林ノアリケルヨリ杉ノ坂ト云ヒシヨシ然レドモ今ハ杉樹モナク唯單ニ坂ノ名ノミ殘レリ
雲雀山

淺井織田兩氏戰爭ノ時淺見大學此山ニ據リ其東北燒尾丸ニハ淺見對馬守立籠リ織田勢小谷城ニ進
撃セン時二人内應シテ此山ヨリ攻メ登レリ

虎御前山

(虎姫村誌古勝部參照)

飯給山

古 後鳥羽帝此山ニ遊幸アリ午飯ヲ供シ奉ル其飯極メテ美味ナリシヲ以テ飯給山ト稱ス其名近郷

ニ聞ユ

大和姫遊幸遺跡

古傳ニ曰ク大字山脇ハ 垂仁天皇御宇大和姫命御遷幸ノ地ニシテ大御神ヲ勸請セル松嶋神社ハ即
其遺跡ナリト

伊部町

木村又藏井上太九郎二人爭鬪セシ時加藤清正ノ仲裁セシ物語ハ人口ニ膾炙セリ即此所ニシテ今ノ
大字伊部ナリト云フ

彌勒寺

山脇ニアリ淺井亮政山王宮(谷田神社參照)ニ詣スル時社前ニテ觀音ノ小像ヲ得テ此寺ニ納ム淺井
十二天寺ノ一ナリシト云フ

又木村又藏ノ一時居住セシコトアリシト云フ

徳勝寺跡

山田村ニアリ昔醫王寺ト稱シ僧龍山ノ開基ナリ永正年中淺井亮政之ヲ小谷山清水谷ニ移ス天正年
中四世ノ住職僧源秀秀吉ノ命ニヨリ長濱城中ニ移セリ後内藤氏之ヲ田町ノ後ニ移シ井伊氏亦之ヲ

今ノ地(平方)ニ移セリ(人物部参照)
妙法寺、智善院

兩寺共モト小谷山中ニアリシガ天正年中秀吉之ヲ長濱ニ移セリ
太閤堤

大字丁野ノ西方高時川ノ東ニアリ豊臣秀吉ノ築キシ處ナルヲ以テ稱ス
人物

淺井重政

重政ハ三條大納言公綱卿 後花園院ノ御宇嘉吉年間丁野村ニ塾居セラレシ時ノ遺子ニシテ龜若丸ト稱セシガ十六才ニシテ京極家ニ仕ヘ淺井新三郎重政ト云フ是レ即淺井家ノ鼻祖ナリ應仁文明ノ兵亂軍功アリ百貫ノ地ヲ領セリ後改名シテ新左衛門尉ト稱ス明應元年二月二日四十七才ニシテ入道シ道端ト云フ

淺井亮政

亮政ハ新三郎ト稱シ賢政ノ子ナリ永正中景重ニ謀シテ屢功ヲ立ツ又京極高家ニ仕フ後小谷城ニ居リ京極六角ノ兩氏ト兵ヲ交ヘ威ヲ四隣ニ振フ亮政人ヲ知テ善ク任ジ少ナリテ衆ニ敵シ謀テ中ラザ

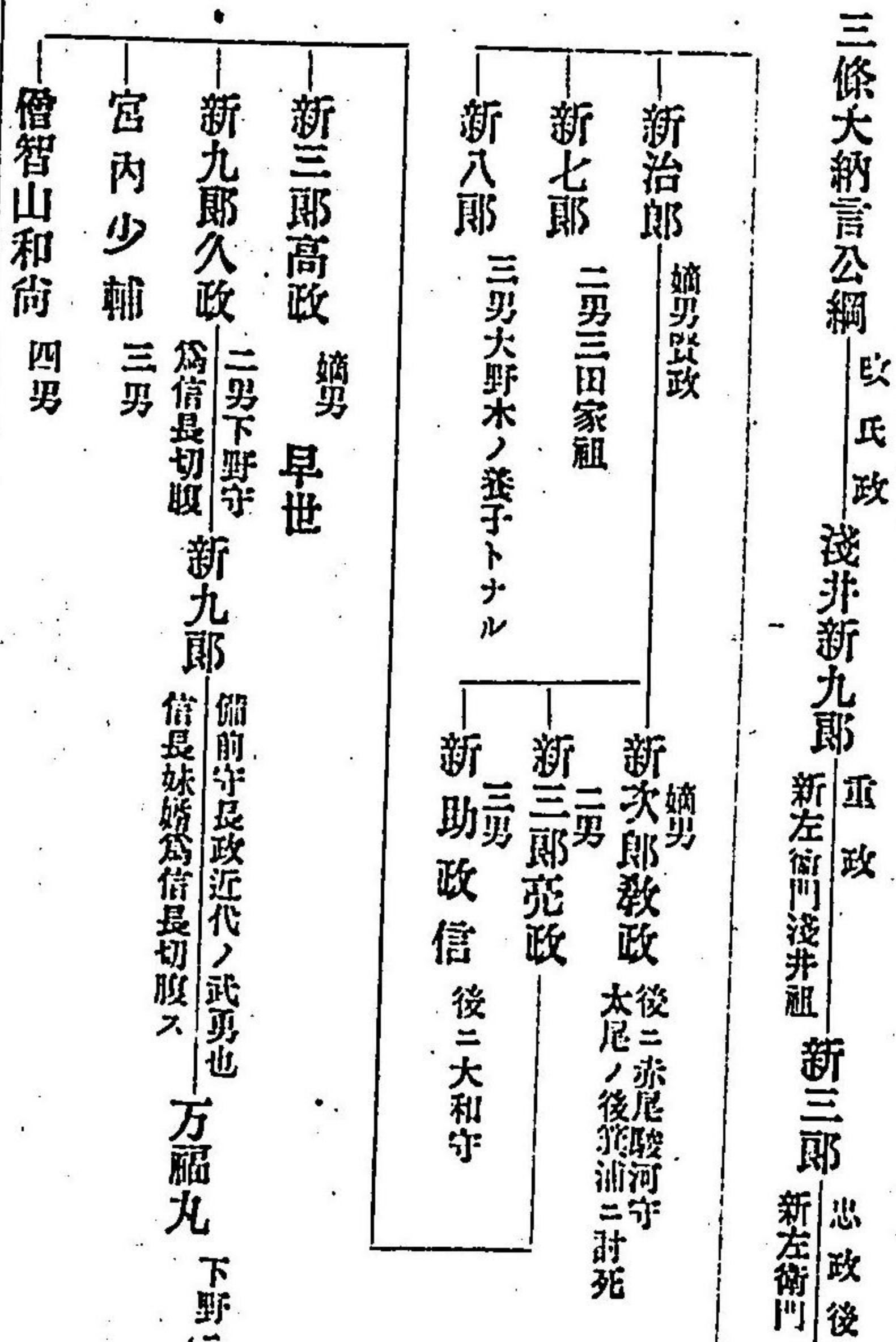
ルナシ天文八年老シテ教外ト號ス十五年七月卒ス年五十二

淺井長政

長政ハ久政ノ子ナリ幼名猿夜叉後新九郎ト改ム永祿二年六月備前守ト稱ス長政將帥ノ器量アリ群臣謂ラク必ズ淺井氏ヲ興サント年巳ニ十六老臣等相議シ久政ニ退隱セシム七年三月長政齋藤龍興ト戰ヒ大ニ之ニ克ツ龍興人ヲ使シテ和ヲ求ム長政悦テ諾ス織田信長江南ヲ徇フルニ及ビ長政抗セズ又服セズ而シテ其威武盛ナルヲ以テ之和シ其妹ヲ妻ル長政竊ニ異圖ヲ懷キ六角義賢制倉景景等ト通ズ元龜元年信長越前ヲ征ス久政之ヲ聞キ長政ヲシテ之ヲ救ハシム長政父ノ言ニ從ヒ兵ヲ出シテ信長ノ後路ヲ斷ツ信長驚慌シ師ヲ京師ニ還ヘス長政使テ越前ニ遣ハシ信長ヲ路ニ遮リ擊タント議ス義景從ハズ長政歎クテ曰ク我悔ユラクハ父ノ言ニ從ヒ義景ニ黨シ信長ト斷ツコトヲ家命此ニ盡クト六月信長兵ヲ出ス長政救ヲ義景ニ乞フ信長小谷ヲ攻メ轉ジテ横山ヲ圍ム義景兵ヲ遣シテ之ヲ救フ長政朝倉景健ト共ニ信長ト對陣シ信長ノ前軍ヲ破リ進デ中軍ヲ衝ク景健亦麾下ニ逼ル徳川家康士ヲ勵マシテ力戰ス姉川ニ沿ヒテ進ミ長政及越前ノ軍ヲ破ル將軍義昭三國ヲ和解シ 正親町天皇亦詔ヲ下シテ成ヲ行ハシム信長等遂ニ和ス天正元年八月信長義景ヲ滅シ兵ヲ近江ニ還シ所々ノ城砦ヲ陷ル秀吉京極丸嶽ニ上リ長政父子ノ通路ヲ斷ツ久政自殺ス信長小谷ヲ圍ミ人ヲシテ謂

ハシメテ曰ク卿ト相攻メ累年決セズ是レ武事ニ依ルナリ然レドモ親戚ノ好アリ請フ城ヲ出テ、盟約セバ宜ク國家ヲ保タント長政死テ失ヒ應ゼズ信長再三之ヲ諭ス長政曰ク久政無事ナラバ我亦諾セント信長陽テ久政未ダ死セズト告ク長政從者數名ト將ニ信長ノ營ニ到ラントシテ城ヲ出ツ適々久政ノ死ヲ聞キ悔イ且怒リテ自殺ス年二十九寶永九年九月正二位大納言ヲ贈ル長女茶々後秀吉ノ側室トナリ淀君ト稱ス二女京極高次ニ嫁ス三女阿江與德川秀忠ニ配シテ家光及ビ忠長ヲ生ム

淺井氏系緒畧圖



脇坂安治

安治ハ丁野脇坂ノ人ナリ父ヲ安明ト云フ永祿十一年觀音寺ニ戰死ス安治初メ宇ハ甚内永祿十二年十六明智光秀ニ屬シ奮戰シテ敵ヲ獲タリ其歲始メテ秀吉ニ謁ス天正六年三月秀吉ニ從ヒ三木城ヲ攻メテ功アリ七年八月光秀赤井直正ヲ鬼ガ城ニ攻ム安治秀吉ノ旨ヲ受ケ城ニ入りテ直正ヲ見百方招諭ス直正義ヲ守リテ應ゼズ光秀之ヲ合圍スルニ方リ安治槍ヲ執リテ進ミ遂ニ直正ヲ滅ス十一年四月秀吉ニ賤ヶ岳ニ從ヒテ七槍ノ一タリ秀吉關白トナルニ及ビ安治ヲ從五位下ニ叙シ中務大輔ニ任ズ十四年秀吉討薩ノ軍亦與リテ力アリ文治元年征明ノ軍起ルヤ安治及嘉明等先驅シテ城ヲ居リ或ハ地理ヲ巡視シテ塞ヲ築キ或ハ水軍ヲ追擊シテ敵艦ヲ奪フ等屢々大功アリ慶長元年春兵ヲ收メテ歸ル二年四月高虎嘉明嘉隆等ト共ニ再ビ朝鮮ニ航シ七月大ニ韓軍ヲ破リ虜船十六艘ヲ取リ八月南京城ヲ拔ク三年四月蜂須賀家政ト共ニ蔚山ノ後援トナリ明人ト戰ヒテ之ニ克ツ六月功ヲ以テ三千石ヲ加賜セラル關ヶ原ノ役中納言秀秋ニ從ヒ西軍ヲ撃ツ事畢リテ行營ニ至リ命ヲ受ケ進ミテ佐和山ノ城ヲ攻メ之ヲ拔ク十四年封ヲ大洲ノ城ニ徙シ二万石ヲ加フ元和元年致仕三年京都西洞院ノ故邸ニ間居ス寛永三年八月卒ス年七十三子孫幕府ニ仕フ

僧龍山、雄山

龍山及雄山、山田村暨王寺ノ僧ニシテ龍山ハ淺井亮政參禪ノ師雄山ハ淺井長政參禪ノ師ナリ
僧源秀、及文洲

源秀ハ小谷山清水谷德勝寺四世ノ住職ニシテ豊臣秀次習字ノ師ナリ天正年中秀吉ノ命ニヨリ長濱
ニ移リ慶長十三年九月三日遷化セリ

文洲亦德勝寺ノ僧ニシテ楊岐ト稱ス御家流ノ假名ヲ能クス慶長十六年七月朔日淺井三代ノ靈菩提
ノ爲德勝寺再建ノ儀假名文ヲ以テ崇源院ヘ欸狀ヲ上リシコトアリ

河毛氏

河毛氏ハ河毛村ノ人其先河毛三左衛門ハ淺井氏ニ仕ヘ姉川ノ役ニ戰死ス其子河毛内匠豊臣家ニ仕
フ其後八世ニシテ敏雄ニ至ル敏雄淀藩ノ士某氏ニ就テ和歌ヲ學ブ又平田翁ノ著書ヲ熟覽シテ專ラ
排佛ノ論ヲナス晩年竹生嶋ノ阿官ニ補セラレ其職ニ終ル

泉甚兵衛

泉甚兵衛ハ丁野ノ人ナリ其事歴今詳ナラズト雖宮社堂宇ノ建築及佛具ノ彫刻ヲ能クシ其名大ニ著
レシト云フ

脇坂友七

友七ハ丁野ノ人ナリ至孝ニシテ能ク業ヲ勵ム此事遂ニ藩主彦根侯ニ聞エ孝紋付羽織地褒賜セラレ
タリ死後今ニ至ル十數年

淺井郡丁野村

友七

一 孝紋付羽織地

壹

右之者親ヘ事方萬事孝養ヲ盡シ家内陸敷
相暮シ農業モ出精致候趣相聞孝心奇特ノ
至ニ候依之件之御品被下候者也

午三月

彦根藩廳

香水孫六

孫六ハ丁野ノ人ナリ幼ヨリ孝心深ク又能ク業ヲ勵ム年十八九ノ頃彦根藩主ヨリ孝行ノ賞トシテ錢
三貫賜若干下賜セラレ後再ビ孝行ノ賞トシテ米若干ヲ賜ハル

淺井郡丁野村

孫六

右ハ孝心奇特農業出精候者ニ付御褒美ト

シテ御米被下者也

慶應四年七月

彦根藩廳

其後若干年ヲ經テ孝心昔テ一日モ變ゼズ親ヲ奉養スルコト益々厚キヨリ藩主大ニ之ヲ感ゼラレ襦袢並ニ木綿鼠色無地五ツ紋付綿入及同様ノ羽織下賜セラレタリ今尙存命セリ
今并させ

させハ上山田ノ人ニシテ天保四年ニ生ル父ヲ三右衛門母ヲとやト云フ家世々農ヲ業トシケルガ生計共饒カナラズさせ幼ヨリ性質朴ニシテ廉直常ニ兩親ヲ尊ビ敬ヒ平素儉素ヲ旨トシ衣食ノコト曾テ父母ヲ愛ヘシメズ出入亦必ズ父母ニ告グ長ジテ同村人ニ嫁ス是レヨリ又夫ニ仕ヘ貞操ニシテ能ク艱苦ニ堪ヘ専心家業ヲ勉勵セリ一村中之ヲ稱揚セザルハナシ其事遂ニ彦根候ニ聞エシカバ候其孝貞ニ感シ孝字三ツ紋奉書上衣ヲ賜ハル時ニ年三十三歳ナリキ後家ヲ河毛ニ移シ今尙存命セリ
上野

いハ伊部ノ人ナリ曾テ上野八右衛門ヲ迎ヘ一男二女ヲ生ム後故アリテ男ヲ八右衛門ニ二女ヲ己ニ引受ケ離縁スルコトナレリ茲ニ至リテいハ二女ト共ニ家ニ居リ農業ヲカメ或ハ人ニ傭ハレ

ナドシテ晝夜働キ居リシガ八右衛門ハ彘ニ引受ケシ男ヲ養育スルコト能ハズシテ之ヲいハニ突キ付ケタリシカバいハ又之ヲ受取リ併セテ三人ノ子ヲ抱ヘ血汗ヲ流シテ勞働セリ然レドモ纖弱ナル婦女子ノ身ヲ以テ數口ヲ養フコトナレバ其困苦ノ狀見ルモノ涙ヲ催サイルモノハナカリキト斯クテいハ正直ヲ旨トシ年貢等一刻ノ納期ヲ誤ルコトナク夙夜ニ勤メテ怠ルコトナカリシカバ此事遂ニ朝日山藩主ニ聞エ米一俵ヲ賞與セラレタリ

淺井郡伊部村

八右衛門後家

米壹俵

5 1

其方儀夫不縁ニ相成候後實體ニ相働キ極

難澁ニ候得共心掛宜敷御年貢等速ニ相納

候趣相聞奇特ノ事ニ付件ノ通被下候者也

辛未六月

朝日山藩廳

爾來家産漸ク成リ生活ノ安全ヲ得ルニ至リ二女ハ他ニ嫁セシメ男子ニハ妻ヲ娶リ今尙餘生ヲ樂ム年六十有七

上野源三郎

源三郎ハ伊部ノ人ニシテ性至孝幼ヨリ父母ノ命ヲ守リ敢テ少シモ其命ニ背キシコトナカリキト云
フ源三郎十五歳ノ時父病ニ罹リシカバ日夜介抱意ヲザラリシカド更ニ効ナク其將ニ死セントスル
時源三郎ヲ枕頭ニ呼ビ寄セテ曰ク此頃郷俗類レ夜毎ノ惡戯甚厭フベシ汝必コレニ與ミスルコトナ
ク業ヲ勵ミテ母ニ事ヘ父ヲシテ地下ニ暎セシヨメト源三郎ハ父ノ遺訓ヲ深ク膽ニ銘シ盡ハ熱心農
業ニ従事シ夜ハ必母ニ侍リ草鞋ヲ作リナドシテ外ニ出ヅルコトナク益々養ヲ盡シカバ此事遂ニ
朝日山藩主ニ聞エ米壹俵ヲ賜ハリ厚ク其孝ヲ賞セラレタリ後母亦病ヲ得テ死ス源三郎悲哀極リナ
ク涙ナガラ野邊ノ送リチナセリ今年四十七妻子アリ

脇坂周伯

周伯ハ天保八年六月九日ヲ以テ丁野ニ生ル資性質朴事ヲ處スル敏捷機ニ臨ミテ斷アリ頗忍耐力
ニ富ム家世々醫ヲ業トシ歴代周伯ヲ以テ通稱トス氏ハ即チ二代周伯トス斯ノ時家勢大ニ衰ヘ生計
ニ苦ム十四歳ノ時彦根ニ至リ澁谷周平ノ塾ニ入り夜毎ニ吹笛按摩ヲ營ミ其得ル處ヲ以テ學資ニ充
ツ爾來苦學スルコト七年廿一歳ニシテ郷ニ歸リ醫業ヲ開ク其業大ニ行ハルト雖頻年農家凶作ノ爲
報酬薄ク到底家政恢復ノ目途ナキヲ以テ知人新潟ノ藥商某ニ頼リ醫業ヲ開カント欲シ旅費貳圓ヲ

隣人ニ借り救賀ニ至リ便船ヲ求ニ時期冬至ニシテ船ノ解纜スルモノナク己ムヲ得ズ來陽渡海ノ期
マデ此地ニ於テ開業シ幸ニシテ繁榮セシモ常ニ醫術ノ拙ナルヲ遺憾トシ遂ニ函館ニ至リ舊藩旗下
ノ土栗本鋤雲ノ塾ニ入り露國公使官ノ醫官ニ就キ修學ス偶實父疫病ニカ、リ危篤ナルヲ報ズ依テ
修學中途ニシテ歸ル是ヨリ郷里ニ在リテ醫業ヲ開ク元治元年春天然痘ノ流行ニ際シテ郡内ヲ東走
西馳シ種痘ノ必用ヲ説キ無料ヲ以テ接種スルモ尙應ゼザルモノアリ依テ各村庄屋ト謀リ説諭ヲ加
フ爾來種痘ノ貴キヲ辨知シ善ク行ハル、ニ至レリ人々其德ニ感テ病客頗ニ増加シ門前市ヲナスニ
至ル明治六年以來開墾ニ従事シ又蠶業ニ熱心ナリキ明治九年以來區長トナリ學區取締醫務取締等
公私ノ事業ニ拮据勉勵セリ氏が事業中最モ著シキモノハ荒廢ニ歸セシ難田ヲ引受ケ新村ヲ開キ及
製絲ノ改良ヲ計リ蠶種ノ販路ヲ擴張スル等はナリ其他蠶種貯藏法北海道移住開拓事業等苦心慘澹
タル考案アリシト雖未ダ成功ヲ見ザルニ天年ヲ借サズ身ト共ニ埋没セシム惜哉

生業

古來農作ヲ專トセシガ明治ノ初年ニ至リ傍養蠶ヲ以テ生計ヲ助クルニ至リ同十五年ノ頃ヨリ蠶兒ヲ
飼育スルモノ漸次増加シテ今ヤ農桑共ニ甚盛ナリ

地質